

環境カウンセラー千葉県協議会  
設立 25 周年記念誌

NPO 法人  
環境カウンセラー千葉県協議会  
EC千葉

環境保全活動

# 25 年のあゆみ

2024 年 4 月

特定非営利活動法人  
環境カウンセラー千葉県協議会

# 設立 25 周年記念誌

特定非営利活動法人  
環境カウンセラー千葉県協議会



## 記念誌発行にあたって

私たち、特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会（EC 千葉）は、千葉県での環境保全の向上を目的にした団体です。

環境に関する知識と経験を有し、環境省に登録した環境カウンセラーと環境活動に賛同する千葉県在住者を中心に構成された会員が一体となって、千葉県内の自治体や学校等と協働してフィールドワークを中心に活動しています。

1998年2月に任意団体 環境カウンセラー千葉県協議会として設立、2003年7月にNPO法人化し、「特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会」として現在に至っています。

2008年2月に設立10周年を迎え、それまでの貴重な経験をまとめて、記念誌「10年のあゆみ」を発行しました。

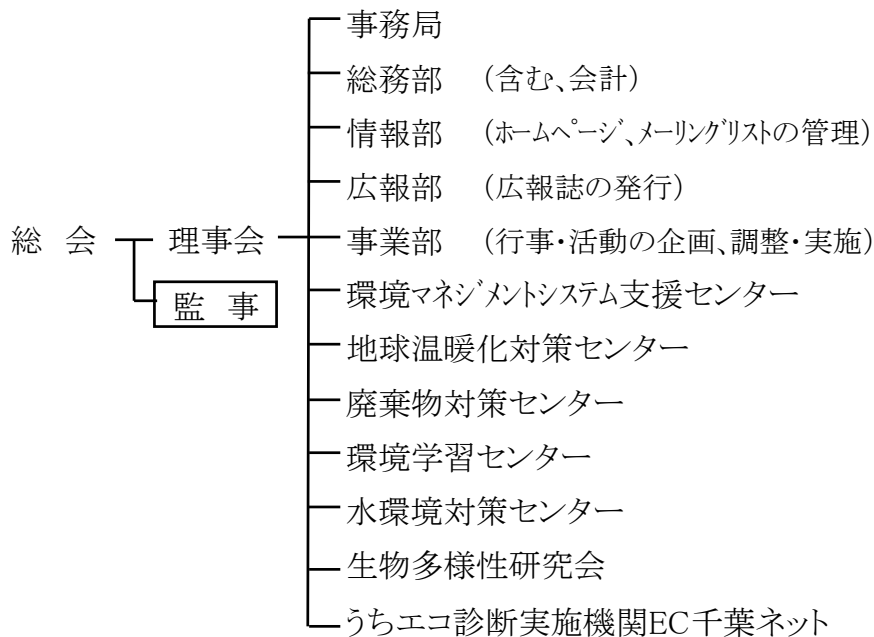
さらにこのたび、設立四半世紀の25周年を迎え、その後15年間の足跡とこれからの展望をまとめ、記念誌「25年のあゆみ」として発行することになりました。

本紙の構成は、下記の組織を牽引してきた歴代理事長の挨拶、各部・各センターの活動、環境カウンセラー全国連合会協力活動、また、会員から寄せられた千葉県各地域での独自の環境活動、思い出、および会員の一言メッセージです。巻末の資料編には『役員・役職一覧』および『年表』をまとめました。

みなさまには内容をご覧いただき、EC千葉にさらなるご指導とご要望などをお寄せいただけたら幸甚に存じます。

（編集責任者）

[EC千葉組織図]



付記：EC千葉の「EC」は、Environmental Counselorsの略。

## 目 次

あいさつ			
設立 25 周年記念誌発行にあたり	理事長	吉田 昌弘	1
歴代理事長挨拶—EC千葉設立25周年を迎えて			
設立25周年を記念してお礼のご挨拶	初代理事長	土田 茂通	2
EC千葉設立25周年にめぐりあえて	第2代理事長	戸村 泰	3
EC千葉の活動が四半世紀をこえて	第3代理事長	國廣 隆紀	4
持続可能な団体を目指して	現理事長	吉田 昌弘	5
1. 各部・各センターの活動			
事務局			6
総務部			10
情報部			11
広報部			12
事業部			13
環境マネジメントシステム支援センター			19
地球温暖化対策センター			25
廃棄物対策センター			28
環境学習センター			31
水環境対策センター			40
生物多様性研究会			45
うちエコ診断実施機関EC千葉ネット			47
2. 環境カウンセラー全国連合会への協力活動			
			51
3. 千葉県各地域における環境活動			
(1) 「松戸ケナフの会」および「アースコン・マツド」の活動	土田	茂通	54
(2) 地域におけるエコアクション21(EA21)普及活動	有馬	富穂	55
(3) 鎌ヶ谷市における環境活動	倉田	智子	56
(4) 谷津田と出会って	佐藤	素子	57
(5) そでがうら地球温暖化対策地域協議会の活動	國廣	隆紀	58
(6) SENの会—25年間の活動の思い出	中嶋	滋	59
(7) 環境カウンセラー登録から船橋の環境保全活動へ	井町	臣男	60
(8) 木更津市でのささやかな地元貢献活動	吉田	昌弘	61
(9) 「わが家の太陽光発電システム」の実績を報告	土田	茂通	62

4. 思い出(あんなこと・こんなこと あったでしょう)		
(1) (故)見並勝佳様との思い出	橋本 正	63
(2) EC 千葉になる前の初代会長(故)村上利子様とご一緒に	河井 恵子	63
(3) (故)小角 浩様からの心温まるメッセージ 生前の松村利治様、うしろ姿からの学び	佐藤 ミヤ子	64
(4) 設立 25 周年の EC 千葉で、多くの方々に出会えて	國廣 隆紀	65
(5) 市民活動と環境カウンセラー	倉田 智子	66
(6) 創立 25 周年に寄せて	綿貫 沢	67
(7) 電磁調理器開発の成功を支えた 3 つの幸運	荒野 喆也	68
5. 一言メッセージ		69

#### 資料編

- ・役員・役職一覧
- ・年表

#### 編集後記



## 設立 25 周年記念誌発行にあたり

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会  
理事長 吉田 昌弘

特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会 (EC 千葉) が、昨年設立 25 周年を迎えることができたのは、ひとえに会員皆様方のこれまでの活発な活動とご協力の賜物と感謝申し上げます。

2008 年 (平成 20 年) に発行された「10 年のあゆみ」に記載された先輩諸氏 (歴代の代表、会長、理事長をはじめ、各部・センターの役員・役職) のご努力にあらためて感謝申し上げますと共に、これまでの労苦を分かち合い、温故知新として、次のステップに向けて英気を養いたいと思います。

また、これまで、多大なご支援を賜っている関係行政機関や各種団体 (環境省、関東地方環境事務所、千葉県庁、千葉県環境財団、千葉商工会議所、全国地球温暖化防止活動推進センター (JCCCA)、NPO 法人環境カウンセラー全国連合会 (ECU)、千葉市をはじめ県内の各自治体や業界団体・市民団体などの皆様には、心から感謝申し上げますと共に、今後ともご指導、ご鞭撻のほどどうぞよろしくお願い申し上げます。

思い起こせば、1992 年のリオデジャネイロでの地球サミットに端を発し、日本でも 1996 年 (平成 8 年) に「環境カウンセラー登録制度」が創設され、環境に関する広範かつ専門的な知識や豊富な経験を有する人材の活躍が期待されるようになりました。

環境カウンセラー千葉県協議会は、環境カウンセラーに登録された会員有志により 1998 年 (平成 10 年) 2 月 8 日に設立されました。

以来、この四半世紀の間に環境問題は大きな変貌を遂げています。経済優先の社会から、経済と環境の共生社会と移り、今や、環境問題の解決は将来の私たちの未来に大きく影響 (直結) するところまでに迫ってきています。

「2030 年迄の持続可能な開発のための 17 のゴール」いわば「SDGs の展開」、「2050 年までのカーボンニュートラル宣言」、「エネルギー・食糧をはじめとする循環型社会の構築による自給自足への取組み」など、美しい陸と海の自然環境や豊かな人間社会の構築、そして、青い地球を残す責務が私たちに課せられています。

このたび、設立 25 周年にあたり、この流れに呼応して培ってきた知識と経験を活かし、地域社会への普及啓発を目指した環境保全活動について、EC 千葉のこれまで (2009 年から 2023 年) の 15 年を中心に記念誌としてまとめました。

そしてこれからを展望する時、多様化する価値観の中で、未来の子どもたちに残すものは何かを考えながら、仲間同士でパートナーシップを発揮し活動していきたいと思えます。

これを機に、会員一人ひとりが来し方を振り返り、今後の EC 千葉の在り方や持続可能な団体としての「道しるべ」としてとらえることも本誌の目的の一つでもあります。先輩諸氏の歩んできた活躍の足跡を踏まえ、次世代を担うスタッフの皆さんと共に、地元や社会に広く貢献していきたいと存じます。





## 設立 25 周年を記念してお礼のご挨拶

NPO 法人初代理事長 土田 茂通

理事長経験者の一人として、お礼のご挨拶申し上げます。

環境カウンセラー千葉県協議会が NPO 法人になっての初代理事長に選ばれた私は、環境カウンセラーの存在価値を認めてもらえるために、本協議会の活動に努力してきました。

私は、昨年 88 歳の米寿を迎え、家族からお祝いを受けました。

協議会の設立総会において「世の中に散見される老人会とは異なり、新しい活動や価値を生み出す社会団体にしたい」と意識して申し上げました。今でも思い出します。

私は、ECU 全国連合会の推薦により、2009 年 6 月 10 日付けで環境大臣賞（大臣：斉藤鉄夫氏）を頂きました。会員の皆様へお礼を申し上げます。

特定非営利活動法人(NPO 法人)環境カウンセラー千葉県協議会(EC 千葉)の理事長を経験した方々とその活動組織の部長さんは、実社会における経済活動を生き抜いてきた豊富な体験を、本会の活動に取り入れて発展させて頂きました。県や各市町村における環境改善の担当者と協力しながら、25 周年を迎えました。会員の皆様と共に喜びたいと思います。

NPO 法人化後の 20 年間に土田理事長→戸村理事長→國廣理事長→見並理事長→吉田理事長と引継ぎ、担当部署の責任部長と実施内容を企画し、活動体制を組み立てて、会員のご努力とご協力を得て、県や市町村の環境推進担当部門の方々からご指導を受けながら、成功裡に推進したことを、会員の皆様へ報告と感謝申し上げます。

- 1) 小中高等学校等の環境教育の実施に協力し、指導者を派遣しました。（船橋北高校、茂原高校、木更津工業高等専門学校、鎌ヶ谷西高校、松戸第一中学校等）
- 2) 毎年開催のエコメッセちばの展示会に、活動状況のパンフレットを作成し配布してきました。その説明者を派遣してきました。
- 3) 千葉県、千葉市、船橋市、市川市、松戸市その他市町村等が主催する環境展示会や環境講座に、当協議会より担当者を派遣、環境改善活動を行ってきました。
- 4) EC 千葉の初代代表の(故)小角浩さんから、自然観察会（尾瀬、上高地、十和田八幡平、出羽三山等）で、強い印象の残るお話を拝聴しました。お酒の大好きな小角さんとは忘年会等で楽しく過ごさせて頂きました。旅先で、一夜同室になり、環境庁勤務時代の楽しいエピソードや環境庁の秋の運動会で奮闘された等の回顧談をお伺いしました。
- 5) EC 千葉初代会長の(故)村上利子さんは、千葉県や千葉市の行政の内容に詳しく、(故)小角初代代表から会の運営を引き継がれ、私たちの活動を強力に進め、特に千葉県消費者団体連絡協議会の運営にも深く関与され、当会の発展に寄与されました。
- 6) 戸村理事長、國廣理事長、(故)見並理事長、吉田理事長には担当部署の責任部長等とともに得意の専門分野を展開して、EC 千葉の幅広く高度な内容を展開して頂きました。
- 7) コロナウイルスの蔓延が日本並びに全世界に蔓延して、本会の活動は数年間縮小せざるを得なかったが、昨年再開の目途がついてきました。会員の皆様と活動を再開して、なお一層の展開に力を注ぎたいと思っています。

## EC 千葉設立 25 周年にめぐりあえて

第 2 代理事長 戸村 泰

現在ロシアによるウクライナへの軍事侵攻、新型コロナの世界蔓延、さらにデジタル変革(DX)・AI 革命、激しい少子高齢化の中、環境関連の最も重要かつ深刻な問題はいよいよ世界各地で現実には発生する激しい気候変動と脱炭素社会への転換問題だろう。そして、我々の日頃の生活や EC 千葉の活動にも大きな変化が起こりつつある。こうした激動の時期に過去を振り返り、未来を考える 1 つの切っ掛けにと、EC 千葉の設立 25 周年記念としてこの「25 年のあゆみ」の発行を立案・計画された吉田理事長はじめ現執行部の方々の卓見に心から敬意を表したい。

現在は 2050 年までに脱炭素社会の実現をいかに達成させるかの大変革時代と考えるが、EC 千葉にとって、それと似た活動の時代があった。そのエピソードを記し当会の先輩方の活動を紹介しこれからの当会のありように参考になればと考えている。

1997 年 12 月に COP3 国際会議で京都議定書が採択された。日本に課せられた温室効果ガス排出削減目標値達成のための活動の推進に国と自治体は「地球温暖化防止活動推進員制度」(2003 年 6 月)を全国に展開し、市民・企業に達成への協力・努力を願った。一方、EC 千葉は 1998 年に任意団体として知識と経験を持つ先輩会員により設立され、2003 年には NPO 法人化し活動を拡大していた。

千葉県は「ちば 2003 年アクションプラン・地球温暖化防止に係る取組」として、「県主催・EC 千葉を実施運営団体」として「千葉県地球温暖化防止活動推進員養成・ブラシュアップのための研修会」を推進員、県内自治体の関係職員及び関心の高い一般市民を対象に県内 3 地域(佐原市、柏市、袖ヶ浦市)で実施することになった。この事業がきっかけとなり、以後、県は NPO・企業との協働事業を起し、「県と NPO との協働事業提案制度」や「NPO パワーアップ補助金事業」、「県委託事業」等の制度が作られ、EC 千葉も積極的に提案・応募する事になり県とのつながりがより強くなっていった。以下に当会と県との協働事業の活動事例をあげる。

2005 年度:「EA21 普及セミナーの開催」(松戸市、市川市、佐原市、君津市)、2006 年度:「県立船橋北高校での総合学習(環境学習)授業の実施」、2007 年度:「高校の環境学習授業」の横への展開、2008 年度:「浄化槽使用者への水質保全に関する啓発教育の実施」および「環境学習地域教材作成事業」等々。

EC 千葉のこのような活動を通じて県内の環境保全に寄与したことが評価され、千葉県知事より 2009 年 11 月に EC 千葉が団体として県知事賞「文化の日千葉県功労者表彰」を受け、さらに 2010 年 6 月に環境大臣より「地域環境保全功労者表彰」を受けた。おそらく千葉県の環境団体として大臣賞を受けたのは最も早い内の 1 つだと思っている。中でも嬉しかったことは、2003 年に実施した「地球温暖化防止活動推進員養成・ブラシュアップ研修会」の参加者は無条件で「地球温暖化防止活動推進員」の資格になることを千葉県は開催年から 5~6 年経っても認めると公表していたことだった。

今後も脱炭素社会への変革活動は、長く厳しいことが予想されている。EC 千葉として、県・自治体(市町村)と市民との間を取り持つ活動を県・自治体のニーズをつかみ、提案し協働事業などにしていきたい。すでに「うちエコ診断事業」、各地の公民館講師派遣活動、小学校での水環境授業など独自の活動が育ちつつあり、会員と新しい入会者が活動を通して活躍・育成される事を心から期待している。

## EC千葉の活動が四半世紀をこえて

### 第3代理事長 國廣 隆紀

1996年9月の環境カウンセラー登録制度のスタートにより、1998年2月に(故)小角 浩代表を中心として設立された環境カウンセラー千葉県協議会(EC千葉)が、今年で四半世紀を迎えたことは誠に喜ばしく、その当事者として、これまでご指導、ご協力をいただいた関係各位に感謝を申し上げたい。

私は、1998年に環境カウンセラー(EC)に登録した。翌年5月にEC千葉に入会してTEPCO地球館での講演会に初参加した。4名の先輩が環境保全についての思いを講演され、感銘を受けたことを鮮明に記憶している。

当時、話題になり始めた温暖化対策には省エネが決め手とされ、EC千葉では家庭の電力消費量を記録できる「省エネナビ」を取り付けて省エネを啓発する事業を始めた。(故)村上 利子初代会長の千葉市へのはたらきかけで数10台購入してもらい、会員が手分けして各家庭に持ち届けて啓発を展開した。私もEC千葉で購入した。「省エネナビ」を取り付けさせていただいたご家庭に半月後に訪問すると、何もデータが記録されていなかったという苦い思い出もある。

2003年にNPO法人になったばかりのEC千葉は、土田 茂通初代理事長のもとで、千葉県から「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会」の実施委託を受けた。EC千葉にとっては初めての受託業務であった。県内3地域でそれぞれ月1回、3回開催して延べ約480名に及ぶ参加を得、推進員の増員に尽力してEC千葉の行動力を示すことができた。

企業の環境保全活動を支援する環境マネジメントシステム支援センターではISOやエコアクション21のコンサルティングや企業環境セミナーなどのセミナー活動にも領域を広げた。

2009年5月には、戸村 泰第2代理事長のあと私が第3代理事長を拝命し、その11月にはEC千葉は、それまでの活動を評価されて千葉県知事表彰を、翌2010年6月には環境大臣表彰を受け、それら表彰式に戸村泰前理事長と共に出席させていただいた。

さらに2011年3月には生活協同組合ちばコープ殿(その後、生活協同組合コープみらい殿に統合)から「地域かがやき賞」として表彰され、金一封をいただいた。折しも発生した東日本大震災が発生したため、いただいた金一封をそのまま生活協同組合ちばコープ殿を通じて義援金とさせていただいた。

また同年6月には水環境学会関東支部殿からは水環境対策センターが千葉県環境生活部との協働で行う浄化槽適正使用啓発事業について「水環境保全活動奨励賞」をいただいたこともうれしいできごとであった。

2011年当時の会員数は、過去最大で129名にもなり、賑やかな活動があり、みずからの活動だけでなく、環境省への政策提言を2件も行っている。

2013年5月、(故)見並 勝佳様に理事長をバトンタッチし、さらには吉田 昌弘第5代理事長に引き継がれ、安定した運営が続けられていることは頼もしい。

企業での在職年齢の引き上げもあって会員も減少傾向にあり、その平均年齢も高齢化しつつあるが、行動に加えて、「脱炭素化をはじめ持続的な地球環境」をめざして、叡智と経験を活かした政策提言などで、EC千葉のさらなる進化を期待したい。

## 持続可能な団体を目指して

現理事長 吉田 昌弘

今般、設立 25 周年を迎えることができましたのは、これまでの諸先輩のご尽力・ご支援の賜物であり、現会員の皆様とともに感謝申し上げます。

前第 4 代理事長(故)見並勝佳様が掲げた「外部に開かれた活発な活動を楽しく」、この理念を引き継ぎ 5 年目になります。この理念をさらに「地域社会に貢献し、お役に立てるような活動を推し進める」ことをモットーに、EC 千葉が一丸となって進むことを目指してきました。しかしながら、十分な成果が得られているとは言い難いのが現状です。

一つには、3 年余りのコロナ感染症の流行が原因であったと思います。これにより、最も大切にしていた会員間のコミュニケーションが取れなかったこと、さらに会員の高齢化が進んでおり、若手会員の勧誘と引き継ぎが十分に出来なかったことがあげられます。

まず、「ボランティア精神」なるものの限界が、年齢と共に低減される事にも繋がっているようにも思います。「DX (デジタルトランスフォーメーション)」や「AI 化」、コロナ禍の影響で盛んになった「オンライン Web 会議」など、パソコン操作の苦手な世代にあっては、時代の波に翻弄されてきたようにも思います。

一方では「生涯現役」で世の中に貢献しようという気概もみられ、地球や次世代の未来に向け真摯に取り組み、何らかの貢献を考えている仲間達の存在があるのも事実です。

また、[男女雇用機会均等法]による女性の社会進出の過程で、EC 千葉が受け皿になることも期待していきたいと思います。

昨今は、専門知識や経験が豊富であっても、時代の波と進歩が速く、複雑且つグローバル化社会が進みつつあり、その対応にお互いが補完し合う重要性が増しているとも考えます。

人類共通の地球規模の環境問題、そして地域が抱える幅広い身近な環境保全の課題、これらに対処するには、カウンセラーとして、どう向き合うべきか？ 個人が抱えるリスク(あえて限界とも言えます)を最小化し、お互いが支え合える円滑な人間関係を作ることが「楽しい活動となり、地域に感謝される団体」に繋がっていくのではないかと考えています。

これからの活動に期待することは、「持続可能な組織」を維持発展し、環境問題にさらに深く関心を持ち、地域に貢献しようという意思と志を持つ仲間たちの団体を目指したいとの決意でいます。その一環として、EC 千葉の運営面で 3 役会議(仮称)を設け、理事会の事前準備と協議を行い、実際の活動の相互報告・連絡・相談に当たってきました。

今後の課題は、理事・役職の方々は勿論のこと、それぞれの会員とのコミュニケーションの方法です。

コロナ禍に端を発した「オンライン会議」が通例化し、どうしてもお互いの意思疎通不足と本音の話し合いをする機会がなかなか持てないのが現状です。しかもこれからは地域社会や自治体との中で活躍している EC 千葉の仲間とも密に情報交換し、EC 千葉が、本来あるべき姿、つまり、将来を見据えた環境保全のニーズに呼应し普及・啓発の促進役として、皆さんと共有化していきたいと思います。そして、25 周年を迎えるにあたり、みなさまのご協力と「知恵と工夫」をいただきながら、今後も期待される「EC 千葉」の知名度を上げ、感謝される団体を目指したいと考えます。

## 各部・各センターの活動

### 事務局

事務局長 井町 臣男

#### 1. あゆみ

事務局は1999年度に設けられた。2003年度から専任の事務局長が置かれ、EC千葉活動全般の事務連絡・調整を行える本格的機能ができた。各部・各センターと連携を取り、EC千葉の環境保全活動推進へ事務局として努力している。

#### 2. 活動内容

##### 2.1 総会

2019年度まで毎年5月千葉市市民会館特別会議室にて通常総会を開催。2020年度から2023年度は新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、オンライン会議形式（Web会議）で議決は書面表決とした。また、2023年度は初めての試みとして、会場とオンラインの併用で開催した。各総会の詳細は、次ページの第1表に記載。

総会準備では、前年度の事業報告および決算報告、監査報告、次年度の事業計画案および予算案等の作成と承認業務が行えるよう関係部署と協働している。

##### 2.2 理事会

定例理事会を原則毎月第1日曜日に、「千葉市民活動支援センター」において開催。EC千葉の運営の基本として年12回行っている。2020年の新型コロナウイルス感染症の感染拡大により、2020年4月はオンラインによる理事会連絡会を開催。5、6月は新型コロナウイルス感染症拡大にともない中止。その後、9月からは「千葉市民活動支援センター」会議室とオンライン会議（Zoom）を併用して開催している。

事務局は開催案内を作成して理事・監事および会員へ発信、同時に会員のオブザーバー参加を呼びかけている。理事会当日は、議長補佐としてサポート、議事録を作成し会員へ発信、活動状況を共有化している。

2023年6月度理事会より、新たに「役職連絡会」として、多くの会員が参加して意見交換し合える場を設けた。

##### 2.3 事務処理、関係先への届出

通常総会后、役員変更届の提出、登記変更など、NPO法人に求められている適正な手続きを千葉県、法務局、県税事務所等に行なっている。

2021年度EC千葉の事務所移転に伴い、千葉県船橋県税事務所に届出および法人市民税減免申請をし、これまで同様減免された。

##### 2.4 環境省や千葉県の事業への取組み

EC千葉として、環境省、環境省関東地方環境事務所、県及び市町村や県環境財団、環境カウンセラー全国連合会（ECU）など多くの団体との窓口として連携強化を図り、各部・各センターが環境学習および環境保全・啓発活動を効果的に推進していけるよう努力している。

(第1表)

**2008～2023年度 通常総会開催記録**

(なお、この間に通常総会以外の臨時総会等は開催されていない。)

通常総会	開催日	開催場所	議案	会員数	出席者数
第6回	2008 5 25	千葉市民会館会議室	第1号議案 平成19年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成19年度監査報告 第3号議案 平成20年度事業計画案ならびに予算案	120	102名 (委任状51名含む)
第7回	2009 5 24	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成20年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成20年度監査報告 第3号議案 平成21年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の改選	128名	98名 (委任状49名含む)
第8回	2010 5 23	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成21年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成21年度監査報告 第3号議案 平成22年度事業計画案ならびに予算案	126名	106名 (委任状53名含む)
第9回	2011 5 15	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成22年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成22年度監査報告 第3号議案 平成23年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の改選	127名	96名 (委任状41名含む)
第10回	2012 5 27	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成23年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成23年度監査報告 第3号議案 平成24年度事業計画案ならびに予算案	124名	108名 (委任状52名含む)
第11回	2013 5 26	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成24年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成24年度監査報告 第3号議案 平成25年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の改選	116名	89名 (委任状41名含む)
第12回	2014 5 25	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成25年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成25年度監査報告 第3号議案 平成26年度事業計画案ならびに予算案	114名	105名 (委任状50名含む)
第13回	2015 5 17	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成26年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成26年度監査報告 第3号議案 平成27年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の改選	112名	105名 (委任状55名含む)
第14回	2016 5 22	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成27年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成27年度監査報告 第3号議案 平成28年度事業計画案ならびに予算案	112名	105名 (委任状55名含む)
第15回	2017 5 21	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成28年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成28年度監査報告 第3号議案 平成29年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の改選	100名	96名 (委任状52名含む)
第16回	2018 5 20	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成29年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成29年度監査報告 第3号議案 平成30年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 定款の変更(法定の貸借対照表等の広告をホームページで行うため。)	93名	87名 (委任状43名含む)
第17回	2019 5 19	千葉市市民会館特別会議室	第1号議案 平成30年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 平成30年度監査報告 第3号議案 2019年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 定款の変更(事務所の移転) 第5号議案 役員の選任	85名	78名 (委任状34名含む)
第18回	2020 6 14	総会事務局をEC千葉事務局に設置 オンライン会議形式(Web会議)で開催	第1号議案 2019年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 2019年度監査報告 第3号議案 2020年度事業計画案ならびに予算案	84名	書面表決(69名) うち、表決委任(7名) ※Web会議出席23名
第19回	2021 5 30	総会事務局を千葉市民活動支援センター会議室に設置 オンライン会議形式(Web会議)で開催	第1号議案 2020年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 2020年度監査報告 第3号議案 2021年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 定款の変更(事務所の移転) 第5号議案 役員の選任	81名	書面表決(71名) うち、表決委任(8名) ※Web会議出席26名
第20回	2022 5 22	総会事務局を千葉市民活動支援センター会議室に設置 オンライン会議形式(Web会議)で開催	第1号議案 2021年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 2021年度監査報告 第3号議案 2022年度事業計画案ならびに予算案	76名	書面表決(62名) うち、表決委任(6名) ※Web会議出席18名
第21回	2023 5 21	千葉商工会議所小会議室 実会議とオンライン会議形式(Web会議)との併行開催	第1号議案 2022年度事業報告ならびに決算報告 第2号議案 2022年度監査報告 第3号議案 2023年度事業計画案ならびに予算案 第4号議案 役員の選任	68名	書面表決(45名) うち、表決委任(7名) ※Web会議出席5名

## 2.5 受賞等

EC千葉として、2009年11月の文化の日には千葉県知事から環境保全に尽力したと表彰され、翌年6月には環境大臣から地域環境保全の功績を表彰された。EC千葉会員で環境大臣や千葉県知事から表彰された方々を第2表に示す。

また、EC千葉は2011年3月生活協同組合ちばコープ（現名称：生活協同組合コープみらい）から社会貢献賞「ちばコープ地域かがやき賞」を受賞、同年6月には、日本水環境学会関東支部から水環境対策センターの浄化槽に関する啓発活動は地域の水環境保全に重要な業績であるとされ「水環境保全活動奨励賞」をいただいた。

(第2表) **表彰受賞者一覧**

環境大臣表彰			ECU理事長表彰		
年度	氏名	備考	年度	氏名	備考
2009	土田 茂通	環境保全功労者	2009	二宮 恵	環境保全功労者
2009	有馬 富穂	地域環境保全功労者	2010	大山 長七郎	環境保全功労者
2009	野口 久	地域環境保全功労者	2010	林 正徳	環境保全功労者
2010	EC千葉	地域環境保全功労者	2010	廣川 一男	環境保全功労者
2010	戸村 素	地域環境保全功労者	2011	服部 達雄	環境保全功労者
2018	辻川 毅	地域環境保全功労者	2011	藤田 忠宏	環境保全功労者
2019	上口 清彦	地域環境保全功労者	2011	野口 久	環境保全功労者
2022	倉田 智子	地域環境保全功労者	2012	辻川 毅	環境保全功労者
2023	國廣 隆紀	地域環境保全功労者	2012	茂利 晃	環境保全功労者
2023	大西 優子	地域環境保全功労者	2013	倉田 智子	環境保全功労者
※大西優子様は、「船橋のかざぐるまを守る会」からの推薦			2013	佐藤 素子	環境保全功績者
千葉県知事感謝状			2013	鈴木 優子	環境保全功績者
年度	氏名	備考	2014	荒野 喆也	環境保全功労者
2008	野口 久	環境功労者	2014	本間 格	環境保全功労者
2009	EC千葉	環境功労者	2015	古畑 義正	環境保全功労者
2017	上口清彦	環境功労者	2015	上口 清彦	環境保全功労者
2021	見並 勝佳	環境功労者	2016	種本 利治	環境保全功労者
2022	國廣 隆紀	環境功労者	2018	青木 誠	環境保全功労者
2023	久保田隆	環境功労者	2018	久保田 隆	環境保全功績者
			2019	河井 恵子	環境保全功績者
			2019	佐藤 ミヤ子	環境保全功績者
			2020	有馬 富穂	環境保全功労者
			2020	見並 勝佳	環境保全功労者
			2021	橋本 正	環境保全功労者
			2021	志澤達司	環境保全功労者
			2021	森川礼子	環境保全功績者
			2022	阿部 勲	環境保全功労者
			2022	吉田昌弘	環境保全功労者
			2022	山影隆男	環境保全功績者

## 3. 行政・他団体との連携と協力

### 3.1 環境カウンセラー全国連合会（ECU）に参画

EC千葉は、2000年4月に環境カウンセラー全国組織化のためのプロジェクトチーム発足に参画し、2001年9月8日環境カウンセラー全国連合会の設立総会が開催された。

### 3.2 千葉商工会議所との協働

1998年、環境庁の「環境管理・監査普及推進事業」として、千葉県主催で「企業環境セミナー」を開催することを提案し、第1回が開催された。1999年から千葉県の指導で「エコメッセちば」の賛同事業として千葉商工会議所との共催を始めた。2005年の第1回「エコアクション21普及セミナー」や「ISO講座」でも共催を始め、今日に至っている。



### 3.3 千葉県環境財団との業務協定

エコアクション21の普及拡大に資するために、エコアクション21地域事務局千葉県環境財団の業務に関する協定書を2005年4月1日に締結し、非常勤事務局員を派遣、ホームページの作成及び維持管理、地域運営委員会および地域判定委員会に委員を推薦するなど業務運営に協力してきた。

### 3.4 環境教育等支援団体に指定

2014年9月22日付で、EC千葉は、環境教育等促進法（略称）第10条の環境教育等支援団体として環境大臣及び文部科学大臣名で指定された。3団体目にEC千葉の活動が認められたことは大変な名誉である。

なお、2022年7月時点での指定団体は、EC千葉を含め7団体。毎年事業年度終了後、環境教育支援団体事業報告書として活動実績(事例)及び次年度事業計画書を提出。

### 3.5 うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット認定

2016年6月、「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」が、環境省の「うちエコ診断実施機関」に認定された。2023年7月21日現在、全国に63機関ある。

活動の詳細は、各部・各センターの「うちエコ診断実施機関」を参照。

### 3.6 千葉県 ちば環境学習応援団に登録

2017年9月25日EC千葉は、「ちば環境学習応援団」に申請し登録された。「ちば環境学習応援団」とは、県民、学校、地域団体等の自主的な環境学習及び環境保全活動を支援するため、講師派遣や施設見学、体験活動などに協力できる事業者等を登録し紹介する制度である。毎年事業年度終了後、環境学習センターおよび水環境対策センターの活動報告書を提出。

### 3.7 千葉県 SDGs パートナー登録制度に登録

2021年11月に新たに創設された千葉県の「ちばSDGsパートナー」に申請し、翌年3月に登録（登録番号615）された。EC千葉の活動をSDGs17の目標に紐付けし、環境・社会・経済のテーマ別に具体的な行動目標を設定し取り組んでいる。登録された企業・団体等は、2023年8月15日現在1925団体。

## 4. 組織の運営

2003年度に専任の事務局が置かれ、戸村泰局長と河井恵子次長が就任。その後、下記の方々が事務局の運営に尽力されてきた。

	[事務局長]	[次長]
2004年度	戸村 泰	河井恵子、古畑義正
2005～2006年度	服部達雄	野口康男
2007～2012年度	服部達雄	長谷川三喜雄
2013～2016年度	服部達雄	
2017～2018年度	橋本 正	服部達雄
2019年度	國井茂樹	服部達雄
2020～2023年度	井町臣男	服部達雄

## 5. 次のステップに向かって

各部・各センターと協働し、環境関係NPO 法人としての実力と知名度の向上をはかり、千葉県の環境保全向上へ貢献していきたい。



## 総務部

総務部長 河井 恵子

### 1. あゆみ

EC 千葉が設立された 1998 年、総務部は企画部および広報部とともに組織されてスタートした。当初は、会の活動全般を取りまとめる部署であったが、その後、会の発展にともない事務局や事業部が新設されて業務を移行してきた。

2015 年に新しい会計基準を策定し、会計に関する諸課題を整理した。

### 2. 総務部の業務

総務部では、EC 千葉の会員数の把握と管理、事業に関わる会計および総務業務を担っている。また、作業品質の向上や効率化等についても、今後の課題として取り組んでいる。

#### 2.1 会員数の把握と管理

年度	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015
会員数	120	128	126	127	124	116	114	112
年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023
会員数	112	100	93	85	84	81	76	68

\*会員数(総会時)は、2017 年度から減少傾向が顕著になり、2020 年度からの新型コロナウイルス感染騒動で、さらに減少となった。

\*EC 千葉でも、少子高齢化は例外ではなく、新規会員の募集は今後の継続的な課題となっている。

#### 2.2 会計業務 (会費徴収を含む)

\*会費用振込票準備・発送・入金確認

\*各種セミナー資金管理 (入出金等)

\*出納帳管理・事業部別収支まとめ

\*源泉徴収計算・納税・源泉徴収票作成 (マイナンバー確認)

\*法定調書作成・税務署への報告

#### 2.3 総務関連業務

\*関連領収書準備・送付管理

\*総会準備および開催

\*会員名簿の管理 (入会、退会)

#### 2.4 寄付金

EC 千葉の法人化当時から毎年継続的に多くの会員から寄付があり、活動資金に大きく寄与している。2008 年以降だけでも累計で約 500 万円に及んでいる。感謝したい。

### 3. これからの展望

会員の高齢化には勝てず、入会者数よりも退会者数が多くなっているのが現状である。人生 100 年、生涯現役で活躍してほしいと政府は奨励している。年齢に関係なく楽しんで活動できる、SDGs な環境カウンセラー千葉県協議会を皆さんと築いていきたい。

## 情報部

情報部長 山畑 祐哉

### 1. あゆみ

情報部は2000年2月の総会で設立され今日に至っている。主たる役割はホームページの維持管理とメーリングリストの維持管理である。

### 2. ホームページの公開

1999年10月、EC千葉の公式ホームページの簡易版が会員の有馬富穂の協力（個人契約）で開設された。3年後の2002年にプロバイダーを変更して多くの情報を盛り込めるようになった。2012年2月、更に容量の大きいサーバーをもつ現在のさくらインターネット㈱に変更してホームページの充実を図った。

ホームページの維持管理には専門的な知識が必要で、かつホームページ内の整理が複雑なため、管理者を一人に限ってきた。現在の管理者は秋葉信夫（2021年～現在）で、有馬富穂（1999年～）、見並勝佳（2012年～）に次いで3人目である。

### 3. メーリングリストの導入

会員間の情報交換を効率よくすることを目的にメーリングリストを作成・管理している。2000年5月に有馬富穂及び野口康男の協力で開始された。まずは全会員、役職者、環境マネジメントシステム支援センター（略称、EMS支援センター）のリストをそれぞれ作ってコミュニケーションを図った。当然のことではあるが、活動グループの変化に応じて必要なリストの改廃を行ってきた。プロバイダーも何度か変更されて現在のさくらインターネット㈱に至っている。現在は、「EC千葉会員」「理事・監事」「役員・役職者」「事務局」「EMS支援センター」「水環境対策センター」「廃棄物対策センター」などのメーリングリストを運用している。

### 4. オンラインミーティング (Zoom) による会議方式の併用

2020年の新型コロナ感染拡大（4月、8月）による外出自粛で、一堂に会した理事会等の開催が難しくなった。そこでWEBでも理事会等に参加できるようにZoomサービスをNECネットエスアイ㈱と契約した（2020年11月）。

理事会、EMS支援センターの研修会・運営連絡会、環境学習センターのみんなの広場、水環境対策センターの部会およびうちエコ診断で広く活用している。一般参加者が集まる企業環境セミナーやEA21普及セミナーにおいても活用した。

ただ、オンライン形式では参加者の様子・しぐさをお互いに見ることができず、自由に発言するタイミングづくりが難しい。そのため、会議等の充実性に課題がある。

### 5. これからの展望

ホームページの有効性を求めて逐次改善していきたい。そのためには、ホームページの運用目的を改めて確認し、EC千葉会員間で共有して記事掲載を更新していかねばならない。そして、専門的知識を必要とする維持管理者の充実を図らねばならない。

また、会員がオンラインシステムを簡便に使用して少人数で電話のように会話できる仕組み等、色々な活用を検討していきたい。

## 広報部

広報部長 山畑 祐哉

### 1. あゆみ

広報部は、EC 千葉の広報誌「環境カウンセラーちば」の発行が主業務である。

EC 千葉の設立 3 か月後の 1998 年 5 月に創刊号を発行した。それ以後、毎年、複数回発行し、現在は第 61 号に及んでいる。

それらバックナンバーは、EC 千葉のホームページに掲載して、会員・会員外の方がいつでも閲覧できるようにしている。

2008 年度からのあゆみとして、広報部長は、2008 年度が倉田 智子、2009 年度から國廣 隆紀、2015 年度から服部 達雄、2017 年度から事務局が実務を担当し、2019 年度から見並 勝佳、2022 年度から山畑 祐哉が引き継いで現在に至っている。

一方、広報誌「環境カウンセラーちば」の編集主担当は、2004 年度から倉田 智子が 2008 年度まで、その後、國廣 隆紀が 2014 年度まで、さらにその後、服部 達雄が引き継ぎ現在に至っている。編集主担当が、広報の編集計画を立案して、会員各位に投稿をお願いし、集まった原稿を割り付けて編集。多いときは 9 名もの広報部員が校正、校閲の協力をし、印刷し発行している。

### 2. 活動

広報誌の編集方針は、EC 千葉の活動の計画および報告が主であり、会員には EC 千葉の活動の情報についての共有化と参画意識をもってもらうことである。外部の方々には EC 千葉の活動を知っていただき、さらに EC 千葉に対してご指導、ご協力をいただければとの認識である。

したがって、会員個人の主張や報告が少なくやや硬い内容になっているが、会員の高齢化に伴い、サロンの記事の掲載も今後の課題である。

広報誌のトップページの題字は、初代広報部長の佐藤 素子がデザインされたものを今でも使用しており、種々の関係団体に広報の配架をお願いする際に、目立ちやすいとの評判をいただいている。

広報誌の編集は、記事の大小に応じて割り付けしやすく、かつ改行によるムダ削減を考慮して横 2 段組みを主とし、読者にも読みやすいことをねらいとしてきた。

記事は、創刊号から明朝体を採用しているが、英数字を半角にすると肉が細く読みづらいので、英数字のみは字体を Century としてボールドにするというこだわりもある。

EC 千葉の認知度向上のため県内の市町村や商工会議所・商工会に送付して配架をお願いしたこともあり、2000 部を印刷し定例会のあと参加した会員に総動員でそれらの発送に手伝ってもらった。現在は EC 千葉のホームページからダウンロードして読んでいただいている。

### 3. これからの展望

広報部のアウトプットである広報「環境カウンセラーちば」は、EC 千葉の唯一の機関誌であると共に、千葉県内の環境保全のあゆみを語る語り部として、あとを継ぐ人たちに参考になるべく一層の充実を図っていきたい。

## 事業部

前事業部長 橋本 正

### 1. あゆみ

事業部は、1998年 EC 千葉設立時に、各種の環境に関する行事を担当する部門として企画部の名称でスタート、環境保全活動の普及を始めた。

2000年にEMS支援センター、2001年に廃棄物対策センター・地球温暖化対策センター、2003年に環境学習センター、2008年に水環境対策センターが設置され、それぞれのセンターにおける活動が軌道に乗り EC 千葉の活動は充実してきた。以降、事業部の役割は、環境セミナー、環境公開講座、宿泊研修会、エコメッセちばへの参加、各種環境フェア参加、大多喜町プロジェクト、工場施設見学会、等に注力してきているが、各センターへ移行するものもあって、活動内容は少しずつ変化してきている。

### 2. 環境セミナー

EC 千葉設立以来、毎年継続的に開催され、2023年で29回を数える。2002年までは種々の団体で活躍している環境カウンセラーを講師に迎えていたが、2003年以降は総会特別講演会として講師には環境各界で著名な方をお願いして高レベルの講演に、時には公開講演を含め、会員の見識レベル向上に寄与している。

環境セミナーの開催内容（「回」は、EC 千葉設立以来の開催回数）

回	実施日	講演者	セミナー内容
17	2008.5.25	国立環境研究所 芦名秀一氏	低炭素社会の構築に向けたロードマップ
18	2009.5.24	海洋研究開発機構 菊地隆博士	地球温暖化について、北極海の現状
19	2010.5.23	環境省地球環境局 小野洋室長	地球温暖化対策の動向とチャレンジ 25
20	2011.5.15	東北大学 須藤隆一博士	水環境保全の新たな展開
21	2012.5.27	千葉大学 倉阪秀史教授	再生可能エネルギー基盤の経済社会
22	2013.5.26	かながわ環境カウンセラー協議会 小林料理理事	公害環境の歴史と環境カウンセラー
23	2014.5.25	国立環境研究所 高橋潔主任研究員	地球温暖化リスクに関する最新の科学的知見
24	2015.5.17	東京工業大学 野上健治教授	地球化学的手法による火山噴火予知
25	2016.5.22	千葉工業大学 先川原正浩教授	夢をつかむカーボット研究の最前線
26	2017.5.21	(株)ウェザーニューズ 安部大介取締役	地球温暖化の影響と最近の気候気象
27	2018.5.20	国立極地研究所 菅沼悠介博士	地質時代の日本地名が刻まれるか、チバニアン
28	2019.5.19	国立環境研究所 江守正多副センター長	地球温暖化と異常気象、我々の向き合い方
	2020	新型コロナの感染防止のため中止	
	2021	同上	
	2022	同上	
29	2023.5.21	国立海洋研究開発機構 山形俊男博士	熱帯の海と異常気象

### 3. 環境公開講座

環境公開講座は、EC 千葉設立後 7 年目の 2005 年（平成 17 年）からはじまっている。千葉大学や千葉県環境研究センター等から講師を招き、水問題やエネルギー問題等広範囲の環境問題を当初、年 2 回実施された。2020 年からはコロナ感染問題で中断となり、以降環境セミナーに代わっている。

2008 年以降の 7 回の内容を次表に示す。

**環境公開講座の開催内容**（「回」は、EC 千葉設立以来の開催回数）

回	実施日	講演者	公開講座内容
8	2008.12.6	オルガノ株式会社 中村日出夫氏	水を知る－飲料水から超純水まで
9	2010.1.31	銚子地方気象台 鈴木淳総務課長	地球温暖化で何が起きるか、気象の問題
10	2011.1.22	朝日新聞科学医療 Gr 中山由美記者	南極から見た地球環境
11	2012.8.27	放射線医学総合研究所 武田志乃主任研究員	日常の暮らしと放射線
12	2013.8.31	国立極地研究所 藤井理行博士	極地の氷から地球温暖化将来を探る
13	2014.8.23	元朝日新聞論説委員 岡田幹治氏	ミツバチ大量死は警告する
14	2018.1.27	国立環境研究所 野尻幸宏教授	増え続ける CO2 濃度が起こす二つの問題 －温暖化と海洋酸性化
以降、随時実施するが、主として環境セミナーが環境公開講座を兼ねる。			

### 4. 秋季研修会

EC 千葉は、1998 年（平成 10 年）から研修会（秋季研修会）を開催してきた。タイムリーな課題を選定して、午前は基調講演を外部の講師にお願いし、午後から夜にかけてグループ討議を行って研修し、環境活動に反映している。

**秋季研修会の実施内容**（「回」は、EC 千葉設立以来の実施回数）

回	実施日	研修内容、ワークショップ(テーマ)
10	2008.11.22 ～23	「カーボンオフセットの動向について」環境省地球環境局地球温暖化対策課 市場メカニズム室技官中埜公平氏 ワークショップ:「カーボンオフセット」の活用をどう進めるか
11	2009.11.14 ～15	「環境カウンセラーにこれから期待すること」環境省関東地方環境事務所環境 対策課 課長補佐寺西武夫氏 ワークショップ:討論と提言のまとめ
12	2010.11.13	生物多様性千葉県戦略 EC 千葉に「生物多様性研究会」立ち上げ決定
13	2011.11.12	EC 千葉として再生可能エネルギーの取組み
14	2012.11.10	再生可能エネルギー、省エネルギーの普及活動
15	2013.11.23	地球温暖化対策、如何に活動すべきか
16	2014.11.15	今後の EC 千葉活動のために、かながわ EC の話を聞く
17	2015.11.14	東京管区気象台 片山恭男調整官より「海洋の変化と気象くらしへの影響」を 学ぶ

## 5. エコメッセちばへの参加

「エコメッセ（開催年）in ちば」は千葉県最大の環境活動イベントで、1996年（平成8年）より千葉県行政、各事業者、市民等参加者との交流の場として環境活動に活用されてきた。EC 千葉は2002年から出展を開始、2013年からは実行委員を派遣して運営の面へも協力している。

### 「エコメッセ（開催年）in ちば」への出展内容（「回」は、EC 千葉設立以来の出展回数）

回	開催日	「エコメッセちば」に出展、展示テーマ
7	2008.09.07	・EC 千葉の事業活動紹介と水関係、ゴミ関係、省エネの展示
8	2009.09.06	・EC 千葉統一テーマ:「EC 千葉は環境保全に協力しています。」 組織の紹介、環境学習センターの活動、エコアクション 21 の活動と浄化槽設置者に対する啓発教育の紹介
9	2010.09.05	・パネル展示:①地球温暖化対策センター、②水環境対策センター(各2枚) ・デモ展示:①照明比較装置、②pH・COD の測定
10	2011.09.04	・浄化槽講習会の紹介とpH 測定の実習、・電球省エネ比較と CO2 測定の実演
11	2012.09.17	・呼気の二酸化炭素測定体験ほか
12	2013.09.28	・環境について調べて見よう
13	2014.09.23	・呼気の二酸化炭素測定体験ほか
14	2015.09.23	・呼気の二酸化炭素測定体験ほか
15	2016.09.22	・呼気の二酸化炭素測定体験ほか、・うちエコ診断の紹介
16	2017.10.9	・呼気の二酸化炭素測定体験 ・「うちエコ診断」の実施
17	2018.10.8	・呼気の二酸化炭素測定体験 ・クイズで考えよう地球温暖化
18	2019.10.20	・呼気の二酸化炭素測定体験 ・パネルと共に～これって地球温暖化～
	2020	開催中止
19	2021.10.16	・動画制作:EC 千葉と「うちエコ診断」紹介 ・座談会:「うちエコ診断」で、光熱費 と CO2 削減の両方を目指してみよう!
20	2022.10.23	・SDGsアンケートからの対話と学び ・「うちエコ診断」のデモ診断

### 【エコメッセ光景】



エコメッセ 2015 in ちば



エコメッセ 2016 in ちば



エコメッセ 2017 in ちば



エコメッセ 2019 in ちば

## 6. 各地の環境フェアへの参加

各市町村地域主催の環境フェアに積極的に参加している。以下は主な開催地である。

- 1) 「千葉市民活動フェスタ」
- 2) 「ふなばし環境フェア」
- 3) 「かまがや環境フェア」
- 4) 「千葉市生涯学習ボランティアフェア」
- 5) 「コープみらい秋まつり」

その出展の具体例として「ふなばし環境フェア」の内容を紹介する。

「第1回ふなばし環境フェア」は1998年から始まった。開催目的は、市民・事業者及び行政それぞれが、環境意識を高め、健全で恵み豊かな環境の実現を目指すこと。1~2回は船橋市主催で開催されたが、3~26回は市民・事業者・環境団体・行政によって組織された「船橋市環境フェア実行委員会」が主催となり開催している。

EC千葉は2016年「第19回ふなばし環境フェア」から(故)見並勝佳理事長が実行委員として参加し、その後も担当が代り継続して出展している。

2023年は、環境を知るラリー、SDGs コーナー、お絵描きコーナー、工作・体験コーナー、干潟で生き物探し、野鳥観察会、地震体験車など興味あるイベントや、海洋プラスチックや地球温暖化の課題と対策、食品ロスの削減を考えるなど、幅広いテーマからなる「第26回ふなばし環境フェア」であった。EC千葉の小間では、環境保全活動の紹介とともに、来場者に風船を膨らませてもらい、吐く息のCO<sub>2</sub>濃度を測定。子どもから大人まで多くの方々が興味を持って体験参加し、地球温暖化の現状や課題などについて一緒に考え、環境にやさしい船橋をめざした。



## 7. 工場・施設見学会

EC千葉は、設立当初から、県内の環境に先進的な企業や施設を選んで見学会を実施して、以来、設立10年目には16回を数えた。11年目以降は、地球温暖化対策センター、廃棄物対策センター、水環境対策センター等が主催するようになってきている。

## 8. 次のステップに向かって

事業部としては、通常総会における特別講演の環境セミナーは、今後とも継続して実施していく他に、EC千葉全体に関係する環境行事、県行政等との協働事業、県や地域自治体の環境フェア等への参加等に注力していきたい。

ただし、基本的に環境活動は各センターの活動として活性化を図っていくもので、事業部はその支援にまわるものである。なお、会員の地元自治体への参加・協力により新たな会員の勧誘にも努力したい。

(事業部特別プロジェクト)

## 大多喜町環境教育プログラム： わくわく探検隊 ～自然となかよし～

プロジェクトリーダー 國廣 隆紀

### 1. 面白峡水力発電所の復活

2012年3月に千葉県ホームページなどで、南房総の大多喜町で大正15年から35年間稼働して閉鎖されている「面白峡水力発電所」を復活しようとしているとの記事を見て、再生可能エネルギーの開発・普及が重要な今日、この構想にNPO活動として協力できないかと思った。

翌年3月、大多喜町に訪問し、すでに工事が始まっていることを確認し、その5月にEC千葉と自分が所属するNPO法人サポート技術士センター(NPO-SPEC)のメンバー合わせて22名が訪問して、説明を聞き、現場を見学させていただいた。

面白峡水力発電所は、養老川の最上流の「栗又の滝」付近で取水し、約2.3kmの横穴の水平トンネルを経て落差を約43m作って水車を回して約50kWの発電をするものであったとのことで、水車と発電機以外は、すべて現存していた。

その復活事業では発電出力を130kWにするとのことであった。

以前の設備の資料はないとの大多喜町の説明であったが、大多喜町出身で市原市在住の遠山あき様(当時96歳)が、「養老川雑記」という書籍に当時の建設、稼働状況や閉鎖後の状況が記されていることを読み、以後、行動を共にする志澤達司と早速、ご自宅に訪問してお話を伺い、「静かに流れる養老川の水は人間の営みにいろいろな役割を果たして海に流れるが、雨となって帰ってくる、水は輪廻であり大切に使うべし」と諭された。

ご高齢ではあるが、元気で貴重なお話をされるので、2013年11月に希望者を募って16名がご自宅近くの公民館を訪れ、あらためて「遠山あき先生の話の聞く会」を催し、養老川でのいかだや船を使つての水運、かんがいのための堰や水利の建設、発電所建設など多くの知見を話された。「歴史はあったことを知るのも大切だが、そこにいた人の存在を知ることが大切」とのお話のあと、当時は無名だった近くの「チバニアン」を案内され、引き続き、面白峡水力発電所の現場にも同行していただいた。

その後、面白峡発電所の復活事業は進められ、落差を利用して水を流す落水管は新しく製作されて新旧並べてロマンを感じるように敷設され2014年4月に完了した。

養老川最上流の水は、観光用として常時、栗又の滝として流され、付近のかんがい用水としても利用されると共に、手掘りで掘られた長さ2.3kmの水平トンネルに取水されて地域の水道用に利用され、残りが発電用となっており、年間を通じてこれらの水量バランスをいかにコントロールするかが重要である。

現状の発電施設では、水はワンスルーでその排水は養老川に戻されているが、発電に使用した水を池に保有して、太陽光発電などの昼間の余剰電力で落水管の上流に設けた池にポンプでくみ上げて「揚水式発電所」とする技術を確立することで、起伏の大きい南房総に多くの「揚水式発電所」を設置して関東地区の余剰電力のバッテリーとなればと思う。



## 2. 大多喜町環境教育プログラムの開催

大多喜町周辺の南房総は広い平地が少なく大規模農業などには向かず、春は梅、桜、つつじと続き、秋は紅葉と自然豊かで観光に力を入れられているものの、残念ながら人口の減少がはげしく、過疎化防止に歯止めをかけることが喫緊の課題である。

そこで2017年春、志澤 達司と森川 礼子と3人で、南房総で育つ子どもたちに普段見過ごしている自然に目を向け、その素晴らしさを感じ地域に愛着をもってもらえたらと考え、水資源豊かな養老川最上流の場で、「水辺の生きものしらべ」を行って自然の素晴らしさを実感すると共に、気候変動の激しい昨今、身近なところで、再生可能エネルギーを創出している面白峡水力発電所を見学してもらい、エネルギーについて認識を高めてもらおうとEC千葉主催「大多喜町環境教育プログラムわくわく探検隊～自然となかよし～」のプログラムを起案した。

現地に何度も足を運び、イベントがどのように安全にかつ効果的にできるかを思考し、大多喜町及び大多喜町教育委員会の方々とも検討し、大多喜町教育委員会の後援と㈱関電工殿の協力も得られることもできてプログラムを確立した。

この活動では、近くにあつて今は廃校になっている「大多喜町立老川小学校」で教鞭をとりながら周辺の生きものしらべを行い授業に活用されて文科省の大臣表彰も受けられた永島 絹代先生が地域の教育事務所におられ、同僚の渡邊 紀子先生とともに協力をいただいている。

いよいよ2017年7月、第1回大多喜町環境教育プログラムを16名の子どもたちの参加を得て、無事、楽しく開催することができた、水辺の生きものしらべで活発に動く小さな生きものを採集した子どもたちのキラキラした眼が今でも忘れられない。

続いて翌2018年7月、第2回大多喜町環境教育プログラムを開催することとしたが、大雨のあとのがけ崩れを心配し、水辺の生きものしらべの現地は少し下流に移したもののやや不安が残り、後日、安全に行動できる場所づくりを大多喜町にお願いした。

面白峡水力発電所の見学では、㈱関電工のスタッフのみなさんののていねいな説明で、子どもたちから熱心な質問が多く、意義ある見学であると納得できた。

2019年7月、第3回大多喜町環境教育プログラムを8名の子どもたちの参加を得て、水辺の生きものしらべの現地は第1回と同じ場所とし、安全確保では心配はなかった。参加の子どもたちが少なく、ふりかえりの時間には子どもたちに十分時間をとって発表してもらった。

コロナ渦があつて、久しぶりに2022年7月、第4回大多喜町環境教育プログラムを子どもたちだけでなくその保護者にも参加可能として開催したところ、保護者の関心は高くプログラム進行にも協力いただけることが分かり以後は保護者の参加も受け入れることとした。

翌2023年7月、第5回大多喜町環境教育プログラムも開催できた。この第5回からは、大多喜町が面白峡水力発電所の近くまで養老川沿いに遊歩道を設置され、その脇で安全に水辺の生きものさがしができるようになった。

大多喜町環境教育プログラムを効果的かつ安全に開催するために、大多喜町町長をはじめ関係各課、大多喜町教育委員会及び㈱関電工殿に過分な協力をいただいていることに感謝し、会員各位には当日の開催スタッフをお願いしているが、あわせてお礼を申しあげたい。

## 環境マネジメントシステム支援センター

環境マネジメントシステム支援センター長 山畑 祐哉

### 1. あゆみ

1998年の第1回および翌年の第2回企業環境セミナーの共催参画を契機として、有志によるISO 14001の認証取得普及を目的とした研究会が動きだし、2000年2月の総会でEC千葉最初のプロジェクトセンターとして環境マネジメントシステム支援センター（略称、EMS支援センター）が発足した。企業・団体の環境マネジメントシステムに関する支援活動および研修活動等の諸活動を行う事を目的とした。（一財）千葉県環境財団に対するISO 14001構築支援（2001年3月認証取得）が最初の活動で、その後ISO 14001認証取得セミナーの開催や単なる講師派遣も加えて徐々に活動案件が増えた。

2004年に中小企業向けのエコアクション21（略称、EA21）認証・登録制度が発足し、千葉県の地域事務局に認定された（一財）千葉県環境財団と2005年に協定書を結んで、県内におけるエコアクション21（略称、EA21）の普及活動を始めた。県内企業の新しいシステムへの関心が高く、活動を始めた2005年度は6会場でEA21普及セミナーを開催して総勢300余名もの参加者があり、本活動が順調なスタートをきった。

因みに、EA21地域事務局（一財）千葉県環境財団との協定書によるEC千葉の協力担当者は次の通りである。

- ① 非常勤事務局員の派遣：西田啓作（2005年～）、野口康男（2006年10月～）、服部達雄（2009年7月～現在）
- ② ホームページの維持管理：有馬富穂（2005年HP開設～現在）
- ③ 会議等の委員の推薦：地域判定委員会（2005年～、16名が順次交代で担当）  
地域運営委員会（2005年～、7名が順次交代で担当）

企業環境セミナー等を通して、ISO 14001は経営に役立たないと捉える企業が出始めているとの認識が生まれ、より経営に役立つISOの活用を直接的に指導、助言することを目的として内部監査員養成講座を2005年から始めた。効果ある講座にするために実践的なワークショップを採り入れた2日間コースにした。当初はほぼ定員の参加があり、ISO 9001の内部監査員養成講座も同じ要領で開始した。

ISO 14001審査員資格保有者およびEA21審査員（当時は審査人）が中心となって、これら二つのセミナーと二つの内部監査員養成講座を現在まで継続実施してきた。EMS支援センター活動の柱である。併せてこれらに類するEA21の構築や運用を手助けする実務研修会、EA21審査人力量向上研修会運営（EA21中央事務局主催2014年2月）や他団体主催のISO内部監査員養成講座への講師派遣などへと活動を拡大してきた。

### 2. 運営

#### 2.1 歴代センター長

EMS支援センターの歴代センター長は、設立に尽力された初代の林正徳（2000～2001年度）、センターの礎を構築された二宮恵（2002～2010年度）、続いて種々課題を解決されてきた松村利治（2011～2014年度、2017～2018年度）と宮田勉（2015～2016年度）、そして現在の山畑祐哉（2019年度～）である。

## 2.2 研修会・運営連絡会

EMS 支援センターの運営は研修会と運営連絡会を組み合わせた形態で毎月の理事会の前に開催してきた。

研修会は当番が資料を準備してレクチャーするお互いの実力向上を目的とした相互研修であり、運営連絡会はセンターの活動及び運営に関する報告と相談をする場であり、設立当時から今日まで続いている。ただ、2020年の新型コロナ禍拡大をうけて数回中止せざるを得なかったが、2021年9月からはZoomを用いて会場とオンラインのハイブリッド形式で開催している。ただ、ハイブリッド形式は残念ながら活発な議論（コミュニケーション）には難点がある。

## 2.3 EMS 支援センター会員の推移

EMS 支援センターに所属する会員数は、設立当時の2004年は28名、翌年には36名に増え、2013年には最多の51名が所属した。その後は徐々に減って2018年には41名、現在の2023年は29名で設立当時と同レベルになった。EC千葉の会員数の推移と同様に大きな課題である。

ちなみに、2013年度の会員が保有していた資格の延べ人数は、EA21 審査員が35名、ISO 14001 審査員（主任・審査員補を含む）が32名、ISO 9001 審査員（主任・審査員補を含む）が16名に及んでいた。

## 3. 企業環境セミナー

### 3.1 経緯

- 1) 千葉県他が共催する県民対象の第3回エコメッセちば（1998年）の実行委員会において県内企業に環境経営を啓発するための企業環境セミナーを提案し、第1回セミナーが実現した。千葉県の指導で翌年1999年の第2回セミナーより千葉商工会議所との共同主催で今日まで継続開催している。
- 2) 当初は ISO14001 の認証取得啓発を目的にしていたが、2008年頃から参加者の多くが認証取得済み事業者になり、次第に継続的改善を目指す方向に変わってきた。即ち、「経営に役立つ ISO」に主眼を置き始めた。
- 3) 2015年末に ISO 14001 が改訂されて2015年版が発行された。これに伴って2018年までのセミナーのテーマを改訂版に対する対応と実践に絞って開催した。
- 4) ISO 14001 改訂と同じ2015年に国連総会でSDGsが採択された。ISOでは自社の経営改革で企業価値の向上を図ることが求められており、更にはSDGsの目標達成にもつなぐことも求められ、2020年の第23回企業環境セミナーからはこのことへの手助けを意識して開催している。

### 3.2 後援団体

第3回セミナーから千葉商工会議所とEC千葉との共同主催で開催してきたが、参加者募集（チラシ配布等）において多くの後援団体の協力が力強かった。各団体事務局からそれぞれの加盟事業者で開催案内して頂けた。勿論、EC千葉会員も人の集る場所にチラシ配架をお願いして回っていたが、昨今の新型コロナ対策のため出歩きを控え、主に後援団体頼りの状況になった。

2023年時点の後援団体は次の12団体である。千葉県、（一財）千葉県環境財団、（公財）千葉県産業振興センター、（一社）千葉県商工会議所連合会、千葉県商工会連合会、（一社）千葉県経営者協会、千葉県中小企業団体中央会、（一社）千葉県中小企業家同友

会、(一社)千葉県環境保全協議会、(一社)千葉県産業資源循環協会、(一社)千葉県建設業協会、日刊工業新聞社千葉支局。10年前にはこれらの内10団体の協力をすでに得られていた。

なお、第1回から毎回千葉県環境生活部の次長から来賓挨拶をいただき、このセミナーを強く応援して頂いている。

### 3.3 開催実績

第11回(2008年)から第25回までの開催実績を表1に示す。経営に役立つISO14001が注目されはじめ、かついつときの分科会方式による意見交換に替えて2社の事例紹介発表の組み込みが功を奏して参加者が多かった。一方、新型コロナ感染が拡大し始めた2020年以降、当然ながら参加者は減少した。2021年の第24回のように講師も聴講者もWEB(Zoom)形式で開催せざるを得ない状況もあった。

表1 企業環境セミナー開催実績

回	開催日	テーマ	会場	参加者
第11回	2008.10.17	経営改善に役立つ環境マネジメントシステム	千葉商工会議所	33
第12回	2009.10.09	ISO14001のゆくえ有効性を高めるために!	千葉商工会議所	77
第13回	2010.10.15	経営に役立つISO14001	千葉商工会議所	81
第14回	2011.10.14	ISO14001 よいシステム、役に立つシステム、有効なシステム	千葉商工会議所	75
第15回	2012.10.19	環境マネジメントシステムのステップアップ活用	千葉商工会議所	69
第16回	2013.10.18	環境マネジメントシステムの動向と有益な活用	千葉商工会議所	62
第17回	2014.10.17	環境マネジメントシステムの効果的な活用	千葉商工会議所	68
第18回	2015.10.23	環境マネジメントシステム規格の改正動向及び効果的な活用	千葉商工会議所	73
第19回	2016.10.28	環境マネジメントシステム規格の改訂と企業の対応	千葉商工会議所	48
第20回	2017.10.27	改定ISO14001への対応及び実践	千葉商工会議所	43
第21回	2018.11.16	2015年版改定ISOへの対応及び実践	千葉商工会議所	35
第22回	2019.11.13	企業環境に即応して発展のための課題の取り組み	千葉商工会議所	42
第23回	2020.11.11	環境経営とSDGs経営.	千葉商工会議所	32
第24回	2021.12.08	ISOの運用で、SDGs活動を推進しよう	オンライン形式	32
第25回	2022.10.26	ISOの運用で、SDGs活動を推進しよう	千葉商工会議所	36

## 4. エコアクション21 普及セミナー

### 4.1 経緯

- 1) 2005年8月、(一財)千葉県環境財団と千葉商工会議所との3者共同主催で第1回エコアクション21普及セミナーを開催し、その後、EMS支援センターに在席している審査員が中心となって企画し現在まで継続している。
- 2) セミナーの講師はいずれもEMS支援センター会員が担ってきたが、2014年からは外部講師による基調講演を採り入れた。
- 3) 表2に地域事務局である(一財)千葉県環境財団への新規認証・登録数及び取扱い事業者数を示す。EC千葉の活動が少なからず新規認証・登録に効果があったと捉えている。しかし、最近では年10社前後の新規認証・登録はあるが、残念ながら同数程度の認証返上もあるので取り扱い数が横ばいである。

## 4.2 後援団体

企業環境セミナーと同様に当初から多くの団体の後援をいただいていた。2023年時点では、上記3.2項に記載した大半の団体に、千葉市、千葉県建設業協同組合連合会および千葉県解体工事業協同組合を加えた12団体のお世話になっている。

## 4.3 開催実績

第11回から第34回までの開催実績を表3に示す。地方会場での開催を含め、毎年2~4回開催してきた。2009年7月の第14回は自治体向けEA21普及セミナーと位置付けて開催し、基調講演をEA21中央事務局の森下研氏にお願いするなど、31の自治体参加を得た。

2014年以降は年1回のペースで開催した。表2が示すように、認証・登録企業数の増加がみられなくなったことを踏まえた結果である。

新型コロナウイルス感染拡大を受けて、2020年は中止、2021年はオンライン形式で、2022年は会場とオンラインのハイブリッド形式になった。ハイブリッドセミナーはEC千葉では初めての試みでそれなりの苦労があった。

表2 千葉県環境財団  
EA21認証取得事業者数

年	新規認証登録	累計事業者数
2008年	15	65
2009年	27	87
2010年	58	126
2011年	16	128
2012年	19	105
2013年	7	112
2014年	5	111
2015年	9	117
2016年	7	124
2017年	10	131
2018年	7	131
2019年	11	136
2020年	6	129
2021年	5	121
2022年	6	119

表3 EA21普及セミナーの開催実績

回	年月日	場 所	参加者	回	年月日	会 場	参加者
第11回	2008.02.18	船橋商工会議所	62	第24回	2013.07.26	千葉商工会議所	48
第12回	2008.08.22	千葉商工会議所	72	第25回	2013.11.19	八千代台 東南公共センター	18
第13回	2008.11.14	市川商工会議所	55	第26回	2014.07.25	千葉商工会議所	38
第14回	2009.07.30	千葉商工会議所	55	第27回	2015.07.24	千葉商工会議所	47
第15回	2010.02.26	松戸商工会議所	64	第28回	2016.07.24	千葉商工会議所	47
第16回	2010.07.30	千葉商工会議所	83	第29回	2017.07.21	千葉商工会議所	35
第17回	2010.09.22	千葉商工会議所	—	第30回	2018.07.20	千葉商工会議所	50
第18回	2010.11.19	八千代商工会議所	40	第31回	2019.07.17	千葉商工会議所	33
第19回	2011.07.29	千葉商工会議所	58		2020 (コロナ禍で中止)		
第20回	2012.07.27	千葉商工会議所	43	第32回	2021.09.15	オンライン	28
第21回	2012.09.20	流山商工会議所	16	第33回	2022.08.30	千葉商工会議室 & オンライン	32
第22回	2012.10.03	市原市民会館	18	第34回	2023.08.30	千葉商工会議室	37
第23回	2012.11.16	八千代台 東南公共センター	22				

## 4.4 セミナー以外による普及活動

普及セミナー受講者でさらに具体的な取り組み方法を知りたい事業者を対象に、EA21システム構築実務研修会を2011年と2012年に開催した。1回目は9社、2回目は7社の参加があった。未登録企業3社からの要望でその後のフォローも行った。

2014年2月に、関東3地域の地方事務局（千葉、東京、東京中央）の共催でEA21審査人力量向上研修会が東京都杉並区で開催され、EC千葉が企画・運営・講演を担当した。

「事業者役に役立つ審査が出来る審査人になる」がテーマで、56名の審査人が参加した。

## 5. ISO 14001 内部監査員養成講座

### 5.1 経緯

- 1) 2000年2月のEMS支援センター発足以来、ISO 14001の構築支援が中心の活動であったが、2005年より認証取得済み企業を支援する内部監査員養成講座も始めた。EMS支援センター会員の野口久がテキストを準備し、西田啓作と交互に講師を担った。これにより、EMS支援センターのISO活動拡大・継続につながる礎が構築された。
- 2) 2013年(第18回)以降、講座の継続性を目的に数人のEMS支援センター会員が講師を担当する体制に変更した。
- 3) 2015年のISO14001規格の改訂を機にテキストを大幅改変した。2020年には講座の継続的開催を目的としてテキストの各著作権者からEC千葉がライセンスを受け、EC千葉主催の講座であれば会員誰でもがそのテキストで講師役を担当できる体制を整えた。
- 4) 内部監査員養成講座と称してもISO未経験の参加者が増えてきたので、2023年6月に、SDGsの盛り上がりなども反映した分かりやすい表現のテキストに全面改変した。

### 5.2 開催実績

表4に開催実績を示す。毎年2回開催してきた。最近の新型コロナ拡大の折りには感染拡大防止に最大限の配慮をして開催した。いずれも共同主催である千葉商工会議所の14階ホールを無償で使用できたことは大きな支援であった。

### 5.3 他団体のISO14001内部監査員養成講座に講師派遣

本講座の実績が評価されて他団体から講師派遣要請があった。(株)住化分析センター(2009年、2012年)、千葉県職業能力開発協会(2018年～現在まで毎年)、(株)日立製作所ヘルスケアビジネスユニット(2020年)、富士フイルムヘルスケア(株)(2021年)である。

## 6. ISO 9001 内部監査員養成講座

### 6.1 経緯

ISO 14001より2年遅れでISO 9001の講座も企画・開催した。当初は講師にISO 14001と同じ野口久がテキスト準備を含めて担当した。2013年以降の講師体制の変更やテキストの大幅改変、そしてEC千葉へのテキスト使用のライセンスなどの経緯はISO 14001と同じである。

### 6.2 開催実績

表5に開催実績を示す。ISO 14001と同様に年2回のペースで開催してきた。ISO 14001とISO 9001の両方を認証取得している事業者が多いので、最近は両講座の開催期日を接近させて、両方の開催チラシを同封しダイレクトメールを送付している。

### 6.3 他団体のISO14001内部監査員養成講座に講師派遣

ISO 14001と同様に、千葉県職業能力開発協会主催の講座に2018年から年2回の2日間コースに講師を派遣している。初期には、(株)住化分析センター(2010年)や千葉ロードサービス(株)(2014年)にも派遣実績がある。

## 7. 次のステップに向かって

2.3項で記したように高齢化もあってEMS支援センターに所属している会員数が大きく減少してきており、会員の研修会にもやや盛り上がりがない状況に陥っている。併せて、地球温暖化対策を切望する声が高まっているにもかかわらず、環境経営の普及を目指したEA21普及セミナーおよび企業環境セミナーへの参加事業者が少なくなっている。毎月の運営連絡会においてその具体的な改善策を話し合い、一つひとつ実行していきたいところである。

ISO 9001/14001内部監査員養成講座実績

[表4 ISO 14001内部監査員]

回	日程	講師	受講者数
第7回	2008.06.19-20	A	18
第8回	2008.10.23-24	B	4
第9回	2009.02.09-10	A	26
第10回	2009.07.09-10	B	16
第11回	2009.11.12-13	A	21
第12回	2010.07.15-16	B	25
第13回	2010.11.18-19	A	22
第14回	2011.07.14-15	B	25
第15回	2011.11.24-25	A	26
第16回	2012.07.12-13	B	23
第17回	2012.11.15-16	A	18
第18回	2013.07.11-12	B、C	25
第19回	2013.11.14-15	C、D	13
第20回	2014.07.14-15	D、E	26
第21回	2014.11.17-18	B、F	7
第22回	2015.07.13-14	D、G	-
第23回	2015.10.08-09	B、C	8
第24回	2016.07.11-12	D、G	6
第25回	2016.10.06-07	C、F	5
第26回	2017.07.10-11	D、G	13
第27回	2017.10.05-06	C、F	7
第28回	2018.05.14-15	D、G	20
第29回	2018.09.13-14	C、F	23
第30回	2019.05.21-22	D、G	10
第31回	2019.09.18-19	C、D	17
第32回	2020.09.16-17	C、D	10
第33回	2021.03.10-11	C、D	8
第34回	2021.06.16-17	G	5
第35回	2021.10.13-14	C、H	4
第36回	2022.06.22-23	G、H	12
第37回	2022.11.08-09	C、H	9
第38回	2023.06.14-15	G、H	15

A:野口久 B:西田啓作 C:青木誠 D:長田彰  
E:宮田勉 F:田博秋 G:橋本正 H:小林亨

[表5 ISO 9001内部監査員]

回	日程	講師	受講者数
第3回	2008.05.20-21	A	19
第4回	2008.09.25-26	A	15
第5回	2009.01.29-30	A	15
第6回	2009.06.25-26	A	23
第7回	2009.09.17-18	A	23
第8回	2010.06.17-18	A	23
第9回	2010.09.16-17	A	18
第10回	2011.06.16-17	A	25
第11回	2011.09.15-16	A	14
第12回	2012.06.14-15	A	16
第13回	2012.09.13-14	A	18
第14回	2013.06.13-14	J、K	20
第15回	2013.09.12-13	J、K	16
第16回	2014.06.12-13	L、K	19
第17回	2014.09.18-19	J、K	23
第18回	2015.06.18-19	K、M	13
第19回	2015.09.17-18	L、M	9
第20回	2016.06.16-17	M	11
第21回	2016.09.15-16	M	15
第22回	2017.06.15-16	M、N	15
第23回	2017.09.14-15	M、N	21
第24回	2018.06.14-15	M、N	22
第25回	2018.10.11-12	M、N	5
第26回	2019.06.19-20	M、N	27
第27回	2019.10.16-17	M、N	7
第28回	2020.10.14-15	M、N	9
第29回	2021.03.17-18	M、N	9
第30回	2021.07.14-15	M、N	15
第31回	2021.11.24-25	M、N	16
第32回	2022.6.30-7.1	M、N	25
第33回	2022.11.29-30	M、N	21
第34回	2023.06.27-28	M、N	15

A:野口久 J:吉野定治 K:矢野和敏  
L:荒野喆也 M:志澤達司 N:熊田成人

## 地球温暖化対策センター

### 地球温暖化対策副センター長 橋本 正

#### 1. あゆみ

1998年(平成10年)10月に地球温暖化対策推進法が制定され、地球温暖化防止が大きな問題となり、これを受けてEC千葉では、2001年4月に地球温暖化対策センターを設立した。一方千葉県でも、2001年2月に千葉県地球温暖化防止活動推進員を募集する制度を発足し、個人レベルの活動を開始している。

2009年11月には国の政策転換があり、再生可能エネルギーを積極的に開発、普及することを採り入れて家庭用太陽光発電の余剰電力を2倍の価格で買い取ることとした。

さらに、2011年3月11日の東日本大震災での原発事故以降、エネルギー政策の転換の加速が求められている。電力エネルギー確保戦略として、再エネの急増、省エネの推進が急務である。この背景をもとに、再エネ電力の調達に関する特別措置法(再エネ特別措置法)が成立し2012年7月1日から施行された。

2015年12月に採択された地球温暖化対策の国際的取り組み「パリ協定」が2016年11月に発効し、温室効果ガスの実質ゼロ排出に向けた新時代を迎えた。日本では2016年5月に「地球温暖化対策計画」が閣議決定され、これを受けて「千葉県地球温暖化対策実行計画～CO2CO2(コツコツ)スマートプラン」が9月に策定された。我々には、個人も事業者も、これらの計画を前向きに受け止め、それぞれの立場でこれまで以上に環境に配慮し、二酸化炭素の排出削減に取り組むことが求められている。

当センターでは、2009年度の辻川毅センター長および副センター長の活動方針を歴代センター長が受け継ぎ、地球温暖化防止活動に役立つ「環境セミナー」の開催や激変する昨今の現状把握と最先端技術の習得、これからの活動への提案をすべく「温暖化対策の施設見学会」や「研修会」、「講師派遣」等を継続的に実施している。

2020年(令和2年)10月には、菅首相による「2050年カーボンニュートラル宣言」が表明され、地球温暖化対策は益々重要事項になっており、「地球温暖化対策センター」の活動は重視されることになって来た。

これからも、国、県、市町村を始め各自治体、NPO法人との協働、そしてEC千葉の他のセンターと協働し地球温暖化防止活動に取り組む。

#### 〈地球温暖化対策センターの運営〉

	センター長	副センター長
2009年5月	辻川毅	服部達雄、阿部邦夫
2011年5月	辻川毅	吉田昌弘
2013年5月	橋本正	北落謙太郎、辻川毅
2015年5月	橋本正	辻川毅、山本忠
2017年5月	辻川毅	服部達雄、
2019年5月	國廣隆紀	橋本正、服部達雄、阿部勲夫
2020年6月	國廣隆紀	橋本正、服部達雄、阿部勲夫
2021年5月	橋本正	服部達雄、阿部勲夫、國廣隆紀
2022年5月	橋本正	服部達雄、阿部勲夫、國廣隆紀、生野宏
2023年5月	阿部勲夫	橋本正、服部達雄、中嶋滋、生野宏



## 2. 活動

### 2.1 カーボンニュートラル勉強会(2021年開始)

2020年12月25日、政府の成長戦略会議にて報告された「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」を受け、政策の内容をしっかりと知るためにカーボンニュートラルに関する種々の学習と会員間の情報交換、意見交換の場を設けることを理事会の承認を経て、2021年2月7日に「カーボンニュートラル勉強会」をスタートした。

### 2.2 千葉県地球温暖化対策実行計画に対する進言・提案

千葉県からの「千葉県地球温暖化対策実行計画見直しに対してのパブリックコメント」募集に、EC千葉の多くの会員の意見を集約し、EC千葉として纏めた提案を2023年2月に提出し、千葉県と話し合い協力体制をとっている。

### 2.3 環境学習センター等との協働

地域行政や学校等からの環境学習講師派遣要請に環境学習センターが主導して対応しているが、これに地球温暖化関係について協力した内容を下記に記載する。

環境学習センター等との協働による講師派遣		
実施日	実施先(事業所等)	講習等の内容
2009.6.13	千葉友の会、子供ひろば環境学習会	みんなで防ごう地球温暖化
2012.6.19	木更津高専	低炭素社会や太陽光発電
2012.11.3	市原市 市民環境大学	エネルギーと環境
2012.12.18	泉高校	私たちの暮らしとエネルギー
2013.11.12	船橋市公民館	地球温暖化の現状
2013.12.20	白井市民.大学校環境学習	地球温暖化
2014.1.17	白井市七次台中学	地球温暖化
2014.1.25	浦安市民大学	地球環境問題
2014.7	放送大学千葉学習センター	エネルギーと環境
2015.5.24	白井市市民活動支援	長続きする省エネ
2016.7	放送大学千葉学習センター	エネルギーと環境
2017.1	八千代市環境政策課	地球温暖化防止私たちにできること
2018.8	佐倉市志津小学校、中学校	地球温暖化
2019.1	印西市立原小学校	地球温暖化
2019.7	千葉市柏井小学校	みんなで考えよう地球温暖化
2020.8.20	市原市姉崎公民館	地球温暖化対策 我々に出来ること
2021.7.1	長生村保健衛生協議会	2019年台風15号 地球温暖化の影響
2021.9.26	市原市辰巳公民館	環境問題の世界と日本、地球温暖化
2021.11	成田市生涯大学院	進む気候変動、今や気候危機
2022.10.14	市原市職員向け研修講座	地球温暖化対策
2023.2.4	木更津市富来田公民館	地球温暖化対策
2023.2.26	成田市中央公民館子供環境セミナー	地球温暖化対策

## 2.4 地球温暖化対策の施設見学会

施設見学会はEC千葉発足以降実施しているが、2016年頃から、地球温暖化の深刻化に相まって、地域行政や市民への啓もう活動に力を注ぐようにしてきている。

### 地球温暖化対策に関わる施設見学会の実施内容

実施日	施設先(事業所等)	見学の内容
2009.8.28	(株)フジコー	バイオマス施設
2012.2.29	千葉大学柏の葉キャンパス	太陽光利用型植物工場
2013.2.22	(株)日立産機システム習志野事業所	エネルギー管理システム優良工場受賞の工場
2014.6.5	船橋市西浦下水処理場	小水力発電の実証実験
2014.7.25	上総鶴舞	ソーラシェアリング
2015.9.7	白井市 しろい富塚	ソーラシェアリング

## 3. 次のステップに向かって

地球温暖化問題は、気候変動等の問題が現実化し、対策は「緩和策」「適応策」共に重要な局面で、しかも急速な対策が要求されている。

地球温暖化対策センターとしては、環境学習センター等、他のセンターとの協働により、実質的な啓蒙を含めた対策と、国や県の対策と一体となった活動を進めて行く。

## 廃棄物対策センター

廃棄物対策センター長 中嶋 滋

### 1. あゆみ

2000年8月19日から20日にかけて本埜村の千葉県休養ホーム「もとの荘」にて開催された当協議会（EC千葉）の夏季研修会において、「廃棄物対策」、「省エネルギー」、「環境教育」、「環境アセスメント」の4つのテーマについて研修が実施され、その参加者の半数近くが「廃棄物対策」のテーマに加わり、日本における廃棄物処理の課題と、環境カウンセラーとしての役割について議論がなされた。

これをうけて、EC千葉として「資源循環型社会の形成」と「廃棄物処理の適正化」の一助となる活動を目的とした「廃棄物対策センター」を設立することが2001年2月11日の定時総会において正式に承認され、スタートを切ることとなった。

廃棄物対策センターでは、主に廃棄物の適正処理や、再資源化を進めるうえでの課題に対し、常に「環境カウンセラーとして何ができるか」を考え、活動を行ってきた。

各自治体や事業者、地域貢献活動をされている方々に対し、信頼と興味を持って頂ける助言・提案を行う為には、幅広い知見と環境活動での実績が必要と考え、県内の産業廃棄物処理事業者やリサイクル事業者とのコミュニケーションを積極的に推進してきた。

このほか、廃棄物処理法の法改正や環境法令に関する最新情報を調査し、その結果をEC千葉内で共有することや、廃プラごみに起因する海洋汚染問題の調査などにも取り組んでいる。

2009年度以降の運営に関わったセンター長及び副センター長はつぎのとおり。

	センター長	副センター長
2009年度から	石黒 忠	大山 長七郎
2011年度から	宮田 勉	大山 長七郎
2013年度から	宮田 勉	潟端 尊史
2017年度から	潟端 尊史	茂利 晃
2019年度から	潟端 尊史	國廣 隆紀
2023年度から	中嶋 滋	潟端 尊史、國廣 隆紀

### 2. これまでの活動記録

#### 2.1 各種イベントへの参加、出展

2009年10月16～18日、千葉市において3R推進全国大会が開催され、EC千葉として参加し、パネルディスカッションに登壇すると共に、ごみリサイクルの展示を行った。

また、県内の環境イベントに出展し、2m四方のブルーシートの上に各種家庭ごみをひろげ、当該地域に合ったごみ分別と資源回収の体験をしてもらい好評であった。

#### 2.2 出張授業

ごみの排出、回収、リサイクルについて出張授業を行った。2005年度、2006年度とも船橋北高で開催（各1回）。2007年度は東京学館浦安高校（2回）や茂原高校（1回）開催し、2008年度は東京学館浦安高校で5月、6月（2回）開催した。

### 2.3 出前講座

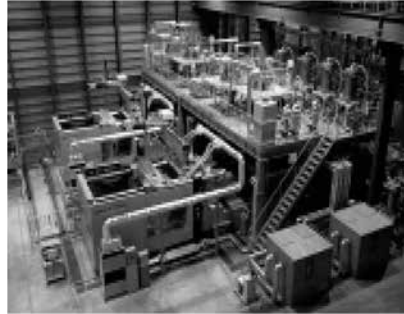
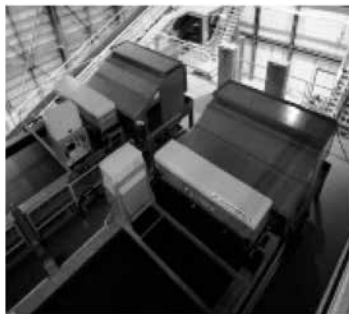
2010年8月、浦安市公民館主催の小中学生対象の出前講座「ごみを減らそう」に講師を派遣した。

### 2.4 施設見学会

廃棄物処理施設の見学は、2011年10月に市川市にある廃家電リサイクル施設（株）ハイパーサイクルシステムズ）、2012年8月には成田市にある、缶類・ペットボトルリサイクル施設（ガラスリソーシング株成田工場）を訪問し、最先端のリサイクル技術を学習した。

また、2017年8月には、富津市にあるエム・エム・プラスチック株のプラスチック再資源化施設を見学。家庭から排出されるプラスチック製容器包装を高品質な物流パレット（MMPパレット）にリサイクルしている現場を学習した。

【施設見学会の様子（エム・エム・プラスチック株 本社工場：千葉県富津市）】



<赤外線選別機（ドイツ製）> <パレット成形>

### 2.5 マイボトル・マイカップの自販機への普及活動

国内の飲料メーカーの自販機にマイボトル・マイカップの機能を付与することを2010年から発案し、主要飲料メーカーと折衝を行い、飲料容器の削減に関心の高い慶應義塾大学院生との情報交換も行った。

そして、2011年3月、環境省の「第10回NGO/NPO・企業環境提案募集」に対し、EC千葉として応募した。

### 2.6 県内の各自治体が推進している一般廃棄物（家庭ごみ）の分別・ゴミ出しの調査

一般廃棄物（家庭ごみ）の分別・ゴミ出しの方法は、各自治体が設置、運用しているクリーンセンターの特性に合わせる必要性もあって、自治体ごとに異なっており、市民に統一的な指導、普及がむずかしいこととクリーンセンターでのノウハウの共有化もできない状態である。

これは国が一般廃棄物の処理を各自治体に委ねているのが根本原因であるが、少なくとも現行の方法で改善点はないかという観点で、2011年6月、各自治体が発行している一般廃棄物（家庭ごみ）の分別・ゴミ出しの基準を収集して調査を開始し、2012年4月に中間のまとめは行ったものの、その後、諸事情があって中断している。

## 2.7 製鉄所からの粉じん問題に取り組む地域市民団体に協力

2012年6月から、製鉄所からの粉じん問題に取り組もうとしている地域市民団体「アトリエマザリー」と情報交換を始め、同年7月には勉強会にも参加し、技術的な協力を行った。

## 2.8 食品ロス削減と規格外野菜の有効活用への取り組み

2022年度から廃棄物対策センターとして「食品ロス削減への取り組み」を推進することを取り決め、以下の3テーマを掲げて段階的に活動を進めている。

- ① 作物生産時に発生する「規格外野菜」の発生状況調査
- ② 飲食業等から発生する食品廃棄物の削減指導
- ③ 消費者を中心とした食品ロス削減の勉強会開催

①については、千葉県内（北総地区）の農家に調査協力を要請し、規格外野菜がどれだけ発生しているのか実態を調査。その結果、人参の規格外発生率が約30%も発生していることを確認。その殆どは販売することが出来ず廃棄（畑に戻す）していることが分かった。

②及び③については、2023年度以降に実施することとした。

## 3. 次のステップに向けての抱負

今まで、異常気象と思われていたことが、想定外でなくなり、いつ起きても不思議ではない程、恒常化しつつある気候変動（Climate Change）、もはや喫緊の課題としてその対策へ取り組む必要に迫られており、近年の多くの被災状況に鑑み、千葉県においても、地元自治体や行政機関、また、教育機関も含めた地球温暖化防止対策を抜本的に見直しが行われている。廃棄物対策センターもそういう観点から事業を見直さなければならない。

環境問題やまちづくりに関する諸調査、政策の提案に関する事業については、環境省施策への対応、県や市等の事業への参加・協力を視野に、循環型社会の目線で廃棄物対策活動に取り組む。

県および地元自治体の環境基本方針/実行計画等を理解し、EC千葉が協力・支援できる企画・提案や講演・セミナー等の講師派遣、教育機関への普及・啓発活動を行う。

次のステップとしては、循環型社会に向けた生ごみ問題やプラスチックリサイクル、食品ロス削減等に、最近作成した「廃棄物対策センターの活動方針」に沿って、他の部・センターと連携して取り組みたい。

ぜひ、そのためにも多くの会員に廃棄物対策センターへの参加をお願いしたい。

## 環境学習センター

環境学習センター長 佐藤 ミヤ子

### 1. あゆみ

2003年(平成15年)にEC千葉が法人化されると同時に「環境学習センター」が誕生。以降、環境学習会・出前授業・自然観察会を中心に活発な活動が展開された様子が林正徳の「10年のあゆみ」にも記されている。当時のセンター長種本利治の記録には、会のオープン化・情報共有・全員参加型の環境学習センターの運営を目指していると記されていた。以来、戸村 泰、中庭武雄、吉田昌弘の各センター長の尽力に加え、阿部邦夫、林 正徳、山口由富子、渡辺忠明、阿部勲夫、松村利治、綿貫 沢、草野 信の各副センター長からのサポートもあり、会員の皆さんが誰でも参加できる活動として運営されてきた。現在は、佐藤ミヤ子が運営のバトンを引き継ぎ、EC千葉の全会員が環境学習センターに所属するとの考えに基づき、捧 一夫、中村 仁、志澤達司の各副センター長と協議・補完し合いながら運営にあたっている。

### 2. 相互研修～みんなのひろば

#### 2.1 目的と推移

「相互研修」は、身近な問題からグローバルな難問までの幅広い問題を学び合い、会員相互の知識や経験の幅を広げるといった目的のもと実施してきた。

地球環境問題が大きくクローズアップされ、著しい変化の波と沢山の情報が飛び交っている。それらの情報を多角的・多面的に捉え、培ってきた知識・価値観などを日々共有・更新しながら学びを深めて行くことが、私たち環境カウンセラーに求められている。しかしながら、近年はコロナ感染症の影響もあり、参加者の減少かつ固定化と同時に、プレゼンをして頂ける会員も寡占化の様相を呈してきたことを踏まえ、名称を〈みんなのひろば〉と改名。

〈みんなのひろば〉では、より多くの会員の参加を願い、テーマを限定することなく、自由な参加とそれぞれの知識と情報の交換をはかりながら、お互いのスキルを高め合うという目的遂行の場と機会として活動に繋げて貰えることを狙いとしている。

#### 2.2 これからに向けて

EC千葉が発足して25年、積極的に活動していた会員も軒並み高齢を迎えた。更に、コロナ禍で3年にもわたる外出自粛による行動変容、加えて日本全体が少子高齢化を迎えている今、自然に会員の増加が見込める状況に無いことは他の団体も同じ。しかし一方では、“社会と繋がっていたい” “学びたい” “何か活動をしたい” と考えているシニアがいらっしゃることも事実。その方々に“このような会なら一緒に活動してみたい” と思ってもらえるEC千葉に私たちの会はなっているだろうか、と自問自答の日々……。

そのようなシニアの方々に「選んでいただけるEC千葉」であることが、今私たちに求められている最大の課題であり、それこそが「持続可能な環境学習センターに繋がる道」なのではないかと考えている。

#### 2.3 これまでの実績

次ページの表1に、当センターの柱である〈相互研修～みんなのひろば〉で共に学び合った2011年から2023年9月までのそれぞれの足跡を記載した。

(表 1) 相互研修～みんなのひろば 研修のあしあと

年度	月	相互研修(2011年～2014年度)	講師	
2011	7	Sun flower Bio Complex	阿部邦夫	
	8	ごみ削減活動での行政と市民のかかわり	戸村 泰	
	9	自然循環型農業に活かす食品リサイクルの取り組み	阿部邦夫	
	10	加速させよう 省エネルギー	林 正徳	
	12	CO2計、COD測定器の取り扱い説明会		
	1	身近に出来るエコ活動～買い物一つからのエコライフ～	大西優子	
2012	2	生物多様性と川の自然調べ	鈴木優子	
	8	こだわり野菜でふれあいづくり	小関光二	
	9	キルギス・中央アジアのメタン発酵プロセス	阿部邦夫	
	10	エネルギーと環境問題(市原市民大学講演紹介)	辻川 毅	
	11	袖ヶ浦市長浦公民館での環境講座の内容紹介	國廣隆紀	
	12	キルギスのバイオマス報告	阿部邦夫	
2013	1	私たちの暮しとエネルギー(泉高校講演紹介)	國廣隆紀	
	2	環境とエネルギー(市民環境大学講演紹介)	辻川 毅	
	3	学習指導案の書き方	中庭武雄	
2013	8	阿部邦夫のキルギス活動を大木久光氏に聞く	(センター)	
	9	水と循環のエコの話(君津市上総公民館講演紹介)	國廣隆紀	
	10	「緑のカーテンで涼しいまちづくり」	鈴木優子	
2014	4	IPCC総会・第5次評価報告書情報交換	山本 忠	
	5	国家戦略に位置付けられた環境政策	渡辺忠明	
	6	エネルギーと環境問題	吉田昌弘	
	7	低炭素時代に活躍する水素エネルギー	阿部勲夫	
	8	袖ヶ浦市住宅用太陽光発電設置後の実態調査	國廣隆紀	
	10	御嶽山噴火(水蒸気爆発)に関して	宮田 勉	
	11	生涯現役環境保全活動	笹木勝利	
	12	発達する台風 と 北極の氷と海水温	佐藤ミヤ子	
	2	地球温暖化を考えるポイント(環境学習の注意点)	橋本 正	
	3	環境を脅かす揮発性有機化合物のメカニズムと対策	今住則之	
年度	月	相互研修～みんなのひろば(2015年～2023年9月)	講師	参加
2015	6	重金属対策におけるキレート薬剤の活用	井町臣男	11
	9	エネルギー基本計画とCOP21に向けて	吉田昌弘	11
	10	リタイア後の生きざま(環境ボランティア)	小関光二	11
	12	製品含有化学物質について～規制動向と現状～	鈴木敏樹	10
	1	環境保全事例発表～白井市ソーラーシェアリング～	辻川 毅	15
	2	事業者・市民の視点から廃棄物問題を考える	宮田 勉	11
2016	3	新たな国際枠組み、地球温暖化対策への今後の取組	服部達雄	13
	4	「うちエコ診断」とその事業(1)	佐藤ミヤ子	12
	6	ODA・JICAプロジェクト(水環境対策) クリーン化による強い現場づくり	伊澤哲夫 熊田成人	11
	7	私の履歴書	草野 信	8
	9	「うちエコ診断」事業(2)	吉田昌弘	12
	11	ガラパゴス危機遺産返上のためのエネルギー対策紹介	倉田智子	16
2017	12	ミャンマーの水インフラ見聞録	見並勝佳	14
	1	プレゼンテーションをする時の考え方と心構え	橋本 正	15
	3	熱帯雨林とサンゴ礁の今!	佐藤ミヤ子	8
	4	うちエコ診断と一般の省エネ診断との違い	吉田昌弘	13
	6	エネルギー貯蔵と正しい理解	阿部勲夫	14
	7	廃棄物処理、関係法令と処理方法～廃棄物とは?	瀧端尊史	13
2017	8	CO2フリー 水素サプライチェーン	吉田昌弘	13
	9	浄化槽の仕組みと働き	上口清彦	14
	10	学校教育によるIPCCレポート啓発活動	茂利 晃	11
	11	環境カウンセラー研修会での講習・ESD	橋本 正	12
	12	環境カウンセラー研修(関東地区)参加者感想、 地球温暖化対策・ESDの推進	橋本正、 松村利治、吉田昌弘	9
	1	パリ協定我が国の約束草案達成2030年の電源構成	生野 宏	14
	2	「うちエコ診断」受診から一年	茂利 晃	12
	3	サッシ戸の真空二重ガラス化の省エネ等の結果	戸村 泰	13

年度	月	相互研修～みんなのひろば(2015年～2023年9月)	講師	参加	
2018	5	「SDGs」の目標に取組む「人間社会」の環境経営	福井信行	18	
	6	環境省「CO2削減ポテンシャル診断推進事業」	國井茂樹	13	
	7	学校における環境教育の現状について	綿貫 沢	19	
	8	企業活動と環境問題から学んだこと	荒川 勉	14	
	9	中国の「プラスチックごみ輸入禁止」の世界への影響	湯端尊史	13	
	10	エコメッセ来場親子と一緒に考える地球温暖化	佐藤ミヤ子	11	
	11	エアコン技術史編纂事業、技術の歴史を未来に役立てる	荒野詰也	14	
	12	環境カウンセラー研修、ワークショップ準備状況	橋本 正	11	
	1	COP24(ポーランド・カドビツエ)に寄せて	吉田昌弘	15	
	2	平成30年度環境カウンセラー研修報告	服部達雄	16	
	3	再生可能エネルギーと水素エネルギー最近の話題	阿部勲夫	14	
	2019	4	「食費ロス」の現状と取り巻く要因と影響	佐藤ミヤ子	14
5		意見交換会 ～今年度の取り組みについて～	(センター)	14	
6		保管&使用PCB処分契約は2022年までに完結を!	山畑祐哉	12	
7		茂原市の環境への取り組み	秋葉信夫	15	
8		過去に参加した市民団体と現在の仕事	末松大司	20	
9		大網白里市での取り組みについて	中村 仁	15	
10		環境って広いなあ～	河井恵子	19	
11		自然観察への誘い(いざない)	綿貫 沢	16	
12		中国の廃棄物輸入規制、国内外の影響と動向	湯端尊史	19	
1		SDGsにおけるEC千葉の取り組みについて	吉田昌弘	23	
2		地球温暖化(気候変動)問題への対策	橋本 正	18	
2020		7	「コロナ禍に考える食品ロスとその影響」	佐藤ミヤ子	11
	8	ふるしきはエコ!	中川栄子	12	
	9	オンライン授業	志澤達司	9	
	10	水素エネルギー今昔物語	阿部勲夫	10	
	11	わが家の地球温暖化対策	草野 信	9	
	12	気候安全保障	松村利治	9	
	1	3Rを活用した「プラスチック製敷板が高評価」	井町臣男	8	
	3	国際理解教育(1)	綿貫 沢	10	
	(4月,5月,6月,2月は新型コロナにより活動停止)				
	2021	4	チバニアン以降のCO2濃度とGHGの概算	山畑祐哉	6
		5	国際理解教育(2)	綿貫 沢	9
		6	電気料金領収証が教えてくれる光熱費節約術	佐藤ミヤ子	7
7		やってみよう 身の回りのうちエコ!	草野 信	8	
8		「エネルギー基本計画(素案)の概要」	吉田昌弘	12	
9		2050年カーボンニュートラルに不可欠な次世代原発	荒野詰也	13	
10		「うちエコ診断」とはどんな活動?資格はいるの?	中村 仁	10	
11		第24回「船橋フェア」出展とアンケート結果	井町臣男	5	
12		考えよう、日本の電力事情と水素の活用	小林 亨	9	
1		気候危機と食糧危機の現状	荒野詰也	9	
2		「プラスチックごみはどこへ」～私たちへの課題～	佐藤ミヤ子	9	
3		太陽光発電(ソーラー発電)について	服部達雄	10	
2022	4	大人が楽しむ科学教室、生活に役立つデータの活用法	志澤達司	10	
	5	調停って何?	河井恵子	7	
	6	座談会「石油・ガス・LNGが使えなくなったら?」	(センター)	9	
	7	地球温暖化問題の大きさと対応策の疑問点	二宮 豊	15	
	8	パソコンとの上手な付き合い方	中村 仁	11	
	9	海で測る～海で調べる	捧 一夫	7	
	10	電気自動車の将来性	小林 亨	12	
	11	水環境を守る ～身近なSDGs～	井町臣男	12	
	12	エネルギー・気候危機 から捉える「食品ロス」	佐藤ミヤ子	9	
	1	二つの中国	中嶋 滋	9	
	2	意見交換会(1)みんなのひろばの今後	(センター)	9	
	2023	4	意見交換会(2)みんなのひろばの今後	(センター)	6
6		自然を身近に～生態系の豊かさから学ぶ生きぬく力～	石松茂子	10	
7		エクセル ～便利な関数や機能をご紹介～	小林 亨	12	
8		持続可能な社会の実現と環境教育の現状	吉田昌弘	8	
9		基礎から分かるISOマネジメントシステム	志澤達司	7	



### 3. 自然観察会（2008年～2022年）

～歴史が織りなす様々な出会い旅、そこにはいつも参加者の笑顔が～

#### 3.1 経緯

1998年「昭和の森自然探訪」が自然観察会の始まりと聞く。2003年環境学習センター設立後は加速度的に充実度を増し、更に、2008年からはより広くよりたくさんの学びと体験が出来るようになったことが下記の記録(表2)からも明らかである。

因みに、環境省OBである小角浩、渡辺忠明両氏を軸に企画されてきた宿泊付きの県外自然観察会、更には地元会員の協力のもと県内など身近な自然観察会も実施されてきた。近年は、コロナ感染症のため2年間の中止に見舞われながらも、環境学習センター運営スタッフの努力により、広域見学会から身近な見学会にと、規模は小さいが参加者に喜んでいただける企画が実施できていることは嬉しい。

(表2) 自然観察会の実績

	年度	月	場所(観察会の見どころ)	参加者数	企画・実施
1	2008	10	十和田八幡平自然観察会		小角浩、林正徳、中庭武雄、種本利治
2	2009	9	樽池高原(白馬～川中島～鬼押し出し～ハッ場ダム)		小角浩、林正徳、中庭武雄
3		11	東大演習林～房総丘陵の植生		藤平量郎、吉田昌弘
4	2010	9	佐渡(両津～金北山～相川金山～トキ管理センター)		小角浩、林正徳
5	2011	9	裏磐梯(猪苗代湖～五色沼～裏磐梯～大内宿)		小角浩、林正徳、中庭武雄
6		3	勝浦～海の博物館		中庭武雄、吉田昌弘
7	2012	6	房総の自然観察会(盤洲干潟)		湯谷賢一郎、吉田昌弘
8		7	出羽三山(蔵王～羽黒山～湯殿山～山寺～喜多方)	17	小角浩、林正徳、中庭武雄
9	2013	7	駒留湿原(桧枝岐～沼山峠～尾瀬沼)	21	渡辺忠明、林正徳、中庭武雄
10	2014	9	富士北麓(船津胎内樹型～鳴沢氷穴～忍野八海)	24	渡辺忠明、吉田昌弘
11		3	皇居東御苑	30	渡辺忠明、吉田昌弘
12	2015	9	富士南麓(柿田川湧水群～田貫湖～白糸の滝)	23	渡辺忠明、吉田昌弘
13		4	鎌ヶ谷市栗野地区公園(春の里山自然観察会)	14	渡辺忠明、吉田昌弘
14	2016	9	那須・塩原(那須火山～沼原揚水発電～茶臼岳)	25	渡辺忠明、吉田昌弘
15		2	白井市七次調整池(オオハクチョウの渡来南限)	10	渡辺忠明、吉田昌弘、辻川毅
16	2017	10	中部山岳国立公園(乗鞍岳～番所大滝～三本滝)	19	小角浩、吉田昌弘、佐藤ミヤ子
17	2018	5	皇居東御苑(江戸の園芸文化～湿地植物～武蔵野雑木林)	27	渡辺忠明、吉田昌弘、佐藤ミヤ子
18		10	県立中央博物館生態園(多様な森林草地と動植物の生態)	14	由良浩氏、佐藤ミヤ子
19	2019	9	県内鶴原理想郷(海岸性植物と歴史～リアス式海岸と生きもの)	13	佐藤ミヤ子
(2020年～2021年新型コロナ対策のため中止)					
20	2022	11	松戸市(戸定ヶ丘歴史公園～千葉大学園芸学部洋式庭園)	11	捧一夫、中村仁、佐藤ミヤ子
合計				248	

### 3.2 これからと課題

参加者の固定化と減少傾向が続いている。コロナ以前は元気に参加いただいた会員の方々も軒並み高齢を迎え、以前のような参加が困難になっている事も要因の一つと考えられる。

この辺で、「会員が求めている自然観察会」とはどういうものなのか、どのような企画なら参加したいと思うのか、再度具体的なアンケートを実施して見たいと考えている。会員が喜んで参加したいと思うものであれば“一緒に参加しよう！”とお友達やご家族にも声をかけて下さるのではないかな。

さらに、より積極的にHPやイベントなどで、会員以外の方々も参加しやすいような工夫と呼びかけの機会を増やし、会員増をも見据えながら小粒でも皆さんに喜んでいただける企画を手掛けて行きたいと思っている。会員の皆さんからの協力は企画するスタッフへの大きな応援であり、これからもそれぞれが出来る力を持ち寄りながら、企画する方も参加する方も双方がより満足できるものを目指していきたいと考えている。

#### 自然観察会の一コマ



富士山北麓(2014.9.3)



県立博物館生態園(2018.10.20)



皇居東御苑(2018.5.31)



鵜原理想郷



戸定ヶ丘歴史公園(2022.11.26)

## 4. 学校・地方自治体等の講師派遣活動

### 4.1 これまでの歩みと現状

従来、歴代の環境学習センター長を中心に、会員の地元の学校や公民館等への講師派遣活動が活発に実施されてきた。

しかしながら、昨今は環境の変化が著しく、世代間格差の広がりと共に、教育内容や歴史そのものも時代の再考証があちこちで行われている時代を迎え、私たちが育った時代との感覚の違いに戸惑う場面にもしばしば出会う。子供たちを取り巻く環境も一変し、ネット社会に育った子供たちであることを充分認識した上での対応が迫られている。また、シニア世代にあっては、関心や興味の多様化が進み、さまざまな質問が飛んでくる時代を迎え、状況の変化やニーズを汲み取った内容への工夫と研鑽が講師には求められていると感じる。

近年は、地方自治体等から多くの講師派遣のリポート依頼をいただけていることは励みでありとても嬉しい。

### 4.2 今後に向けて

環境活動はまさに SDGs17 項目全てに直接間接関連している。依頼元の自治体や参加者から“また来年も”との声がいただけるよう、時代のニーズを捉えた日々の研鑽と工夫による時代の要請に応え得る質の高い講座・講演が求められている。

同時に、自治体等からの講師派遣要請に応えられる講師陣の育成も課題である。一つのツールとして「環境学習センター〈みんなのひろば〉」を積極活用し、若手を中心に活動の幅を広げて行っていただきたい。

### 4.3 活動実績

表3に、会員それぞれの学びの歴史と活躍を時系列に記載した。



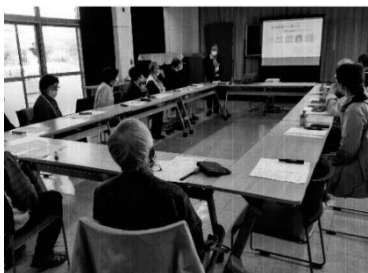
市原市辰巳公民館 (2019.4.6)



千葉県総合教育センター  
高等学校初任者研修 (2023.7.4)



成田市生涯大学院 (2021.11.5)



千葉市葛城公民館 (2022.11.18)



八街ユネスコ協会 (2022.3.14)

(表 3) 学校関係・地方自治体等への講師派遣の実績

年度	派遣先	講演・講座名	講師
2008	東京学館浦安高等学校	3Rと循環型社会、廃棄物と不法投棄命を育む水 もったいないの心で廃棄物を見直そう 調べよう水の循環、水質測定 大気循環、大気の汚れ(NOXと酸性雨)	石黒忠 上口清彦 山口由富子 吉田昌弘、中庭武雄 服部達雄
2008 - 2011	南房総市市民大学	地域における地球温暖化対策への取組 フードマイレージと地産地消 生物多様性と川の自然度調べ もったいないの心で廃棄物を見直そう 身近に出来るエコ活動、加速・省エネ 太陽光発電、水環境、	國廣隆紀、林正徳 小関光二 上口清彦 小野鈴子 大山長七郎 鈴木優子、大西優子
2008	袖ヶ浦市立昭和中学校	消費者の権利と保護	國廣隆紀
	山武地区中学校 技術科研修会	環境教育、省エネ、水環境 バイオマス、太陽光発電	戸村 泰、阿部邦夫 小関光二、見並勝佳 服部達雄
2009 - 2013	木更津工業高等専門学校	EC千葉の環境学習実施例と教材 環境とまちづくり 低炭素社会と太陽光発電 緑のカーテンで涼しいまちづくり	國廣隆紀、吉田昌弘 戸村 泰、阿部邦夫 土田茂道、小関光二 鈴木優子
2009	袖ヶ浦市小学校	地球温暖化対策	國廣隆紀
	県立鎌ヶ谷西高等学校	省エネ、水の分析方法を学ぶ、 バイオマスの活用功罪、太陽光発電 食の観点から地球温暖を考える グリーンコンシューマーとマイバック作り	長内悦子、服部達雄 阿部邦夫、倉田智子 大西優子、久保田隆 長谷川三喜雄 小野鈴子
	県立茂原高等学校	調べよう水の環境、 棕櫚の植生と環境変化 生活排水の活性汚泥処理	見並勝佳、上口清彦 大山長七郎、中庭武雄、 山口由富子、野口康男
2012	袖ヶ浦市民講座	フードマイレージと食糧自給	國廣隆紀
	市原市民大学	エネルギーと環境	辻川 毅
	袖ヶ浦市長浦公民館		國廣隆紀
	柏市立柏中学校	植物から環境の変化を考える	中庭武雄
	県立泉高等学校	私たちの暮しとエネルギー	國廣隆紀
2013	船橋市公民館	地球温暖化の現状	山本 忠
	君津市上総公民館		國廣隆紀
	白井市立 七次中学校	地球温暖化	辻川 毅
2013 - 2014	浦安市民大学	地球環境問題と生物多様性の危機 地球温暖化、化石と再生エネルギー 生活に必要な食糧と水 緑のカーテンでまちづくり	山本 忠 國廣隆紀 鈴木優子
2014 - 2017	放送大学千葉学習センター	エネルギーと環境(8講座×4回)	吉田昌弘
2015	白井市再生可能エネルギー協議会	長続きする省エネ ～省エネは何のために～	佐藤ミヤ子
2016		どちらを選ぶか、その選択が 一人一人に委ねられています	佐藤ミヤ子
2016	コープみらい 親子環境教室	食べ物から考える地球温暖化 ～食生活の見直しから考える～	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
2017		毎日の食べ物はどこから来るの	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
2017	八千代市役所 環境政策課 審査員研修	地球温暖化防止 ～私たちに出来る事～	吉田昌弘

年度	派遣先	講演・講座名	講師
2018	日本技師会千葉支部 CPD講習会	家庭部門のCO2排出削減の現状と うちエコ診断の果たす役割	吉田昌弘、佐藤ミヤ子
	佐倉市立志津小・中学校 教員研修	地球温暖化	茂利 晃
	印西市立立原小学校 児童・教員研修	地球温暖化	茂利 晃
2019	市原市辰巳公民館	日常生活から考える「食品ロス」	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	千葉市立柏井小学校	みんなで考えよう地球温暖化！	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	市原市生涯学習センター 牛久ひまわりの会	地球温暖化ってなあに ～今地球では何が起きている～	佐藤ミヤ子
	茂原市役所リサイクル委員研修会	「食品ロス」とその影響	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	茂原市役所リサイクル 五郷地区委員研修会	「食品ロス」とその影響	佐藤ミヤ子
	野田市 関宿中央公民館	「食品ロス」とその影響	吉田昌弘、佐藤ミヤ子
	成田市ユネスコ協会	一緒に考えよう気候変動 ～未来世代への私たちの課題～	佐藤ミヤ子
2020	成田市生涯大学院	進む気候変動、今や気候危機に	吉田昌弘
	市原市姉崎公民館	地球温暖化～我々に出来る事～	吉田昌弘
	千葉市生涯学習センター	コロナ禍に考える「食品ロス」	佐藤ミヤ子
	市原市姉崎公民館	コロナ禍に考える「食品ロス」	佐藤ミヤ子
2021	成田市生涯大学院	プラスチックごみの行方 ～SDGs12、13、14、15～	佐藤ミヤ子
2022		プラスチックごみの行方 ～SDGs12、13、14、15～	佐藤ミヤ子
2021	長生村保健衛生推進協議会	台風15号・19号・東日本豪雨 ～これって地球温暖化の影響～	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	市原市辰巳公民館	台風15号・19号・東日本豪雨 ～これって地球温暖化の影響～	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	茂原市役所リサイクル委員研修会	レジ袋とエコバックから考える地球環境	佐藤ミヤ子
	木更津市役所 地球温暖化対策庁内研修会	地球温暖化 ～気候変動から気候危機へ～	吉田昌弘
	木更津市西清川公民館	みんなで学ぶSDGs ～環境問題を考える～	吉田昌弘
	木更津市かずさFM	子どもサミット in きざらづ	佐藤ミヤ子
	木更津市西清川公民館	身近な食品ロスの問題	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	木更津市役所(かずさFM)	有機肥料、有機認証ほか	吉田昌弘
	成田市中央公民館子どもセミナー	成田の未来を考える ～今地球が熱い！	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
2022	千葉県総合教育センター 新任主任者研修	持続可能な社会の実現と 環境教育の現状	吉田昌弘
2023		持続可能な社会の実現と 環境教育の現状	吉田昌弘
2022	千葉県総合教育センター 高校初任者研修	SDGsを見据えた 教科横断的な環境教育推進	吉田昌弘
2023		SDGsを見据えた 教科横断的な環境教育推進	吉田昌弘
2022	木更津市西清川公民館	食品ロスと課題(SDGs12,13)	佐藤ミヤ子、吉田昌弘
	市原市役所 職員研修会	地球温暖化と対策 ～気候変動から気候危機へ～	吉田昌弘
	千葉市葛城公民館	地球環境とレジ袋の削減	佐藤ミヤ子
	木更津市役所子どもセミナー	海のみらい木更津のみらい	吉田昌弘、佐藤ミヤ子
	成田市中央公民館子どもセミナー	海のみらい 地球のみらい	佐藤ミヤ子
	木更津市富来田公民館	クイズで考える地球温暖化	吉田昌弘
	八街ユネスコ協会	食品ロスと周辺状況、課題	佐藤ミヤ子
	木更津市富来田公民館	みんなで学ぶSDGs ～食品ロスと私たちの課題～	佐藤ミヤ子、吉田昌弘

## 5. エコ検定受験対策講座の開催

### 5.1 「環境社会検定試験」(通称：エコ検定)の誕生と歩み

「持続可能な社会の実現」のための根源は「人」とあるとの認識に立ち、環境に関する幅広い知識を基に環境問題に積極的に取り組む“人づくり”と、環境と経済を両立させた「持続可能な社会づくり」を目的とし、2006年に東京商工会議所が「環境社会検定試験ECO検定」を創設。企業においてもビジネスと環境の相関を的確に説明できる人材育成が欠かせない要素となり、企業での環境推進や就職対策に役立つことで、これまで36万人を超える「エコピープル」が誕生している。

### 5.2 「EC千葉 エコ検定受験対策講座」

当時の環境学習副センター長 山本 忠が企画し立ち上げた。見並勝佳、橋本 正、服部達雄、吉田昌弘、宮田 勉、佐藤ミヤ子の6名で講師を担当。公式テキスト「eco検定」を基に、「地球の成り立ち・エネルギー・生物多様性・地球環境問題・循環型社会など」環境の基本から地球環境全般に渡り、受講生と講師が共に学びを重ねた。

### 5.3 存続に向けた課題

講座のPRが「EC千葉の広報」や「EC千葉のHP」等に限られ、結果、周知不足により受験希望者の確保が持続できなかった原因の一つではなかったかと考えている。存続に向けて他に方法がなかったのか、一旦休止し検討し直す手立てもあったのではないかと考えている。受講生からの反応は良く、合格者も出していただけに「終了」はとても残念である。

受講者と共に挑戦した「エコ検定受験対策講座」の日々を表4に記す。

(表 4) エコ検定受験対策講座の開催

年	月	期	概要	受講者数	会場	講師	
2014	9	前期	集中講座(1回)	3名	千葉市民会館	見並勝佳・山本忠・橋本正・服部達雄・佐藤ミヤ子	
	11	後期	直前講座(2回)	4名			
2015	5	前期	集中講座(2回)	延6名	千葉市民活動支援センター	山本忠・橋本正・佐藤ミヤ子	
	6		直前講座(1回)				
	7		直前講座(1回)				
	10	後期	集中講座(2回)				山本忠・吉田昌弘・橋本正・佐藤ミヤ子
	11		直前講座(2回)				
2016	6	前期	集中講座(2回)	延17名	千葉市文化センター	見並勝佳・吉田昌弘・宮田勉・服部達雄・橋本正・佐藤ミヤ子	
	7		直前講座(各1回)				(株)関電工
	11	後期	集中講座(各1回)		千葉市生涯学習センター	吉田昌弘・橋本正・佐藤ミヤ子・服部達雄・宮田勉	
2017	6	前期	集中講座	延10名	千葉市民活動支援センター	橋本正・見並勝佳・佐藤ミヤ子	
	7		直前講座				橋本正・佐藤ミヤ子
	10	後期	集中講座			橋本正・見並勝佳・服部達雄	
	11		直前講座				橋本正
全 19 回				延40名		講師 6 名	

## 水環境対策センター

水環境対策センター長 井町 臣男

### 1. あゆみ

当センターの前身は水環境研究会（設立 2005 年）、その後 2008 年 5 月、EC 千葉の 5 番目のセンターとして、古畑義正センター長のもと設立した。研究会では水環境問題に関する啓発活動を中心に、①エコメッセちば等でのパネルによるデモンストレーションや分析、実験。②高等学校の環境学習に参画し、水の大切さを訴える。③県との協働事業の提案などをおこなってきた。

当センターでは研究会の方針を踏襲しつつ、2009 年から県との協働事業として「浄化槽啓発講習会」がスタート。2011 年、「浄化槽啓発特別プロジェクト」を設置し、上口清彦プロジェクトリーダーのもと取組みを開始。県との協働事業を含め、2022 年度までに累計 110 回以上、「浄化槽啓発講習会」へ講師を派遣している。

さらに、2019 年から上口清彦センター長の発案で小学生を対象とした「水環境体験教室」を新たに取り入れ、2022 年度までに 8 回開催し講師を派遣した。

メンバーは、これまで 13 名前後で推移し、センター長は古畑義正（2008～2010）⇒見並勝佳（2011～2012）⇒上口清彦（2013～2020）⇒吉田昌弘（2021）⇒井町臣男（2022～2023）へとバトンを渡し、水環境を守る活動を継続している。

### 2. 活動内容

浄化槽使用者向け「浄化槽啓発講習会」や小学生対象「水環境体験教室」の講師派遣をはじめ、近年では SDGs を「水環境」に紐付けて、水環境を守るための活動をおこなっている。

- 1) 水環境に関する講演会・講習会・見学会の企画実施、講師の派遣
- 2) 県、市町村、学校、各団体、NPO 法人との「水環境保全」協働活動の推進
- 3) 千葉県および市町村の環境展などへ「パネル展示」を中心にした啓発活動
- 4) 当会の各部・各センターと連携した「環境講座」における水環境関連の講師対応
- 5) 当会ホームページで活動内容を公開し、一般の方の水環境への関心を高める
- 6) 浄化槽啓発講習会や水環境体験教室における協力者の募集と技能レベル向上
- 7) 講習会テキストおよびパワーポイントを講習内容にそって更新し活用する

### 3. 活動実績

#### 3.1 浄化槽啓発講習会

2009 年度、県との協働事業に採択された「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施」の講習会が 7 月から始まった。これは浄化槽を設置した方を対象とした講習会で、下水道未普及地域などにおける河川、湖沼の水質環境を改善するためには浄化槽放流水の水質レベル向上が必須であり、浄化槽の維持管理に関する啓発教育をおこなうことが目的であった。

「浄化槽啓発講習会」は、これまで県内各地で開催し、①千葉県の水環境、②浄化槽のしくみ・働き、③浄化槽の管理・清掃・保守点検、④生活排水が水系に与える影響、⑤水質分析等の実習（透視度・pH・残留塩素・トイレトペーパーの水分解・汚れた皿の洗い方）など、参加者と一緒におこなう実習を取り入れた参加型講習会である。2019 年の台風 15 号・19 号およびコロナ禍の影響で、県との協働事業は 2019～2022 年度にかけて予算が付かず実施されていない。



[浄化槽啓発講習会の主な実績]

開催日	開催場所	主催	参加者数	備考
2008	1 27 印旛合同庁舎	(社)千葉県環境保全センター	50	保全センター会員向け講習会
2009	1 16 印旛合同庁舎	(社)千葉県環境保全センター印旛支部	51	環境保全フォーラム(会員向け講習会)
	7 18 船橋市東部公民館	千葉県生活環境部水質保全課	23	当協議会からのプロポーザルによる千葉県生活環境部水質保全課との協働事業(業務委託) [どの日も午前・午後と2回の講座]
	7 25 野田市さわやかワークのだ		21	
	8 22 香取市佐原中央公民館		30	
	8 29 市川市市川文化会館		40	
	9 12 旭市海上公民館		20	
	9 26 山武市成東文化会館のぎくプラザ		49	
	10 17 市原市市民会館		60	
	10 24 午前: 茂原市豊田福祉センター		25	
	10 24 午後: 茂原市五郷福祉センター			
	11 7 木更津市公民館		18	
	11 21 いすみ市岬公民館		19	
12 5 南房総市千倉保健センター	38			
2010	9 11 (株)TOTO佐倉工場	(株)TOTO	TOTO)モデルフェア工場見学者を対象	
	9 12 (株)TOTO佐倉工場			
	11 6 大網白里町中央公民館	千葉県生活環境部水質保全課	22	講師派遣(業務委託)
	11 7 木更津市中央総合福祉会館		27	[どの日も午前・午後と2回の講座]
	11 14 市原市姉ヶ崎公民館		8	
	11 21 銚子市勤労コミュニティセンター		10	
	11 28 館山市コミュニティセンター		18	
	12 3 千葉市オークラ千葉ホテル	(社)千葉県環境保全センター	32	環境保全センター役員向け
	12 5 旭市海上公民館	千葉県生活環境部水質保全課	10	講師派遣(業務委託) [どの日も午前・午後と2回の講座]
	12 12 香取市中央公民館		12	
	12 19 山武市山武市役所会議室		19	
	12 19 いすみ市岬公民館		17	
2011	1 30 鋸南町中央公民館		9	
	10 1 我孫子市	千葉県水質保全課 千葉県浄化槽団体連絡協議会		浄化槽シンポジウムとして実施され、
	10 15 白井市			
	10 29 鎌ヶ谷市東部学習センター		52	EC千葉は第3回(10/29)、
	11 12 鴨川市市民会館		33	第4回(11/12)の講師担当
	11 26 市原市			
	12 10 八街市中央公民館		(社)千葉県環境保全センター印旛支部	30
2012	9 29 一宮市中央公民館		千葉県水質保全課 千葉県浄化槽団体連絡協議会	52
	10 27 富津市中央公民館	32		
	11 17 南房総市千倉保健センター	31		
	12 1 旭市いとおかコートピアセンター	33		
	12 8 山武市市役所3階大会議室	51		
2013	3 2 千葉職業能力開発短期大	千葉職業能力開発短期大学 「公開講座2012 親子環境体験教室」	28	親子での参加(小・中学生とその親)、 団体・企業関係者、教育関係者
	9 19 大多喜町中央公民館	千葉県水質保全課 千葉県浄化槽団体連絡協議会	17	
	11 9 成田市下総公民館		33	
	11 16 多古町コミュニティプラザ		25	
	11 30 袖ヶ浦市市民会館		34	
	12 7 市川市曾谷公民館		39	
2014	11 15 東金市豊成公民館	千葉県水質保全課	43	
	11 29 野田市山野崎農業構造改革センター	千葉県浄化槽団体連絡協議会	39	
2015	1 28 山武市市役所3階大会議室		57	「美しい作田川を守る会」会員向け
	4 9 野田市市民会館	野田市郷土博物館	13	第121回寺子屋講座
	8 7 野田市さわやかワークのだ	EC千葉水環境対策センター	22	野田市市民活動団体都EC千葉会員
	11 7 白井市保健衛生センター3階	千葉県水質保全課	30	
	11 14 東金市源公民館	千葉県浄化槽団体連絡協議会	20	
2016	1 28 山武市市役所3階大会議室		45	「美しい作田川を守る会」会員対象
	11 13 銚子市勤労コミュニティセンター	千葉県水質保全課	24	
	11 26 木更津市中央公民館	千葉県浄化槽団体連絡協議会	34	
2017	1 30 九十九里つくも学遊館		31	「美しい作田川を守る会」会員対象
	11 11 野田市庁舎 中二階会議室	千葉県水質保全課	43	
	11 18 匝瑳市・市民ふれあいセンター2階	千葉県浄化槽団体連絡協議会	31	
	11 25 印西市中央公民館4階・視聴覚室		29	
2018	10 13 横芝光町町民会館大ホール	千葉県水質保全課	53	
	11 7 東金市庁舎5階大会議室	千葉県浄化槽団体連絡協議会	33	「美しい作田川を守る会」会員対象
	11 10 南房総市・とみづら元気倶楽部・小ホール		53	
	11 16 千葉県東総文化会館・小ホール	旭市「環境教育応援団講師派遣」	177	
11 17 野田市庁舎 会議室	野田市「親子環境・体験教室」	13	「浄化槽啓発講習会」の延長で「水環境に係わる」講習会を初めて開催	
2019	8 30 野田市庁舎 会議室	野田市下水道課	30	「水環境体験教室」
2020	2 7 東金市庁舎 第一委員会室	東金市・環境保全課	27	「美しい作田川を守る会」会員対象
2023	2 9 山武市成東文化会館	「美しい作田川を守る会」山武市	28	「美しい作田川を守る会」会員対象



本講習会は、単独処理浄化槽から合併処理浄化槽へ切替えるきっかけ作りや浄化槽の正しい使い方を学び、浄化槽からの放流水の水質向上を図っている。

講師は、メンバー数名が交替で担当した。2012年以降の記録によると、稲葉信克、上口清彦、久保田隆、國井茂樹、笹木勝利、櫻井哲、佐藤ミヤ子、種本（松村）利治、辻川毅、西田啓作、野口久、服部達雄、林正徳、久本泰秀、古畑義正、見並勝佳および井町臣男が正・副講師をつとめた。

### 3.2 水環境体験教室

2019年から始まった「水環境体験教室」は、主に小学4年生を対象に、講習45分間（合同）および実習45分間（クラス別）をおこない、質問を交えながらの体験学習である。上口清彦を中心に、久保田隆、松村利治、井町臣男が交替で正・副講師をつとめてきた。これまでの「浄化槽啓発講習会」で培ってきたノウハウを取り入れている。

パワーポイントを活用した講習は、①水の形態、②水の惑星地球、③水の循環、④家庭で使う水の場所や量、汚れ負荷量、⑤浄化槽や下水道のしくみ、⑥微生物の働き、⑦上水道などで構成する。どの学校でも、講師の問いかけに対して、多くの児童が積極的に手をあげて回答し、水環境に関する知識の深さに驚いた。

休み時間後の実習では、①トイレットペーパーほか3種の水分解実験、②砂糖・塩の溶解、③汚れた皿の洗い方、④残留塩素測定、⑤牛乳など身近な飲み物5種類のpH測定を児童参加でおこなう。この時も、講師から「お手伝いできる人は、いますか？」と児童に声かけすると、すぐに大きな声と手をあげて指名を希望、選ばれた児童は喜んで実習を体験している。また、各学校の計らいで、テキストを児童へ配布しており、講習および実習の理解向上の手助けとなっている。次にこれまでの開催実績を示す。

「水環境体験教室」の実績						
No	開催日		開催場所	対象	クラス数	参加者
1	2019	8/30	野田市役所会議室	親子	—	30
2	2020	9/25	市川市立宮田小学校	4年生	2	81
3		11/16	野田市みずき小学校	4年生	3	99
4	2021	3/16	国府台小学校&第一中学校	小・中学生	—	24
5		11/19	白井市立桜台小学校	4年生	2	67
6		11/26	野田市立川間小学校	6年生	1	31
7	2022	2/22	市川市立宮田小学校	4年生	2	79
8		3/11	野田市立南部小学校	4年生	4	131
9	2023	1/30	野田市立南部小学校	4年生	4	127

[注]

- 1) 参加者は、教師も含んだ総数。
- 2) 講習は1回実施。実習は各クラス別に実施(1~4回)

#### ○講習および実習の様子 (2020. 9. 25)



### 3.3 施設見学会

水環境に関連した施設見学会を計画実施している。2020年から2022年までは、新型コロナウイルス感染症対策として参加者の安全・安心を最優先し計画を見送っていたが、2023年久しぶりに実施することができた。

○2013年9月10日（火）：浄化槽・点検・清掃等の見学会、参加者10名。

東金市の(株)新興ウオターマネジメント工業の協力で実地見学。浄化槽の保守点検・清掃（浄化槽水リサイクル車＝凝集剤・スクリーン搭載のパキューム車）および、汚泥処理場を見学した。メンバーは、水環境を専門にしているが、浄化槽の進歩も著しく講師としての技量向上は必須である。（広報44号）

○2015年8月4日（火）：浄化槽講習会・キッコーマン(株)見学会、参加者22名。

午前、野田地域職業訓練センター研修室にて、上口清彦講師により、当会会員と野田市とその周辺地域の環境団体向け公開講習会（浄化槽使用者向け啓発講習会）をおこなった。午後は、キッコーマン(株)の工場見学と該社が廃棄物を削減し環境に配慮した企業経営をどのようにしているか、などの話を聞いた。（広報47号）

○2016年5月30日（月）：首都圏外郭放水路見学会、参加者41名。

参加団体はEC千葉はじめ6団体、1企業。EC千葉会員14名

「龍Q館」の担当者から概要説明を聞く。その後、第一立坑の入り口に移動。116段の階段を下り全員が揃った後、立坑部分の説明があった。この施設は、地理的要因（旧、庄和町周辺はすり鉢状地形）と過去の水害の対策として、国土交通省が13年の歳月をかけて2006年6月に完成させた。

○2023年9月26日（火）：北千葉導水ビジターセンター見学会、参加者9名

手賀沼の上流部にある「北千葉導水ビジターセンター」は、北千葉第二機場内にあり、北千葉導水事業の役割や手賀沼の自然環境などを紹介する施設。団体申込みにより、60分間のガイド付きで施設の役割、汲み上げポンプ見学、大型シアターや立体模型による解説があり、とても分かり易く見学ができた。この北千葉導水路は、①治水、②利水、③浄化の3つの役割を持つ施設として2000年に建設された。



### 3.4 センター会議の開催

年に数回センター会議を開催し、メンバーで情報を共有化している。船橋市市民活動サポートセンター（フェイス5階）などで開催していたが、2021年から、新型コロナ感染症対策として、会場開催だけでなくオンライン（ZOOM会議）も活用しておこなっている。

当会議では、前年度の活動報告、次年度計画、浄化槽啓発講習会や水環境体験教室の開催予定と担当講師の選定、「浄化槽啓発講習会」の関係団体（千葉県環境生活部水質保全課、（一社）千葉県環境保全センター、（公社）千葉県浄化槽検査センターおよび（一社）千葉県浄化槽協会）との協働事業、施設見学会の計画、各センター員の現況や今後の抱負などを話し合っている。

### 3.5 当センターの役職者と功績

歴代センター長は前述したのでここでの記載は省略し、副センター長として尽力された方々（2009～2023）を時系列で紹介すると、上口清彦、見並勝佳、久保田隆、櫻井哲、井町臣男、松村利治および捧一夫である。（センター長就任者も含む）

当センターにおける数々の「水環境を守る」活動に加え、永年の環境保全活動を高く評価され、上口清彦、見並勝佳および久保田隆が県知事感謝状（環境功労賞）を、さらに辻川毅および上口清彦は環境大臣表彰（地域環境保全功労者）をいただいた。

また2011年6月、日本水環境学会関東支部から、当センターの浄化槽に関する啓発活動は、地域の水環境保全に重要な業績であると評価され、EC千葉は「水環境保全活動奨励賞」をいただいた。

## 4. 次のステップへ向けての抱負

2020年8月現在、県の下水道処理人口普及率は72.1%。生活雑排水が未処理で放流される「単独処理浄化槽」から浄化処理性能の良い「合併処理浄化槽」への切替えは、助成金の効果もあり促進されてきた。このような経緯から「浄化槽啓発講習会」の開催頻度は減少傾向で、かつ2019年の台風15号・19号、2020年以降はコロナ感染症の影響で、ますます開催機会が少なくなってしまった。

しかしながら、人口約631万人の千葉県には、まだ浄化槽は約55万基あり、各地で必要とされ稼働している。「浄化槽講習会」を継続していくためには、水の循環、水環境の保全やSDGsを取り込んだ「水環境を守る」講習会へと進化させなければならない。

また、「水環境体験教室」は、先生方の評価が高い体験実習（各クラス別実施）で、クラス数の多い小学校や中学校では、どのように行えば良いかが課題である。

次のステップとして考えること、それは、まず前身である「研究会」の初心に帰って、水環境問題に関する啓発活動を中心に、①環境イベント等でのパネルによるデモンストラレーションや分析、実験。②小・中等高等学校の環境学習に参画し、水の大切さを訴える。③県や自治体へ協働事業の提案などの取り組みである。

水は自然界で循環している。私たち生物にとって、水はなくてはならない大切なもの。生活や物の生産で使った水はきれいに浄化し、自然界に返す使命がある。子供から大人まで、水の大切さと浄化する仕組みを学び実践すること。その気づきとなる「環境学習」の場をこれからも持続して提供していくことは、環境カウンセラーの役割である。

当センターでは、皆様の参画を歓迎し、水環境を守る活動を共にしたい。

# 生物多様性研究会

國廣 隆紀

## 1. あゆみ

地球上には人類と共に数多くの生物が共存しているが、人口の急速な増加とその営為による自然破壊が100年以上も前から意識されて対策が講じられてきた。それにもかかわらず、生物の個体、種類、個体群、群落、群衆などの構成に変化が現れて希少な生物は絶滅の危機にさらされ、それらのバランスを維持する生物多様性の保全が重要視されている。

2008年～2010年、環境省事業として「いきものみつけ」が行われ、EC千葉からは倉田 智子、小西 由希子が千葉県幹事を務めた。

千葉県でも2008年に環境生活部自然保護課に「千葉県生物多様性センター」が設置され、千葉県立中央博物館内にて県内の生物多様性の各種調査や啓発活動が展開されている。

EC千葉では設立当時から自然環境に造詣の深い会員が多く、1998年10月に企画部の田中 茂のリードで千葉市昭和の森にて第1回自然観察会を開催し、園内の動植物の観察を行った。

以後、2000年の第2回も千葉市昭和の森にて、2001年の第3回は鎌ヶ谷、船橋、白井地区にて川辺のウォーキング、2002年の第4回及び2003年の第5回は千葉市昭和の森にて続けて開催した。

しかし、その後の自然観察会は生物の観察にとどまることなく自然全体を見ようと言うこととなり、環境学習センターの事業に位置づけることとなった。

前記のように2008年から千葉県では「千葉県生物多様性センター」が活動を始めておられ、EC千葉で生物多様性の保全に尽力しようということになった。2010年11月、千葉県立中央博物館の副館長中村 俊彦様を講師にお願いして秋季研修会を開催し、生物多様性の重要性を認識した。今後の活動について討議して「生物多様性研究会」を設立しようと話し合い、翌2011年4月の理事会で鈴木 優子を会長として設立した。

## 2. 水辺の生きものしらべ

EC千葉の活動支援を南房総市環境保全課にはたらきかけ、「南房総市民環境大学」に講師を派遣して「生物多様性-川の生き物を調べよう」と題して2011年9月に鈴木 優子が講義をすることとした。講義の前に南房総市に流れ太平洋にそそぐ丸山川に生息する生きものたちの実態を知って行うということになった。

早速、8月に生きものしらべに必要な器具などを最小限買い揃えて、南房総市環境保全課の人達も誘って、河口から最上流まで遡り、生息する生きものの分布を調べると、上流から河口に向けて水質が悪くなるにつれて生きものの種類と数が変化することも明確に分かった。

この「丸山川上流の水辺の生きものしらべ」を翌2012年8月にも開催すべく計画し、「南房総エコネット」に提案して地域の子どもたちを集めてもらい、その技法や生きものの種類の同定などをレクチャーして無事開催できた。

以後、毎年8月に、「南房総エコネット」は、「丸山川の水辺の生きものしらべ」を開催され、生物多様性研究会の有志は毎回、それに参加協力してきた。この10回におよぶ定点観察も「南房総エコネット」のみなさんの高齢化のため、改組されることになり、後継の団体がなく2023年は開催されなかった。誠に残念である。

しかし、水辺の生きものしらべで得られた技法やノウハウは、2017年から始まった事業部の「大多喜町環境教育プログラム」での養老川の水辺の生きものさがしに共有化され、多くの子どものための環境学習に役立てられている。

それ以外での生きものしらべとして、2012年6月、「房総の自然、小櫃川河口から東京湾に広がる磐洲干潟の自然観察」を実施した。木更津工業高等専門学校湯谷 賢太郎先生を講師に迎えて、EC千葉の参加者11名、高専の学生2名、計14名で開催した。この事業は、日本自然保護協会「自然しらべ2012年 貝殻さがし」に参加することにもなり、貝殻リスト20種のうち、4種を見つけるとともに、「カニ」の群生や多くの干潟の生きものを観察できた。

### 3. 外部への働きかけ

2011年には、環境省の「NGO/NPO・企業環境政策提言」の募集があり、鈴木優子が「廃棄物最終処分場の再生と跡地の生物多様性を育む制度」というテーマで政策提言を行っており、行動だけでなく、政策提言をも実施できたことは今後の活動の糧としたい。

生物多様性研究会では、各地の講座にも講師派遣を行ってきた。

2013年10月には、うらやす市民大学で「地球環境問題と生物多様性」（講師：鈴木優子）、2014年10月には、うらやす市民大学「緑のカーテンで涼しいまちづくり」（講師：鈴木優子）などを行った。

### 4. 歴代会長・副会長

2011年以降の運営に関わった研究会長および副会長はつぎのとおり。

	研究会長	副会長
2011年から2年間	鈴木 優子	中庭 武雄
2013年から2年間	見並 勝佳	鈴木 優子
2015年から2年間	見並 勝佳	渡辺 忠明

### 5. 今後のステップに向けて

これまでEC千葉では、生物多様性研究会を設立して南房総市の丸山川での「水辺の生きものしらべ」や「大多喜町環境教育プログラム」での水辺の生きものしらべなど河川の上流域の観察に力を注いできたが、今後は下流域の生きものしらべの活動も必要と思う。

丸山川での「水辺の生きものしらべ」を続ける後継者がいないことや東京湾に注ぐ南房総市の岩井川の生きものしらべのニーズはあっても距離が遠く、現在のEC千葉では活動できない問題もあり、南房総の方々とのコミュニケーションが重要となっている。

房総丘陵のヒメコマツや、袖ヶ浦市などに生育するトウキョウサンショウウオなどの稀少生物の保全にも活動の輪を広げていかねばならないが、当面は、「千葉県生物多様性センター」が主導されている「生命（いのち）のにぎわい調査団」にEC千葉の会員が入団して「身近な生きもの調査」に協力して多くの知識を習得することが望まれる。

千葉県内には、外来植物のセイタカアワダチソウの繁茂は見慣れた光景となっているが、最近、居住地にナガミヒナゲシやオオキンケイギクがはびこり始めていること、水路や水田にはナガエツルノゲイトウが急速に繁茂をしており、これら有害植物の駆除に地域の行政の対策に協力していきたいものである。

## うちエコ診断実施機関EC千葉ネット

うちエコ診断実施機関

責任者 吉田 昌弘

### 1. あゆみ

#### 1.1 「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」の誕生

「10年のあゆみ」以来、新規に、この事業のタイトルの足跡を記載できることに、まず会員の方々の協力と支援に感謝申し上げる。世論として地球温暖化防止への気運が高まる中、いずれ民生部門にも波及されるだろうとの思いから、環境カウンセラーの業務として相応しいとの思いで立ち上げた次第。

当初は、「うちエコ診断士」の佐藤ミヤ子がEC千葉の会員になって2年目で、彼女の発案で、“県内の方々に、定量的な効果がわかる「家庭の省エネ診断」が出来ないか”と日頃考えていたことを、全国地球温暖化防止活動推進センター（JCCCA）の部長に相談した。部長から“では、佐藤さんの所属団体で「実施機関」を立ち上げてみたら“とのご返事。EC千葉会員のみなさんにとって「うちエコ診断」なる言葉すら聞いたことのない事業で、理解をしてもらうことには大変苦労した。

必要書類の作成と体制の構築では、(故)見並勝佳理事長はじめ、橋本正総務部長、服部達雄事務局長にサポートしてもらった。そして、2016年6月環境省の正式認定を受け、診断士一人を要した「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」が誕生した。

#### 1.2 会員の理解と協力・そして、自治体の協力と支援

実施機関の立ち上げは、システムを少しなりとも知っていた佐藤ミヤ子が中心となり、運営ガイドライン、実施要綱、支援システム、診断士マニュアルを含む諸書類のページを繰り返しながらパソコンと向き合う日々であった。

この事業が軌道に乗りつつあった2018年、環境省からの「うちエコ診断補助金」が突然打ち切られた。さてこれからどうしたらいいのか！と途方にくれていた時、地元との関係を地道に積み重ねてこられた会員の方々の働きかけにより、自治体主催の（補助金支援）事業に漕ぎつけていただけたことで今日まで続けることが出来た。白井市（辻川毅）・野田市（上口清彦）・八千代市（有馬富穂）・君津市（荒川勉）・木更津市（吉田昌弘）・浦安市（松村利治）・船橋市（井町臣男）・千葉市（佐藤ミヤ子）の尽力に加え、会員の働きかけに应运えていただいた各自治体の担当課長のご協力とお力添えに紙上を借りて改めてお礼を申し上げたい。

特に、千葉市役所環境局環境保全部 環境保全課 温暖化対策室（現脱炭素推進課）の歴代室長には、当初からのご理解と信頼とほぼ毎年補助金支援をいただけたことは非常に大きな支えであった。

#### 1.3 「うちエコ診断」推移と多様化

##### 1) 対面診断（戸別診断）からオンライン診断へ

2016年～2020年まで受診者の希望は対面診断が殆どだったが、主催者の意向とコロナ感染症の影響により2021年度からはそのほとんどがオンライン診断に移行。診断士もオンライン診断に伴うパソコン操作の熟知が必須になった。

##### 2) パソコンでの受診からスマホでの受診へ

受診方法の多様化が進み、スマホなどによる受診が求められるようになった。

- 3) PR 手段も、チラシから WEB へと媒体の移行も進んだ。受診者の価値観や多様化に伴う変化に 대응できる診断内容の質とレベルアップが求められると共に、基本の重要性と、診断士フォローアップ研修の重要性が増している。

## 2. 活動内容と実施状況

### 2.1 うちエコ診断実施機関の役割と診断士の位置づけ

- 1) 「うちエコ診断実施機関」の役割は、ガイドライン、実施要綱、ならびに診断士登録規程等を順守し、制度運営事務局等の指示に従い、登録した「うちエコ診断士」に対する諸規定や要綱の順守と適切な管理、そして受診者管理である。
- 2) 「うちエコ診断士」は資格試験に合格後、実施機関が実施する「スキル審査」に合格し「登録時研修」を受け、実施機関の指示のもと「うちエコ診断」を行う。
- 3) 更新時には「更新時研修」が実施機関及び診断士に義務付けられている。

### 2.2 各種報告書類と研修の実施

- 1) 年度末に JCCCA へ提出する報告書類
  - ・うちエコ診断実施報告書
  - ・診断士の登録・教育・支援
  - ・受診希望者の募集活動
  - ・支援システム進捗管理と診断プロセス
  - ・個人情報保護と消費者トラブル防止など
- 2) 新規登録診断士研修：うちエコ診断実施要綱、診断士マニュアル等の研修
- 3) フォローアップ研修：
  - ① 診断士資格を更新希望する診断士に課せられる研修
  - ② 研修内容：年度毎に受診者傾向を加味した課題による研修、ケースの異なるロールプレイ、振り返りによるスキルアップ研修等。(例)・うちエコ診断ソフト 2022 年度版仕様マニュアルの履修
  - ・事前調査票各項目についての準備～応用～診断手順～準備
  - ・事例を基にした診断時マナーNG など
  - ・ZEH など年度毎の各種補助金等の確認と履修※ 2019年度～2021年度は、コロナ禍による特別体制対応に腐心した。
- 4) オンライン (WEB) 診断へと移行 (一部対面診断) (2021 年度～)
  - ① オンライン診断のための診断士用マニュアル、実施機関 (ホスト) 用マニュアル 受付対応用の各マニュアルを実施機関で作成。
  - ② 主催者や受診者に対応したパソコン操作、スマホ受診者との ZOOM 環境等のあらゆる対応を想定し、ロールプレイを重ねることで何とか実施に漕ぎつけた。

### 2.3 JCCCA からの依頼「スキル審査(二次試験)」の実施

- 1) 家庭エコ診断制度運営ガイドラインの改定に伴い、診断士資格試験の制度が改正され 2020 年からは従来の 2 次審査にあたる「スキル審査」を実施機関が担うこととなった。
- 2) 「スキル審査」にあたっては、環境省「家庭エコ診断制度」うちエコ診断士登録規程に基づき、運営事務局所定の審査項目、留意点、評価シートに則り実施している。
- 3) 2021 年度は 1 件のスキル審査あり、結果は JCCCA に報告済みである。

### 2.4 うちエコ診断実施機関 EC 千葉ネットの体制と歴代診断士(現役含む)

- 1) 実施機関 責任者：吉田昌弘 (2016 年～)、副責任者：佐藤ミヤ子 (2016 年～)  
副責任者 (オンライン担当)：中村 仁(2022 年～) 現在に至る
- 2) 2016 年以降、「うちエコ診断実施機関 EC 千葉ネット」に登録されたうちエコ診断士。  
佐藤ミヤ子、秋葉信夫、中村 仁、荒川 勤、吉田篤志、草野 信、吉田昌弘、

### 3. うちエコ診断これまでの実績（2016年～2022年）

#### 3.1 県内のうちエコ診断の実績

年度別実績合計とみなし削減量（2016年～2022年度）								
うちエコ診断実施機関EC千葉ネット								
支援状況	JCCCAの補助		各自治体の補助金ベース					
実施年度	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	合計
CO <sub>2</sub> 削減量 (kg-CO <sub>2</sub> /年)	40,841	39,280	18,681	11,680	7,733	4,963	9,343	132,521
実施件数(件)	30	53	18	17	13	17	19	167
主催	千葉市	千葉市	千葉市	千葉市	浦安市	千葉市	千葉市	
	白井市	白井市	白井市	君津市			船橋市	
	JCCCA	木更津市	木更津市					
		野田市						
		八千代市						
		JCCCA						

#### 3.2 うちエコ診断の実績削減効果

下表は千葉市支援による「CO<sub>2</sub>排出効果と光熱費の節約効果」の6年間の実績を示す。この診断により、概ね20%のCO<sub>2</sub>削減効果及び光熱費節約効果があった。

##### 千葉市関連の事後調査による結果(CO<sub>2</sub>排出効果)

(2016年～2022年11月末日)

単位::kg-CO<sub>2</sub>

属性対象 件数	世帯数	CO <sub>2</sub> 排出量(合計)			CO <sub>2</sub> 排出量(1世帯あたり)		
		診断前	診断後	削減量	受診前の CO <sub>2</sub> 排出量	受診後の CO <sub>2</sub> 排出量	削減量
1人世帯 (n=15件)	15	31,213	26,444	4,769	2,081	1,763	318
2人世帯 (n=28件)	28	94,109	78,729	15,380	3,361	2,812	549
3人世帯 (n=20件)	20	79,545	61,158	18,387	3,977	3,058	919
4人世帯 (n=16件)	16	85,396	67,760	17,636	5,337	4,235	1,102
5人以上世帯 (n=9件)	9	72,537	61,832	10,705	8,060	6,870	1,189
受診世帯の 合計/平均	88	362,800	295,923	66,877	4,123	3,363	760

$$\text{削減率(\%)} = (\text{削減量}) \div (\text{受信前の排出量}) \times 100 = 18.4\%$$

##### 千葉市関連の事後調査による結果(光熱費の節約効果)

(2016年～2022年11月末日)

単位::円

属性対象 件数	世帯数	光熱費(合計)			光熱費(1世帯当たり)		
		診断前	診断後	削減量	受診前の 光熱燃料費	受診後の 光熱燃料費	削減量
1人世帯 (n=15件)	15	1,897,261	1,589,936	307,325	126,484	105,996	20,488
2人世帯 (n=28件)	28	5,285,004	4,420,418	864,587	188,750	157,872	30,878
3人世帯 (n=20件)	20	4,552,569	3,526,257	1,026,312	227,628	176,313	51,316
4人世帯 (n=16件)	16	4,850,036	3,653,003	1,197,033	303,127	228,313	74,815
5人以上世帯 (n=9件)	9	3,671,925	2,605,465	1,066,460	407,992	289,496	118,496
受診世帯の 合計/平均	88	20,256,795	15,795,079	4,461,717	230,191	179,490	50,701

$$\text{削減率(\%)} = (\text{削減量}) \div (\text{受信前の排出量}) \times 100 = 22.0\%$$

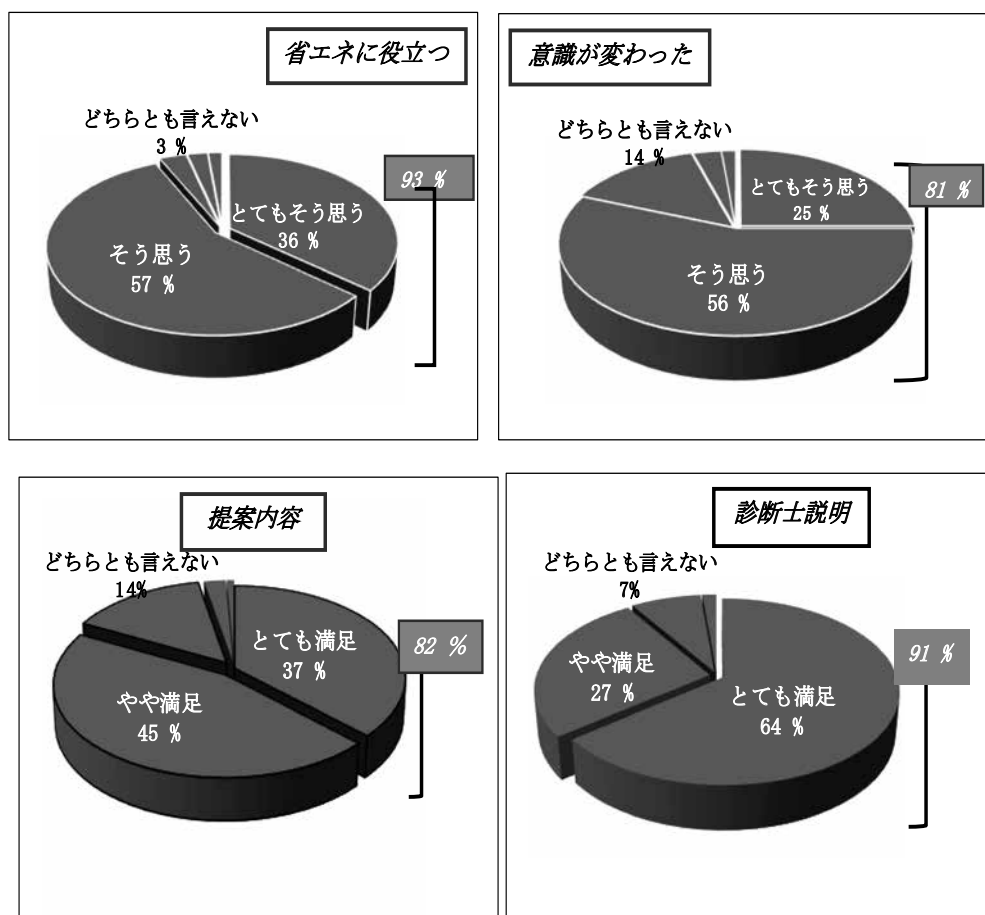


### 3.2. うちエコ診断満足度調査結果

(2016年～2022年回答のデータ総数：132件) の千葉市の「うちエコ診断」結果のアンケート調査結果を示す。

#### 【うちエコ診断実施機関 E C 千葉ネット 満足度調査結果報告】

(2016年～2022年11月 データ総数：132件)



### 4. これからの課題

#### 1) 受診希望者の増加への努力

受診者情報源がWEB主体へと限られてきていて、スマホ等から得られる情報を利用しない年代層への情報の広がりには限定されている。その他の層や特に若い世代への働きかけやインセンティブ付与の工夫が今後の課題だと思っている。

#### 2) 診断士養成への努力と働きかけ

複雑化・多様化するニーズとそのスピードに対応できる「診断士の養成」も今後の大きな課題である。実施機関でもあらゆる機会を通して「診断士資格取得」への働きかけをしているが、オンライン診断が主流になる中、リタイヤされた年代層のパソコン操作スキルもネックの一つになっていることも否めない。

今後も「地球温暖化防止対策」の一環として、家庭部門の二酸化炭素排出削減と光熱費節約へ積極的に取り組んでいく所存である。

## 環境カウンセラー全国連合会への協力活動

ECU 担当理事 吉田 昌弘

### 1. あゆみ

1996年、わが国では環境に関する広域かつ専門的な知識や豊富な経験を有する人材の発掘と把握を行い、さらにその能力を向上させつつ活用することを通じ、環境学習・環境保全活動を支援することを目的に「環境カウンセラー登録制度」が創設された。

この制度は、自らの知識や経験を活用して環境に関する相談や助言などを行おうとする者を毎年度広く一般に公募し、一定の要件を満たす者を「環境カウンセラー」として環境省が登録するものである。

この制度がスタートし、多くの環境カウンセラーが登録されたものの環境保全活動の多くは個人ではしづらく、チームワークが必要であり、県ごとに協議会（協会）が設立され、関東では「環境カウンセラー関東連絡会」が形成され、協議会（協会）同士の交流が活発になり、会員数の多い「環境カウンセラー千葉県協議会（EC 千葉）」はその中核でお世話をすることとなった。

やがて、全国的に輪を広げて環境カウンセラーの活動を共通認識にしようという機運を「環境カウンセラー関東連絡会」で発意し、当時の EC 千葉の村上 利子初代会長も全国の協議会（協会）にはたらきかけられた。やがて、任意団体としての「環境カウンセラー全国連合会」の組織化には、EC 千葉の國廣 隆紀も参画し、2001年9月に、環境省出身の神奈川の先崎 武様を会長とする全国組織として設立された。

そして、全国的な NPO 法人化の機運に沿って責任団体として、EC 千葉の國廣 隆紀などの尽力で、2003年6月に「NPO 法人環境カウンセラー全国連合会（ECU）」が設立された。

ECU の活動の重点は、出先機関の少ない環境省の施策のサポートであり、身近なものとして、毎年度登録される環境カウンセラーを主対象とした「環境カウンセラー研修会（EC 研修会）」の開催支援、国内の事業者への環境マネジメントシステムの普及・支援、市民対象の環境教育の普及などの基幹事業がある。

これまで、EC 千葉から ECU の理事として 1~2 名を送り出し、これら基幹事業を担当してきた。

「EC 研修会」の開催支援では、ECU の担当理事が研修内容を企画し、自らが所属する協議会（協会）の会員に講師やファシリテーターとしての応援を得て開催してきた。

事業者への環境マネジメントシステムの普及については、環境省への届出制度で「環境活動評価プログラム」であったが、ISO 14001 の認証登録制度に近づけるために変更したいとの環境省の意向を受け、ECU がその中央事務局になることを意図して、EC 千葉からの担当理事も、EC 千葉の会員の協力のもと、その制度設計にチーム参画したが、残念ながら ECU は受託できなかった。そして新たなエコアクション 21 が制定され、その審査人の研修などに EC 千葉は協力してきた。

2013年10月には、「第4回環境カウンセラー全国交流会」の開催を ECU から EC 千葉が引受け、全国の環境カウンセラーに参加を呼びかけ千葉市で開催した。

最近では、企業の化学物質のアセスメントの推進のためのプロジェクトを担当した EC 千葉からの担当理事は、EC 千葉の協力を得て、その講習会の開催に尽力した。

市民対象の環境教育の推進事業では、緑化エコリーダーの公式テキストの作成や緑化エコリーダー養成講座を担当した理事は EC 千葉の会員と協力して取組んだ。

また、ECU のサブ組織として関東ブロック協議会の運営を担当した EC 千葉からの理事は、EC 千葉の会員の協力を得て関東ブロック内の会員対象の各種研修会を企画、開催してきた。

2008 年以降の ECU の運営に担当した EC 千葉の ECU 理事はつぎのとおり。

2008 年から 4 年間	小角 浩	土田 茂通
2012 年から 2 年間	國廣 隆紀	二宮 恵
2014 年から 3 年間	國廣 隆紀	
2017 年から 3 年間	國廣 隆紀	有馬 富穂
2020 年から 2 年間	橋本 正	
2022 年から	吉田 昌弘	

## 2. ECU への EC 千葉の具体的な協力活動

実施期間	協 力 活 動 (EC 千葉の役割)	主 催 (会 場)
2008.10.27-28	・EC 研修会 関東ブロック研修会 ★EC 千葉の担当: 「自然環境と生物多様性」	主催:ECU (青少年総合センター)
2009.9.27-28	講師、ファシリテーターを派遣	
2010.11.11-12	・EC 研修会 関東ブロック研修会 ★EC 千葉の担当: 「生物多様性保全」	主催:ECU (青少年総合センター)
2011.10.3-4	講師、ファシリテーターを派遣	
2012.11.26-27		
2013.9.17-28	・環境パートナーシッププラザ展示 ・ECU 関東ブロック交流会(9.21) ★EC 千葉が企画から催行までの事務局を担当	主催:ECU (国連大学ビル)
2013.10.12	・第 4 回環境カウンセラー全国交流会: 「昨今のエネルギー事情及び環境への取組」 「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」 ★EC 千葉が企画から催行までの事務局を担当	主催:ECU (ホテルプラザ菜の花)
2013.10.15	・EC 研修会 関東ブロック研修会 ★EC 千葉の担当: 「地球温暖化専門研修」 講師、ファシリテーターを派遣	主催:ECU (青少年総合センター)
2014.12.5		
2015.12.2-3		
2016.11.30		
2017.10.23		
2019.1.15		
2016.12.12	・福島原発事故現状の視察 (EC 千葉から 3 名参加)	主催:ECU
2017.7.11	・第 1 回化学物質リスクアセスメント初級ト講習会 ★EC 千葉が企画から催行までの事務局を担当	主催:ECU (千葉市民会館)

### 3. ECU 設立 15 周年記念の集いと 15 周年記念顕彰

2016 年、環境カウンセラー制度の 20 周年となり、ECU が設立 15 周年を迎えたことから、その記念の集いが 9 月 10 日エッサム神田ホール 1 号館にて開催され、全国の環境カウンセラー協会・協議会から約 80 名が出席した。EC 千葉から多くの会員が顕彰された。

- 1) 顕彰状：土田茂通、國廣隆紀（ECU 設立時に役員として基礎を築かれた方々、12 名）
- 2) 炭谷賞：小角 浩、戸村 泰  
（炭谷茂名誉顧問の瑞宝重光章の受賞を記念して設けられた賞で、贈呈 11 名）
- 3) 特別表彰状：倉田智子、笹木勝利、種本利治、辻川 毅、服部達雄、古畑義正、  
本間 格、茂利 晃  
（所属の協（議）会の役員として各地の活動を展開され、環境カウンセラー制度を担い顕著な成果をあげられた方々、53 名）

### 4. 今後の展開と期待

現行の環境カウンセラー登録制度は、名前のおおりの、環境カウンセラーを個々に登録するものである。しかし、最近の環境保全活動は多くの知識と経験を複合して行うことが必須であるものの環境カウンセラー同士が連携し機動力を発揮することは、運営条項や制度設計に含められていない。

このことから、地球温暖化防止対策や地域社会の環境保全のニーズなどに応えていくためには、地域での協議会（協会）の活動やそれらを束ねて総合的な組織活動を行う ECU の存在は重要である。今後も全国の協議会（協会）や地域協議会同士の活動の連携や拡充・強化を期待し、協力していく。

折しも、ECU が 2022 年より「環境カウンセラー全国事務局」を担うこととなり、全体の運営体制の見直しが行われた。今後の ECU が持続可能な組織として維持していくための課題と期待について、EC 千葉として以下の協力をおこなう。

- ・各県・地域の環境カウンセラー組織・団体に ECU への参画を促す。
- ・環境カウンセラーが相対的に高齢化しており、手続きの簡素化と活動実績の報告の負担軽減が望まれ、「環境カウンセラー全国事務局」の事務手続きや企画を支援する。
- ・「環境カウンセラー」の役割や知名度アップの見直しが急務である。新たな応募者の発掘を促したい。関係機関に環境カウンセラーの活動について説明し、知名度の向上を図る。

## 千葉県各地域における環境活動

### 「松戸ケナフの会」および「アースコン・マツド」の活動

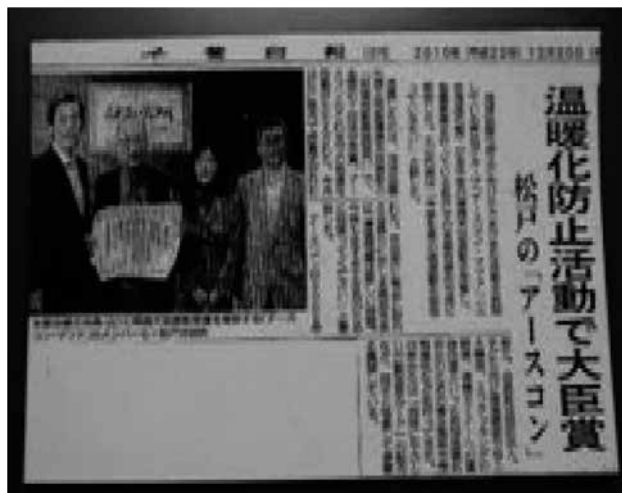
松戸市 土田 茂通

土田茂通より松戸市環境業務課に協力する環境保全活動を2チームご紹介します。  
EC千葉の活動とは別に、松戸市内で活動した地域環境保全活動の内容を下記すると、市の環境政策課とタイアップして松戸市民対象に環境教育を行う目的で、環境市民団体「アースコン・マツド」と「松戸ケナフの会」を2000年(平成12年)に立ち上げました。

「アースコン・マツド」は、県が認定した地球温暖化防止活動推進員で当初会員15人を集めて2000年に設立しました。会員が勉強会を開催できる場所の確保に苦労しましたが、市役所の会議室が利用可能となり、活動内容は、実務的に、子供環境講座、エコクッキング教室、成人環境講座、特に小学校の環境教育を重視し、小学校における出前環境講座を多く行いました。エコメッセや松戸市の環境保全活動の見本市に毎年出展して積極的に参加しました。

毎月1回の定例会を開催し、活動内容を計画・企画し、松戸市民を対象に環境保全活動の説明を行って普及活動を始めました。小学校の環境教育の企画実施や各種展示会にも参画しました。

「アースコン・マツド」は、松戸市長の推薦を受け、2010年12月15日に、地球温暖化防止活動で環境大臣賞を(大臣：松本龍氏)を受賞しました。「アースコン・マツド」からは土田会長、川上副会長が受賞式に出席しました。



「松戸ケナフの会」は、2000年に設立しました。設立当時の会員は20人でしたが、常時活動に参加した会員は10人前後で推移しました。

小学校の校庭に畑を作り、ケナフの種を蒔き、3m位に成長させた後に、我々は学童たちと一緒に刈り取りを行い、茎から皮をはぎ取り、3cm前後の長さに切断し、重曹による蒸解作業を行った後、ミキサーで微粉碎を行い、パルプ状にし、学童たちはパルプから紙を作る(手すき)を行うことで、紙の作り方と紙の大切さも学習しました。

ケナフの紙すき学習以外では、新聞紙から再生紙をつくる授業を実験しながら、古紙回収の大切さを学習しました。

松戸市立小学校で4年間連続してケナフを栽培し、ケナフ紙をつくる体験学習を行った小学校は4校になりました。校長先生や担当先生にお礼申し上げます。

## 地域におけるエコアクション21 (EA21) 普及活動

八千代市 有馬 富穂

### 1. 八千代市の EA21 の取組み

私は2000年に地球温暖化防止に向けた「八千代市率先実行計画」の策定に市の嘱託として関与した。

その後、市環境保全計画推進委員会の会長として、約10年間務めた。その間に EA21 の認証取得を推し進めた。八千代市は2009年に EA21 を認証取得した。

八千代市は、12年間の取組みを経て、2021年度より独自の環境マネジメントシステム「八千代市環境経営システム」で運用することになった。職員の環境意識は向上し、また地域企業への EA21 普及に多大な貢献をされた。EA21 普及セミナーで何度か事例発表をされた。また、環境マネジメントシステムでの PDCA サイクルを回す経験は他の目標管理に活かされている。

本市は2020年12月にゼロカーボンシティ宣言を行った。本市のカーボンゼロの取組みが期待される。

### 2. 高津幼稚園の EA21 の取組み

私は会社退職後、実家が経営する高津幼稚園に2000年から約16年間勤務した。その間に幼稚園も2009年から2021年まで EA21 認証登録を受けた。

2017年に環境コミュニケーション大賞の優良賞を受賞(2017.2.22)。

2019年4月、やちよ未来市民発電所第1号機(19.2kW)を設置した。これが(一社)やちよ未来エネルギーの活動の大きな柱になっている。



[第1号市民発電所の写真]

### 3. 八千代塾

八千代塾と称して1期4回の EA21 の勉強会を2014年～2017年に八千代アートスクールにて行った。

数社が EA21 の認証を取得され、地域の EA21 普及に示唆を与えられたと思う。



[八千代塾]

## 鎌ヶ谷市における環境活動

鎌ヶ谷市 倉田 智子

鎌ヶ谷市での活動には、環境カウンセラー(EC)仲間多数が関わっている。

市民環境展を企画した2004年から、(公財)日本環境協会こども環境相談室(相談員はEC限定)仲間の林正徳さん、本間格さんは強力な助っ人であった。相談室の教材「メルと卵」を使い、二酸化炭素の削減をゲーム感覚で学ぶ場を設けた。燃料電池の実験を披露した年もある。林さんは鎌ヶ谷市役所内に、省エネルギーセンターの「省エネナビ」の設置に尽力された。これは今も庁内の電力消費量を記録している。

2008年は阿部邦夫さん(和郷園)の「バイオガスバイク」を市役所ホールで展示、児童センターでは子どもたちが試乗(固定)した。バイクが置かれている山田町(現・佐原市)と鎌ヶ谷間の運搬は林さんで、ご苦労をおかけした。

2011年6月、東日本大震災後「がれきを分別した街」に始まる福島の記録は、クリーン推進課の特例で展示できた。その後2014年からEC千葉として登録、協議会の紹介と福島展示の二本立てとした。しかし協議会の掲示物は年々増え、福島への配慮がなくなったため、2018年に「福島を伝える会」を立ち上げ、展示を続けている。

この間、「呼気の二酸化炭素濃度測定体験」も数回行い、大勢のECが携わった。市民祭りと同時開催の環境フェアのため、参加されたECの皆さんは「騎馬武者行列」を大いに楽しまれたことと思う。鎌ヶ谷は幕府の下総小金中野牧の一部で軍馬の調達場所であった。南相馬市ECの長澤利枝さんとの連携は、震災ばかりでなく「相馬野馬追」にも理由がある。

また、かまがや環境フェアは、環境に関する事ならば、個人で参加できる枠があるため【環境カウンセラー個人】として展示を試みた。2012年から始め、2016年には【環境カウンセラーの活動】をテーマに小角浩・佐々木進市著『こんなにおもしろい環境カウンセラーの仕事』を紹介したほか、都内某区の環境情報ニュースレター(季刊)にそれまでに寄稿した「区の花」「区の鳥」や区に因む植物などの解説などもまとめて掲示した。

最後に「忘れないで福島」のファイルは2012、2013、2014、2017年の4回、ECUが参加する日経エコプロダクツでも披露した。10周年記念誌担当理事であった二宮恵さんは、毎年エコプロに新規情報を求めてお出かけとのことで、目に留めていただけたことは、嬉しい限りであった。



鎌ヶ谷市役所ホールでの展示



児童センター試乗順番待ち

## 谷津田と出会って

八千代市 佐藤 素子

環境カウンセラー千葉県協議会設立 25 周年おめでとうございます。私も環境カウンセラー一期生として設立に関わり、広報誌の発行を担いました。当時は協議会としての活動が少なく、広報誌では個人の活動やトピックスなどを中心に紹介しました。最近では協議会としての体制を確立し、様々な活動を展開されており、素晴らしいです。更なる活動を期待しております。

八千代市には 1987 年に引っ越してきました。近くに細長く続く水田があり、当時行っていた簡易水質調査をしようと水を採取したら、たくさんのミジンコとドジョウが一尾入っていました。そして夜には一面のホタルが。これが私の谷津田との出会いでした。残念ながらその谷津田は区画整理事業で開発されることになり、立ち入り禁止に。その後、市内の谷津田で毎年ホタル調査を行いました。年ごとにホタルは減少していきます。

減っていくのはホタルだけではありません。長年植物調査を続けている友人から、在来野草が減少しており、特に水生や湿地性の野草の減少が著しいけれど、保護はされていないと聞き、1995 年からまだ豊かな自然の残る市内北部の谷津上流部の休耕田 300 坪ほどを借り、在来野草の保護とともに水田耕作、親子自然探検会などを行ってきました。

私は植物の専門家でもなく、農業の経験もありません。私の役目は、専門家をはじめとする多くの方の助けを得て、企画し、記録を取り、継続させることだと思いました。その中で、多くの環境カウンセラーのアドバイスや協力もしていただきました。

谷津田は小さくても素晴らしいビオトープです。2005 年には「在来野草保存活動 10 年の歩み」として、2021 年には「未来につなごう！！八千代の里山・谷津田」としてそれぞれ冊子を発行することができました。

グループ創設時のメンバーが高齢化で活動継続が困難になる中、幸いにも自主保育グループのメンバーが引きついでくれることになり、谷津田に元気な子供たちの声が飛び交うようになりました。引き継いでしばらくは私も参加して写真係を引き受けていましたが、最近は歩行が困難になり、谷津田での活動は完全に私の手から離れました。

2020 年 4 月からはコロナ下で公募事業は行えなくなりましたが、お母さんたちのネットワークで人を集め元気に田植えや親子探検を続けているようです。

人里離れた谷津田でも温暖化の影響でナガサキアゲハや特定外来生物が定着、増加するにつれ、本来の自然から離れていくように感じます。

また、谷津の入り口の台地にある少年自然の家の駐車場やトイレ、学習室などを利用させてもらっていたのですが、耐震性不足から、少年自然の家は廃止、撤去して土地は地権者に返却されることになりました。少年自然の家廃止を巡っては利用形態の多目的化で地域活性化を図る案などを提案したのですが、夢かなわず、残念でした。撤去までに、まだ少し時間がありますので跡地の利用を再度、市、地権者とともに、検討できないか方策を考えているところです。



イチリンソウ



ナガボノシロワレモコウ



## そでがうら地球温暖化対策地域協議会の活動

袖ヶ浦市 國廣 隆紀

### 1. 環境省の「地球温暖化対策モデル事業」の実施

2002年6月、環境省から「地球温暖化対策診断モデル事業」の公募があり、「地球温暖化対策地域協議会」の活動として、200世帯以上の家庭エネルギーの使用実態調査を行うものであった。

折から居住する袖ヶ浦市内の720世帯の自治会の役員をしていたので、「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」の設立の同意を得て、民間主導で同年9月設立した。

720世帯のみなさんをお願いすれば200世帯は賛同が得られるだろうと楽観し、家庭エネルギーの使用実態の診断は、自分が所属するNPO法人サポート技術士センターの仲間に協力してもらうこととした。早速、自治会の回覧で参加を募ったが応諾していただけたのはわずか30世帯、あとは自分で戸別訪問して地球湯温暖化の実態と対策の必要性を説明させていただき、やっとの思いで240世帯の応諾を得た。

こうして、「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」は、2002年10月、全国7地域の一地域として環境省から事業を受託し、16名の診断員が227世帯に戸別訪問し約500項目にわたる診断をし、さらなる省エネを促した。そして、1年後に各診断員が再訪問して同様の診断を行った。

その結果は、当時、増えることはあっても減ることのなかった二酸化炭素排出量を事業前後の1年間で世帯平均2.8%削減できたことを実証し、環境省に報告した。

この事業の成果を踏まえて環境省では、以後、全国の家庭に省エネを促され、最近は「うちエコ診断事業」として発展的に展開をされている。

### 2. 袖ヶ浦市内住宅用太陽光発電システムの実態調査

住宅用太陽光発電システムの普及のため設置補助金の交付が全国で推進されているが、その効果の検証は個人情報であり、公表されていないことが分かった。

居住する袖ヶ浦市で、2012年8月に市民と市（行政）との協働提案事業を公募されたため、住宅用太陽光発電システム設置の補助金の交付を受けた世帯の発電情報を市で収集してもらい、その個人情報の部分は伏せて、発電データのみを「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」がいただいて、データ分析、検証すればとよいと思立ち、協働事業として取り組むこととした。

その事業は、2008年度から2012年度に補助金の交付を受けた318世帯に対し、市から発電システムの内容と発電実績データの提供の依頼をしてもらうこととし、どのようなデータをどう分析し効果的な結果を得るか、EC千葉の会員にも協力してもらって「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」のスタッフで知恵を絞った。

市に回答された227世帯のデータの提供を受け、そのうち分析ができる120世帯についてデータを分析し、発電システムを効果的に設置している世帯もある反面、発電量の少ない世帯と大きな幅があることが分かり、理想的な設置方法も明確にした。

これらの報告は、市の公式ホームページにも掲載されており、多くの方が参考にしていただきたいと思います。

「そでがうら地球温暖化対策地域協議会」の活動では、事務局長としての仲野 武重様のたゆまぬ尽力にこの場を借りて感謝したい。



## SEN の会 — 25年間の活動の思い出

白井市 中嶋 滋

EC 千葉 25 周年記念誌発行おめでとうございます。

白井市では、国連の要望である SDGs の環境問題にいち早く力を入れていたので、それに呼応して「NPO 法人しろい環境ネットワークの会 (SEN の会)」を 1996 年辻川毅さんが中心に立ち上げられた。私は環境カウンセラーを取得した 2003 年から参加した。

当初から辻川毅さんは EC 千葉でも活動されていたので、私も会員として活動した。環境へのきっかけとして、いずれ環境問題が社会的に重要となってくると思い、事業者部門として「分別解体」、「資源有価物の価値の向上」、「アスベスト問題」、「ダイオキシン」等の研究のほか、新エネルギーの海洋温度差発電実証実験や風力発電所の建設に従事している。

また地元では、市民部門として SEN の会の一員として白井市の PTA 会の資源分別支援や「子供の環境教育」に力を入れた。また、「SEN の会」活動で印西牧場バイオマス発電施設や北部清掃工場の見学会参加、温暖化対策研究施設見学体験の継続、さらには一般社団法人土木学会の建設技術研究委員会の派遣講師として「七次台中学校面白セミナー」なども実施した。

白井市との関りとして、CO<sub>2</sub>削減・地球温暖化防止、家庭ごみやプラスチックの廃棄問題、水環境対策等について「しろい環境フェア」等を通じて勉強会や講演会などの EC 千葉との協働行事として、白井市環境審議会委員の辻川さんが EC 千葉の國廣さん、服部さん、上口さん等と白井市環境課等にはたらきかけられ、協力し実施した。

社会に役に立つ「環境問題」を実施することで多面性が広がり、気候変動などの対応を実践し、「循環型社会」の構築が大切だと今までの活動から見えてくる。

「EC 千葉 25 周年のあゆみ」にお祝いを込めて、「SEN の会の活動の思い出」として紹介した。

## 環境カウンセラー登録から船橋の環境保全活動へ

船橋市 井町 臣男

1973年4月入社してから取り組んできたのは、当時まだ公害対策が大きな課題であった民間工場、ゴミ焼却場、大学・研究所の重金属含有廃水処理である。研究グループで新たに開発したキレート薬剤処理システムを、METEC、JPCA ショー、ウエステックへ出展し普及促進に務めた。環境カウンセラー制度が創設されてまもない1998年、私は大阪支店へ転勤となった時、環境カウンセラー（事業者部門）に登録した。仕事で環境カウンセラーの方々との出会いも時にはあり、その時は信頼感も増したものである。

永年勤めてきた会社を2015年退社、この機にEC千葉へ入会した。退社後すぐに再就職したため、当会の活動は十分にできなかったものの、2016年12月にECUが企画した「東京電力福島第一原子力発電所」の現地視察に手を挙げ、橋本氏および種本（松村）氏とともに緊迫した福島の現場を見学体感できたことは、とても感謝している。入会時、水環境対策センターに手を挙げ、その後「浄化槽啓発講習会」や「水環境体験教室」など水環境を守る活動に、当センターのメンバーと一緒に取り組んできた。

地元船橋における環境活動の始まりは、2016年船橋在住の見並理事長が実行委員となり、EC千葉・事業部が出展した「第19回ふなばし環境フェア」（中央公民館、来場者5,100人）のお手伝いであった。当会小間では子供から大人まで多くの来場者に風船を膨らませてもらい、吐く息のCO2濃度を測定。地球温暖化の現状や課題などについて一緒に考えた。

その後、2021年7月残念ながら見並氏は他界され、ふなばし環境フェア実行委員を引継ぐとともに、船橋市での他の環境イベントにも参画し、EC千葉の活動をPRしている。活動事例を次にあげると、

- ① 第13回ふなばし市民活動フェアのパネル展示（2021.10.15～2022.3.18）。  
市民力発見サイトに動画を掲載（2021.12.1～2022.3.31）。
- ② ふなばし三番瀬環境学習館2階生物多様性情報室におけるパネル展示に参加（2022.1.4～3.31）。
- ③ 令和4年度市民公益活動公募型支援事業に応募、受託（2022.6.18～2023.2.28）。  
事業名：「うちエコ診断」で、身近なところから地球温暖化防止活動に参加しよう！
- ④ 第25回ふなばし環境フェアに出展（2022.6.18）。実行委員として広報部会に所属。
- ⑤ 令和4年度環境パネル展（2022.6.1～6.28）に参加。市役所1階美術コーナー、船橋駅前総合窓口センター（フェイスビル5階）、および中央図書館にパネル展示。
- ⑥ 第26回ふなばし環境フェアに出展（2023.6.24）。実行委員・広報部会副部会長。

これらの活動を通して感じたことは、パネル展示には市民を惹きつけるための工夫が必要であり、また一方通行的なパネル展示よりも、イベント会場で来場者との直接対話が大切であること。環境フェアの風船には、子供が興味を持ち小間に立ち寄ってくれること。

「うちエコ診断」支援事業では、市民は光熱水費削減に感心を持つが、いざ受診するとなると時間的な制約や事前調査資料提出などに高い壁があるのか、10名募集のところ3名の受診で終わり残念な結果となった。市民の関心と行動の差異は大きい。

最後に、これからも地元の環境イベントに参画し、環境カウンセラーとして環境保全活動で貢献するとともに、一緒に活動できる仲間を増やしていきたい。

## 木更津市でのささやかな地元貢献活動

木更津市 吉田 昌弘

### 1. 環境カウンセラー取得と EC 千葉入会の動機

60才の定年を迎えて、さて、第2の人生をどう営んでいこうか、と考えたときに、故郷、長野県の田舎町（小布施町）を出る時にかけてられた言葉を思い出しました。周りの人から「お前は、俺たちの税金で大学まで行くのだから大学出たら、「世の中のために働いてくれ！地元に戻ってこなくてもいいぞ！」と。昔は「故郷に錦を！」ということもあったが、貧乏県で土地も分けることのできない零細農家も多かったが、教育には熱心な土地柄でした。大学の工学部を卒業してから、企業でエネルギー関係に携わってきたので、石油・石炭の調達や品質、技術協力、それに政府との関わりが多かったため、これからは、お世話になっている地元（木更津市・千葉県）のために、何か貢献しようと思いました。やはり、高度成長の副作用である環境問題は、エネルギー（特に化石燃料）と表裏一体である「地球環境問題」が、今後の未来に対する恩返しになるであろうと決め、環境カウンセラーの資格をとりました。

京都議定書（1997年）が発効されるころから、この対応が企業リスクにどう影響するのか検討してきた経験から、やさしく解説できる環境教育用によい教材がないか、問い合わせたのが、EC千葉に入会するきっかけでした。

### 2. EC 千葉での活動

EC千葉では、ちょうど環境学習の教材作成の補助金テーマがあり、高校用の教材を木更津からも出してほしいということで、急遽、「盤洲干潟に行ってみよう、生き物達に会える。」というレポートを作成した。その時の印象は、身近にある盤洲干潟は有名な三番瀬と同等の干潟で、多くの渡り鳥の休憩地であること、稚魚の恰好の育成場所であることなど、自分にとっては新しく興味深い、まさに「百聞は一見にしかず」に値する発見でした。この見聞がきっかけで、その後、地元の木更津の気候や（社会・自然などの）環境などを知り、関心をもつ仲間同志との学び合いながらの活動が自分自身の人生にとっても楽しい過ごし方に繋がります。

EC千葉では、中庭環境学習センター長の下で、講師派遣での出前講座の実施や、県外の自然観察会のお手伝い、エコ検定受験対策講座の起案なども行いました。県外の自然観察会では初代代表の小角さんが近くの袖ヶ浦にお住まいで、たびたび持ち寄りの懇親会をさせて頂きながら、自然観察会の案内資料を作成したのが楽しい思い出です。

うちエコ診断は、診断士として入会された佐藤ミヤ子様（強力的リーダーシップの下、実施機関としての環境省（JCCCA）への申請・承認が実現でき、その後も苦心しながら継続してきたのも大きな実績になりつつあります。今後、家庭部門の省エネの普及・啓発の大きな柱になればとの思いです。

### 3. 地元でのささやかな貢献

一方、市の環境イベントへの参加、公民館講座や市民対象講演会の講師、環境審議会委員などと、近年、自治体も環境基本計画の充実と、市民の環境行政への関心の高まりもあり、木更津市の総合計画審議会委員にも携わることになりました。これからも、地元自治体への協力や、地元や子供たちの未来のために、ささやかな貢献をしていこうと思っています。そしていつか、地方自治体も家庭も、エネルギーも食糧も自給自足の未来がくるだろうことを夢見しています。

## 「わが家の太陽光発電システム」の実績を報告

松戸市 土田 茂通

「わが家の太陽光発電システム」について会員の皆様に実績を報告します。

発電能力 4.1kw の住宅用太陽光発電システムを自宅の屋根南面に設置(下の写真)。

費用 = (自己投資額) ¥1,507,870 + (松戸市補助金) ¥243,500 = ¥1,751,370

東電が買上げる余剰電力の購入単価は 42 円/KWH (10 年間)。



[松戸市土田宅住宅用太陽光発電システムの南側全景]

当住宅用太陽光発電システムの 10 年間の発電実績、および東電に支払った電気料金と東電が購入した(東電へ売却した)太陽光発電金額は下記の通りです。

1. 年間の光発電量：10 年間の総発電量：30,399kWh
2. 月毎の発電量実績で最大は 5 月、次が 6 月、その次が 8 月。  
夏季には太陽直射でパネル温度が高くなり、発電量が減少していると推定される。
3. 2013 年 5 月～2022 年 4 月に東電へ支払った電気料金の合計：1,211,904 (円)  
2013 年 5 月～2022 年 4 月に東電へ売却した発電金額の合計は：1,313,058 (円)  
したがって、10 年間での収支金額 = 1,313,058 - 1,211,904 = 101,154 (円)

10 年間の売電額が家庭電気代より多かったので収支はプラスですが、設備への自己投資額の全額回収には至らなかった。しかし、FIT 終了後に自家消費することによって、2 年近く経た現在すでに全額回収済みのはずです。これからは設置のメリット享受です。

ちなみに、最近の太陽光発電(4kw)設置費用は約 80 万円と半額以下なので、我が家のような電気消費家庭では 6、7 年で回収できると思われます。補助金次第では回収期間がより短くなり、一考に値すると思います。

## 思い出 (あんなこと・こんなこと あったでしょう)

### (故)見並 勝佳様との思い出

橋本 正

見並勝佳様は、2013年から2018年まで、環境カウンセラー千葉県協議会の理事長を務められ、EC千葉を大いに盛り上げ、更なる期待の最中、2021年7月に急逝された。

見並理事長のもとで、EC千葉の活動をご一緒している時、種々の思い出がありますが、一つ上げさせていただきますと、2016年、福島県へ南相馬野馬追に宮田さんの車と私の車で、会員8人で行った思い出が強いので書かせて頂きました。

福島県は、2011年3月の東日本大震災・福島原発事故で大変な状況下にありました。

見並さんは、福島県環境カウンセラー協議会の長澤利枝(元会長)さんと、福島慰問ということで、南相馬市相馬野馬追見物(7/24)を含めた計画を立てられ、会員8人で行って来ました。

1. 実施日は2016年7月23日(土)～7月24日(日)
2. 実施：福島県環境カウンセラー長澤利枝さん、南相馬市復興会議委員岩橋光善さんの協力
3. 参加者：見並勝佳さん、戸村泰さん、服部達雄さん、宮田勉さん、中川文子さん、佐藤素子さん、見並夫人、橋本正の総勢8名
4. 実施内容：福島県の災害復興状況の慰問視察、南相馬市小高地区の街並み、相馬野馬追の視察、等



### EC千葉になる前の初代会長(故)村上 利子様とご一緒に

河井 恵子

村上様と初めてお会いしたのは昭和60年頃でした。千葉市消費生活センター主催の消費者講座がきっかけで、村上様が講師としての講座を開催したのです。

その後、2002年に河井が消費生活アドバイザーの資格に合格した時に新聞で知った村上様から声をかけていただき、東京電力千葉支店の窓口の一角をお借りした消費者団体による消費者相談をする仲間となりました。全国相談員協会の出前講座を請負い、二人で消費者講座も開催しました。福島と新潟の原発見学にも参加しました。

80歳を超えられてからは行政の会議にはお供を連れてくるようにと言われたとか。千葉市消費生活センターでの委員等を引退された後、河井が消費生活展や審議会の委員を引き継ぎました。村上様は河井にとっては消費者運動、環境運動の母でした。

## (故)小角 浩様からの心温まるメッセージ

佐藤 ミヤ子

EC 千葉設立に尽力され、今日の礎を気付いて下さったお一人である小角様、入会したばかりの私にとっては雲の上の方でした。

＝ 時は 2017 年 10 月、「中部山岳国立公園」自然観察会の一コマです ＝

乗鞍岳は一面の霧、山岳道路も以前とは違ったご様子、運転手といろいろとお話を重ねておられましたが、小角様が描いておられた感じとは違っていたようで、松本市に降りてからは行けば行くほど道は狭い田んぼ道になり、運転手の技量に私たちの運命が委ねられた数時間でした。小角様もどんなにか心を痛めておられたこととお察ししておりました。が、参加の方々、帰宅時間が大幅に遅れたにも拘わらず“お疲れさま！”との一声を残し、笑顔で帰途につかれました。家に帰り、パソコンを開いたらそこに小角様からの心温まる次のようなメッセージを見つけました。“今回の自然観察会、場合によっては声高に非難されかねないミスリードの両日を、吉田様、佐藤様の心配りのお陰で全体がスムーズに進行でき、楽しみを共有出来たこと御礼申し上げます。また、緊迫の資金繰りの中過分の心遣いと夕餉の友まで頂戴しありがとうございます”と。みなさんが笑顔でお帰りになったその光景をご覧になり、ホッとされたのでしょうか、小角様の温かい気持ちが伝わってくるメッセージでした。その 2 か月後、突然の訃報に接する事になるとは思いもよりませんでした。私の心に刻まれた“心温かい小角様”が今でも生きています。

## 生前の松村 利治様、うしろ姿からの学び

佐藤 ミヤ子

2020 年当時、もう既に松村様は病と闘われておられました、にも拘らず、その年「浦安市環境保全課主催のうちエコ診断」実施に向け裏方に徹し、「うちエコ診断実施機関」がやり易いように段取りを整えてくださいました。あの時の姿が未だに心に残っております。

「うちエコ診断実施機関」では、診断前に毎年「診断士フォローアップ研修」を行います。この年も 6 月 27 日、11 月 1 日の両日 (10:30~17:00) に実施しました。特にこの年は、環境省の「家庭エコ診断制度運営事務局ガイドライン」等から、「うちエコ診断士・実施機関の役割」や「診断前・診断時の手順と留意点、診断時のマナーNG」など、診断時基本の再確認を行った年で、その内容はかなりシビアで豊富、診断士自身にもきついメニューだったと記憶しております。

松村様は、その研修の場に何の前触れもなくふらっとおいでになり、診断士と一緒に終日自らも研修をされ、更に驚くことには、二回目の研修にも終日ご参加くださいました。ご自身は以前「うちエコ診断」を受診しておられ、いろいろな思いもあったはずですが、内容等についても一言もおっしゃいませんでした。また、この年はコロナ対策も加わり、診断前後には会場に足を運ばれみなさまに声をかけておられた姿に心を打たれました。

(ご自身は、その時既に入退院を繰り返しておられたことを後で奥様から伺いました)

松村様はうしろ姿で、「信頼していますよ、受診者が納得される診断をお願いします」との思いと、「このような研修をしているなら近所の方々を安心して頼めます」との無言のメッセージをいただいたことを覚えています。人としてあるべき姿勢を学ばせていただきました、ありがとうございます。 ・ ・ 安らかな旅路でありますことを ・ ・

## 設立25周年のEC千葉で、多くの方々に出会えて

國廣 隆紀

25年の間、EC千葉で、およそ300名の方々と共に考え、語り合い、行動をさせていただき、すでに鬼籍に入られた方も、健全でご活躍のかたもおられようが、あらためて、多くの方々のご厚誼に感謝し、思いつくまま思い出をたぐらせていただきます。

まずは、入会后、熱血漢の田中 茂様とのお付き合いで、省エネナビによる家庭の省エネや自然観察などで、度々、朝早くから電話をいただき2時間も話した事。

EC千葉の初代代表であった小角 浩様は、環境省のご出身で環境に詳しく、年齢も一回りぐらい違う大先輩で、同じ袖ヶ浦市で自宅も近く、ご自宅に訪れると「まあ上がれ」と招かれ、別府の定期船で見初められた奥様も同席で、自然観察会で撮影されたビデオを見せながらいろいろな思い出や参考になるお話をいただきました。

奥様がお亡くなりになって、カーフェリーでお遍路に四国に行くと話され、私も家族と紀州に旅すると話し、後日、私が白浜の露天風呂から出ると、携帯電話で、沖合をフェリーで通過中と知らされ、沖を見ると遠くにフェリーが見えて感激の通話ができ、後日、小角様とどこかでつながっているのだと話しました。

自然観察会で昭和の森公園に行き、その坂上に露頭があり、「ここから東京湾に向けて13度の角度で地層が下りており、この水がそれに沿って長い時間をかけて流れる」と、工業技術院地質調査所のご出身の品田 芳二郎様から教えていただき、帰宅して地図を取り出し、現役の時、市原市の勤務先で480mの井戸を掘り、そこからの水をおいしく飲んだのを思い出し、距離、角度からしてぴったりで、目に見えないことを教えていただいたことは感激でした。

県外の自然観察会でもご夫婦同伴で、家族ぐるみでお付き合いをさせていただいていた阿部 邦夫様は、退職後も海外に出かけて環境保全に尽力されていて、ある時、マケドニアから入手された「甘長」の種子をいただきました。それを育ててみると京都名産の甘長より長く、味もそれ以上で、今でもその種子を採取し大事に育てています。

県外の自然観察会では、見学先などの選定や当日の行動は、小角 浩様にお願ひし、参加者募集や会計は、林 正徳様が目立たない役割をしていただきました。あるとき、林様がドライブインのトイレに財布をお忘れになり、普段でも物静かな態度なのに、その時の落ち込みようは本当にあわれとしか言いいようがないものでしたが、無事、戻ってきたときのうれしそうなうお顔は、今でも思い出されます。

県外の自然観察会で蔵王や出羽三山に行ったとき、米沢市の上杉神社にて上杉鷹山公の銅像の前で、誰かが「二宮さんに似てる」と言い出し、日頃、ひょうきんな態度をとられたことのない二宮 恵様が、自らの扇子を取り出し、上杉鷹山公と同じポーズをとられて、写真撮影に応じられたのには、みんなで大笑しました。時々その写真を見て懐かしんでいます。



## 市民活動と環境カウンセラー

倉田 智子

EC登録は1996年だったが、活動基盤は1985年環境庁のサブレンジャー（自然観察指導員）、1991年からNHK学園の通信教育「自然観察講座」講師として自然に関わってきたことにさかのぼる。EC千葉発足時に入会、活動は1999年の東京電力柏崎原子力発電所見学会参加に始まった。

2000年、隣市である船橋市の環境調査に参加、河川（水生生物・湧水・水質を含む）を担当し、市域全域を廻ることができた。その際、戦前の放水路計画の痕跡が市内各所に残っていることを知った。20km<sup>2</sup>の市域に印旛沼・手賀沼・東京湾と水系が3つもある鎌ヶ谷市の特異な水環境（分水界）により川の面白さを知っていたため、流路全体の報告がないこの水路の歴史を追うことに迷いはなかった。しかし70年前の「利根川治水計画」を調べるには資料も情報も時間も不足で、会務を担っているだけでは現地調査さえ進まない。「10年記念誌」発行後、広報部長を辞することとなる。こうして『昭和放水路をたどる 利根川増補計画 利根川の水を東京湾へ』（崙書房）を2009年にまとめることができた。

並行してECU全国連合会によるエコリーダー公式テキスト『緑化エコリーダーになろう』（東京商工会議所編・中央経済社）と日本環境協会こども環境相談室有志による『子どものための環境用語事典』（汐文社）にも、分担執筆する機会に恵まれた。さらに2010年度、NHK教育テレビジョン（Eテレ）の環境教育番組（小4～6年）「ど～する？地球のあした」では、「生き物・自然」の質問回答を担当した。

2010、2011年のガラパゴス諸島で心掛けたのは、生きものを見つけること、見落とさないこと、名前は分からなければ特徴をつかむこと、似た仲間を思い起こすことであった。

ガラパゴスは動物ばかりに関心が寄せられ、植物は見向きもされないことに永らく不満を感じていた。そこで植物に重きを置いた本の発行を思いついた。世界遺産の地であっても、人の日常生活はあり、その中で文化、歴史を紡いでいく。この地で見聞きしたことを結び付け、考察し、その後の10年で、文献を漁り、情報に耳をそばだて、行きついた先は「動物も植物も双方あってこそその世界」であった。単なる旅行記ではない『環境カウンセラーのガラパゴス見聞録』（三省堂2022）を世に送り出すことができた。

環境カウンセラーであればこそ手掛けられたものがあり、ECUやEC千葉の仲間との出会いなしには成し遂げられなかったと思う。皆さまに感謝いたします。



ハコネコメツツジの仲間 ペルネチア

*Pernettya mucronata*（イサベラ島）



ウミイグアナ幼体

*Amblyrhynchus cristatus cristatus*（イサベラ島属島）

## 創立25周年に寄せて

綿貫 沢

まずは、当協議会創立25周年に祝意を申し上げます。この記念すべき年にEC千葉に在籍し、寄稿できる幸せをかみしめております。

さて、私が環境カウンセラーをめざした契機となったのは、以前当協議会の会員でおられました中庭先生の声掛けがあったことでした。また、カウンセラー資格を取得する際に地元の環境カウンセラー協議会との関連付けをしていた方が取得しやすいとの情報を入手したことでした。しかし、実際は当協議会との結びつきは、資格取得後になりました。

環境カウンセラーを目指す目的は、大儀として環境教育を通して持続可能な地域づくりに貢献することでした。そこで、3つの施策を掲げました。即ち、「①学校を地域のインテリジェント化として環境教育を推進する。②地域の環境を見直し、住民同士が協力する輪を広げていく。③持続可能な社会づくりには、生涯を通じて実践すること。」です。幸いにも2019年、市民部門に登録され、自然の流れで、その年に当協議会に入会しました。

入会后知ったのですが、必ずしも環境カウンセラーの資格は入会条件に該当しないことでした。そして、自然な流れで、抵抗なく環境学習センターに所属いたしました。

入会後の活動については、主に環境学習センター会議に参加し、相互研修（現在は、門戸を広げて、みんなのひろば）では、多くの知識を学びました。各会員がテーマを持って、話題提供し、自由な意見や考えが飛び交いました。また、各自の異なる視点や実際の生活のリアルの場が新鮮に映ったこともありました。一方、テーマについても環境に限らず、コロナ禍におけるオンライン授業の在り方や国際理解教育等幅広い分野まで含んでいました。この会議では、入会したなら、自分の達成目標である地球温暖化や食品ロス等の知識を深化することでしたが、会議のお陰で確実なものとしてより近づきました。自分自身も研修のセンター会議の講師を務めたこともあり、些少な期間でしたが副センター長を全うしたこともありました。自分自身の仕事の都合やコロナ禍も相まって次第に遠のいたことが未だに悔やまれます。

環境教育の根本である自然観察会の参加については、参加する機会が少なかったのは残念なことです。会員全員が総和になって参加協力すると思われる「エコメッセちば」には、自分としては、できる範囲で参加し、協力の一助をさせていただきました。

他方、目標の一つに、義務教育学校を始めとする他の教育関係団体との連携を図ることがあります。これについては、吉田理事長や佐藤ミヤ子センター長及び志澤副センター長に随行し、教員の研修施設である千葉県総合教育センターや千葉市教育委員会の訪問を通して、講師役務を獲得しました。

さらに、成田市や八街市のユネスコ協会を通して、研修会の講師の紹介及び仲介の役目を果たしました。現役の頃、全国小中学校環境教育研究会の会長を歴任していた関係で富里市に於いて開催された全国環境教育研究大会には、理事長はじめ多くの会員の皆様にご協力をいただきました。当日は、非常に寒い中でしたが、皆様の心温まる思いやりに感謝しています。

今後の課題として、地球温暖化や気候危機等の環境問題の知識をさらに確立することと、他の諸団体と連携を図り、学校におけるESDからSDGsへの推進を図ることです。

最後に新会員の拡大や会員の若返りへの願いを込めて、筆を置きます。

## 電磁調理器開発の成功を支えた3つの幸運

荒野 喆也

現在普及しつつある電磁調理器の原理は、無線電力伝送方式によりコードレスで鍋が加熱調理される。これは、磁力線による誘導加熱現象を利用した初めての家電品で、現在、家庭に普及しつつある。これは原理的に初めての製品であり、かなり苦労したが、幸運にも恵まれて世界初の製品化に成功した。そしてさらに、この原理を利用した夢の技術分野にも触れてみたい。

### 1. 調理器開発途上でのめぐり逢い

#### 1.1 第一の幸運: 手作り試作品との幸運な出会い

在職時代に、米国1か月の研修旅行中、フロリダ宇宙センター近くの、あるデベロッパーの技術館「未来の家」を訪れた。当日は休日、管理人不在のまま勝手に入り、テーブル上の、コードレスで加熱している調理器の手作りモデルを見て驚いた。説明員も不在で、コードレスで鍋が加熱する原理がわからぬままに帰国し、社内外の専門の識者にも聞いたが、誰も信じてくれなかった。しかし、この出会いを大切に、更に追い求め続けた。



#### 1.2 第二の幸運: 加熱原理の解明

当時米国 IBM 社が、最新鋭の計算機 IBM360 の日本でのデモを計画し、わが社の研究所員も偶然参加し、誘導電動機究極の効率化シミュレーションをトライした。そしてコードレス調理器の話思い出、面白半分電動機効率が最高の誘導電動機の代わりに熱ロス最大のシミュレーションをトライしてみたら、熱効率 97%以上の加熱器が理論上出来上がった。これはコードの代わりに磁力線利用で加熱することになり、加熱調理器の開発が開始された。ここでの遊び心のシミュレーションによる発見はまことに幸運であった。

#### 1.3 第三の幸運: 家庭における調理鍋の材質の変化

我々の開発の最中、米国 EOC 社が高周波電源使用の電磁調理器を特許申請し、日本の各社が検討し始めた。しかしこの技術は、原理上調理鍋の材質が磁性体に限られていた。我が国の家庭用鍋は当時、殆どアルミ製であり使用しにくかったため家庭での普及は難行した。しかし、2007年頃、米国から調理用アルミ鍋はアルツハイマー病との相関が高いというデマ情報が入り一時混乱したが、これを契機に我が国の調理鍋の材質は、調理器高級化の流れと共に鉄・ステンレス系の鍋も普及していった。

### 2. 電磁誘導現象の未来の夢

夢の一つはリニア新幹線の駆動原理である。新幹線の目標走行速度は、500Km/Hである。鉄道の場合、レールと車輪の摩擦で走れるのは300Km/H迄で、それ以上は磁気浮上走行となり、駆動電力は、架線からでなく電磁誘導方式となる。また、将来、電気自動車EVへの充電も、高速道路に電磁コイルを設置しておけば、EVの走行中充電ができ開発中である。

### 3. 理科支援員等配置事業の思い出

日本の理科教育レベルアップのために「理科支援員等特別事業」が2009年まで全国で実施されていて当事業に千葉県と東京都大田区の支援員として参加したが、多様なプログラムの中でも「電磁調理器」に関する加熱原理実験は、特に生徒に好評であった。そして、各地で巡回授業したが、その時、(故)小角代表から頂いたご支援を追悼の意味で今回寄稿させていただいた。また当電磁調理器は発明協会の「戦後日本のイノベーション100選」に世界を制覇したウォークマンなどと共に選ばれたイノベーションでもある。

## 一言メッセージ

(氏名五十音順)

青木 誠：

2005年に入会し、2007年、2008年に会計を担当して、それまで経験したことがなかった経理業務を経験させていただきました。また、EMS支援センターに所属し、ISO14001内部監査養成講座の講師を2013年から2023年迄11年間担当させていただきました。

このように貴重な体験させていただくにあたり、ご指導、ご協力をいただきました多くの方々に感謝いたします。

生野 宏：

電力卸会社で石炭火力発電と環境対策一筋の44年間でしたが、石炭が気候変動の元凶とされる今、会社員人生を否定された想いです。

一方、EC千葉では、地球温暖化対策センターにおいて、取り組み可能でかつ具体的な活動について考えていきたいと思えます。

井町 臣男：

会社勤めつとめを辞めて時間に余裕ができた2015年「EC千葉」に入会。今では、充実した日々を過ごすことができる大切な「居場所」となっています。

趣味の居場所もありますが、環境テーマに仲間と一緒に取り組む「居場所」があることは、とてもありがたいことです。

これからも動ける体力に合わせて参画していきたいと思っています。

大西 優子：

私は1999年に環境カウンセラーに「市民部門」で登録し、以来協議会には何一つお手伝いもできないままお世話になっています。

「ふなばし環境フェア」には、遠方から毎年出展参加下さり、地元船橋の会員として心から感謝申し上げます。

ボランティアで関わっている森は飛び交っていた鳥の種類も数も減り、ナラ枯れで大木を何本も伐採されました。植生にも変化があり、外来植物も勢力を広げつつあります。

準絶滅危惧種の「カザグルマ」の自生地保全のため「船橋のカザグルマをまもる会」を立ち上げ、近隣の小学校と保護増殖を図っており、2007年に市の花に制定されました。

地球温暖化問題も地球「沸騰」と言われるまでになり、被害の状況に胸をかきむしられる思いです。「知った」ら「実践」しようねと願いながら出前講座を行っています。

ボランティアができる環境を感謝し、少しでも長く活動を続けたいと思っています。

### 潟端 尊史：

環境カウンセラー千葉県協議会が 25 周年という素晴らしい節目を迎えられたこと、誠におめでとうございます。

また、微力ながらも協議会の一員として活動ができたことを大変嬉しく感じております。今後も協議会の活動を通して勉強させて頂きたいと思っておりますので、よろしく願い申し上げます。

### 國井 茂樹：

EC 千葉もはや 25 周年を迎え、先輩諸氏の情熱とご苦勞の賜物と思ひ会員の一人として感謝しています。

昨今の地球温暖化の課題などに代表される環境問題は、避けては通れぬ緊急課題となってきました。今一度これらの課題に対し EC 千葉として何ができるか、関係メンバーが頭をひねり知恵を出して取り組んでいくことが必要であると思ひます。子孫に恥ずかしくない環境を残すために。

例えば、環境問題の内容や対処方法などを特に若い世代に伝えていく伝道師的な活動は EC 千葉でも充分強化可能な活動だと思ひます。行政だけでは取組みが充分できないと思われるこのような課題を、関係メンバーで良く協議して今後の活動に役立てていきたいものです。

最後に EC 千葉の 25 周年を皆様と共に祝ひいたします。

### 國廣 隆紀：

石油会社で、燃料、潤滑油の開発など「油を売る」ために尽力したものの、それが負の遺産になることが明確になり、その報いのために温暖化対策などに取り組んで 25 年間、そのほとんどを EC 千葉で活動させていただきました。

2022 年は千葉県知事から、2023 年は環境大臣から表彰していただきました。身に余る光栄で会員各位をはじめ関係者のご指導、ご鞭撻に感謝を申し上げます。

### 久保田 隆：

EC 千葉で水環境の啓発活動に参加してから、この 20 年で環境への認識が大きく推移・変化しています。

これからも今の常識が非常識になることもあり得るので、より一層、勉強していきたいと思ひます。

## 熊田 成人：

NPO 法人環境カウンセラー千葉県協議会、設立 25 周年おめでとうございます。「地球沸騰」とも言われる中、EC 千葉の重要性はますます高まっているものと思います。

さて、熊田ですが、2016 年から EC 千葉のお仲間に加えさせて頂きました。

当初は自然観察会などにも参加し、ISO9001 に加えて、環境関係の知見・力量も向上させていきたいと考えていましたが、公的・私的業務の多忙化により、叶えられずにいます。

しかしながら、担当している ISO 9001:2015 の内部監査員養成講座では、多くの企業から繰り返し従業員を派遣頂いており、一応の効果を出せているものと考えています。

GX の重要性が叫ばれている昨今、EC 千葉の益々のご活躍とご発展をお祈り申し上げます。

## 倉田 智子：

「治まらぬ 地球の微熱 春憂ふ」 野口 久さんから頂戴した句です。

今年の暑さは異常に長く、秋の季語の立秋、処暑、白露を過ぎても、なお猛暑日を記録しました。「地球沸騰化の時代」に入った今、様々な手立てで沸騰化を少しでも阻止できたらいいですね。

1996 年から、私は自然と水環境のグループを主宰しています。佐藤満由美さん(故人)、長内悦子さん、水環境対策センターの久保田隆さんは鎌ヶ谷市北部公民館の講座で、ゲスト講師として水の分析を担当して下さいました。また長内さんには危険予知トレーナー制度をご紹介いただき、フィールドワークのみならず、日常生活にも大いに役立てています。ありがとうございました。

## 荒野 詰也

1996 年 9 月に環境省から「環境カウンセラー制度」の創設が発表された。これに関心を持ち早速詳細を聞きに環境省に出向いて聞いてみた。ところがこれは地方自治体別に運営するので県と相談してくれと言われ千葉県庁および神奈川県庁へ出かけてみたらいろいろ検討中であるとのことであった。

そこで(故)小角さんや千葉県技術士会(故)浜崎さん等と連絡を取り、急遽千葉市モノレール天台駅の近くの喫茶店に集まり、意見交換をした。

これが「環境カウンセラー千葉県協議会」の産声であった。

### 小林 亨：

2023年7月、国連のグテーレス事務総長は会見で「地球温暖化の時代は終わり、地球沸騰化の時代が到来した」と発言されました。我々も、沸騰するような猛暑を体感したことで、世界で温室効果ガス削減の機運はますます高まりそうです。ただし、このような猛暑を体験しても、「なぜそんな削減をしなければならないのか」という疑問を投げかける方々も多いのではないのでしょうか。

企業を含めた多くの方々が持つ疑問に答えられるように、EC千葉の会員として専門知識を深め、その知識を理解されやすい取組みとして広める等、地球環境の改善に寄与していきたいと思います。

### 捧 一夫：

25年前の設立時に、当時、環境アセスメントに関する団体でお付き合いのあった、亡くなられた小角さんのお誘いを受け入会しました。その後、転勤等の事情もあり、全く活動に参加できずにいました。ようやく時間を割ける状況となり昨年から参加させていただいています。これまで、EC千葉を発展させて頂いた諸先輩方に感謝するとともに、今後の活動に汗を流せればと思っています。

### 志澤 達司：

2013年3月、60歳で会社を退職し、その年の6月にEC千葉に入会して10年になりました。その間、南房総、大多喜町などの自然観察会に参加などを通して自然と親しみ、未来を担う子供たちと触れ合い現役時代とは違った体験ができました。

ISO 9001 内部監査員養成講座では、EC千葉の推薦で千葉商工会議所及び千葉県職業能力開発協会にて講師などの社会貢献をしてきました。今後とも少しでも社会貢献にお役に立つことができればと思います。

### 戸村 泰：

64才で現役をリタイヤーして今日まで20年強の間、EC千葉ともう1つのNPO法人環境ネットで活動してきました。その間、個人では出来ない活動や得がたい体験など本当に多くのことを吸収する事が出来、楽しい人生の後半となっています。EC千葉の繁栄を祈ります。

中嶋 滋：

建設会社に勤務して環境問題に積極的にとり組んで来た。環境問題と言うと公害問題や健康被害問題が主だった。しかし今は、地球温暖化・新エネルギー・再生可能エネルギー等を国民皆が率先して関わる喫緊の問題である。気候変動に対して誰かがやるのではなく率先して取り組まなければならない。日本赤十字社の看護師「川瀬佐知子」さんの言葉ではないが「悲劇の傍観者」であってはならない。

白井市・EC 千葉の先輩：辻川毅さんへのメッセージです。

辻川毅さんは白井市の地元と EC 千葉で本当に活躍されました。でもそのことを表に出さず淡々と実行され、本当に暖かいお人柄に触れて感銘を受けました。また笑顔も素敵で皆さんから愛されました。

一言メッセージで是非感謝を伝えたいと思います。“有難うございました”

中村 仁：

およそ 5 年前、うちエコ診断士を取得し、診断士として活動するために EC 千葉に入会しました。当時はどんな活動をしている団体か全く分かりませんでした。環境学習センターの活動に参加することで、うちエコ診断士としての活動だけでなく、「みんなのひろば」や自然観察会など有意義な活動を一緒に行うことができました。現在は環境カウンセラーではありませんが、今後は環境カウンセラーも取得し、さらに活動の幅を広げて行きたいと思います。

野口 久：

私と環境 ISO との出会いは、1992 年 6 月の頃である。当時ブラジルのリオデジャネイロで開催された地球サミットは、気候変動枠組み条約を始めアジェンダ 21 他を採択した。

当時某食品メーカーに勤務していた私の行動基盤は、このアジェンダ 21 の持続可能な自主行動計画に基づいている。以降 30 有余年、産官学民一体となった環境保護活動に参画し、多くの経験を通して色々学ばせて頂いた。

EC 千葉との関わりもその一つであり、EMS 支援センターに所属し ISO や EA21 の普及拡大事業に多少は貢献できたのではないかと考えている。この間お世話になった多くの方々に心からお礼を申し上げると共に、吉田理事長を中心に EC 千葉が益々繁栄され、社会に貢献されることを切に願っている。

橋本 正：

EC 千葉に所属したことにより、環境に関する多くの問題を知り、また見識の高い多くの人と巡り合い、自らを高める機会を得ています



### 服部 達雄：

25年を越える長い間、多くの方にお付き合いいただき深謝しております。この間、EC千葉の会計システムの作成、県補助事業の受託やEA21 地域事務局支援など、いろんな経験をして多くのことを学ばせていただきました。

その道の専門家であるEC千葉会員が説明役となった自然観察会はEC千葉だからこそのもので、なかでも故小角様と一泊旅行ができたことはかけがえのない経験でした。まだまだご一緒させていただくことを話し合っていたのに実現せずに終わってしまい大変に残念です。

### 森川 礼子：

環境カウンセラー千葉県協議会の25周年、おめでとうございます。

私は、「大多喜町の環境教育プログラム」の企画・開催スタッフとしての参加が中心になっています。千葉県唯一の水力発電を知り、大多喜地域の歴史や川や川辺に住む生きものなどにも興味、関心を持ちました。

環境教育プログラムの開催は夏。川のせせらぎとカジカガエルの美しい鳴き声は、暑さのなかに一時の清涼を感じさせてくれます。

素晴らしい環境の千葉を子や孫、その先まで残せるよう、これからもみなさんと一緒に活動していきたいと思います。

### 茂利 晃：

EC千葉が設立25周年を迎えられたことは、誠に嬉しいかぎりです。

私は、事業部の活動に長い間従事し、とくに通常総会と同時開催の環境セミナーや年度ごとの環境公開講座の講師選びや講演依頼に奔走したことが思い出されます。

環境カウンセラーの主要活動である企業の環境マネジメントシステムの普及啓発推進が重要と考え、現在のエコアクション21の制度立案の環境省への応募のための環境カウンセラー全国連合会のプロジェクトに、その役員ではないものの参加させていただき夜遅くまで議論させていただいたのも良い思い出です。

また、在住の佐倉市の子どもたちに環境出前講座で接したのも大きな財産です。

現在は、視力、体力が衰え文筆をとるのも不自由ですが、國廣様に筆記をお願いしました。

迫り来る気候変動による温暖化や自然災害もあり、ますますのEC千葉の発展を期待しています。

(口述筆記: 國廣 隆紀)

# 資料編

- ・ 役員・役職一覧

※1998～2008年度は「10年のあゆみ」より引用

- ・ 年表

※1998～2007年度は「10年のあゆみ」より引用

## 役員・役職一覧

## 平成10年度 1998.2.8 設立総会

運営委員	代表	小角 浩	運営委員	企画部長	田邊 敏雄
運営委員	副代表	神藤 賢	運営委員	企画部	有馬 富徳
運営委員	副代表	村上 利子	運営委員	企画部	田中 茂
運営委員	総務部長	籠谷 公男	運営委員	広報部長	佐藤 素子
運営委員	総務部	長沼 明	運営委員	広報部	大山長七郎
運営委員	総務部	品田芳二郎	運営委員	広報部	室中 善博
			監事		荒野 詰也
			監事		廣川 一男

## 平成11年度 1999.2.14 総会

運営委員	代表	小角 浩	運営委員	広報部長	佐藤 素子
運営委員	副代表	神藤 賢	運営委員	広報部副部長	大山長七郎
運営委員	副代表	村上 利子	運営委員	広報部副部長	室中 善博
運営委員	事務局長	籠谷 公男	運営委員	広報部副部長	辻川 毅
運営委員	事務局	小西由希子	運営委員	広報部副部長	田宮 克哉
運営委員	総務部長	品田芳二郎	運営委員	調査研究部長	田中 茂
運営委員	総務部副部長	長沼 明	運営委員	調査研究副部長	田窪 幸雄
運営委員	総務部副部長	鈴木 茂夫	運営委員	調査研究副部長	野口 康男
運営委員	企画部長	有馬 富徳	運営委員	調査研究副部長	林 正徳
運営委員	企画部副部長	田邊 俊雄	監事		荒野 詰也
運営委員	企画部副部長	土田 茂通	監事		廣川 一男
運営委員	企画部副部長	宮村 啓二			

## 平成12年度 2000.2.13 総会

	会長	村上 利子	運営委員	情報部長	有馬 富徳
運営委員	副会長	籠谷 公男	運営委員	情報副部長	辻川 毅
運営委員	副会長	有馬 富徳	運営委員	広報部長	佐藤 素子
運営委員	副会長	佐藤 素子	運営委員	広報副部長	大山長七郎
運営委員	事務局長	籠谷 公男	運営委員	広報副部長	室中 善博
運営委員	総務部長	長沼 明	運営委員	EMS支援センター長	林 正徳
運営委員	総務副部長	鈴木 茂夫	監事		品田芳二郎
運営委員	企画部長	野口 康男	監事		廣川 一男
運営委員	企画副部長	土田 茂通	顧問		小角 浩
運営委員	企画副部長	宮村 啓二	顧問		神藤 賢
運営委員	事業部長	田中 茂			
運営委員	事業副部長	麦野 裕			
運営委員	事業副部長	國廣 隆紀			
運営委員	情報副部長	荒野 詰也			

(注) 環境マネジメントシステム支援センターをEMS支援センターと略記する。

## 平成13年度 2001.2.11 総会

運営委員	会長	村上 利子	運営委員	事業部長	土田 茂通
運営委員	副会長	田中 茂	運営委員	事業部副部長	服部 達雄
運営委員	副会長	野口 康男	運営委員	事業部副部長	宮村 啓二
運営委員	副会長	國廣 隆紀	運営委員	EMS支援センター長	林 正徳
運営委員	総務部長	鈴木 茂夫	運営委員	地球温暖化防止センター長	荒野 詰也
運営委員	広報部長	國廣 隆紀	運営委員	廃棄物対策センター長	大山長七郎
運営委員	広報部副部長	丸島 忠夫	監事		品田芳二郎
運営委員	情報部長	野口 康男	監事		廣川 一男
			顧問		籠谷 公男

平成14年度 2002.2.23総会

運営委員	会長	村上 利子	運営委員	EMS支援センター長	二宮 恵
運営委員	副会長	國廣 隆紀	運営委員	地球温暖化防止センター長	辻川 毅
運営委員	副会長	土田 茂通	運営委員	廃棄物対策センター長	大山長七郎
運営委員	副会長	鈴木 茂夫	運営委員		荒野 詰也
運営委員	総務部長	鈴木 茂夫	運営委員		田中 茂
運営委員	総務部副部長	林 正徳	監事		品田芳二郎
運営委員	広報部長	國廣 隆紀	監事		廣川 一男
運営委員	(広報部副部長)	丸島 忠夫	顧問		小角 浩
運営委員	情報部長	國廣 隆紀	顧問		野口 康男
運営委員	事業部長	土田 茂通			
運営委員	(事業部副部長)	宮村 啓二			
運営委員	(事業部副部長)	藤田 忠宏			
運営委員	(事業部副部長)	服部 達雄			

平成15年度 2003.3.29設立総会 (第1回通常総会)

理事	理事長	土田 茂通	理事	EMS支援センター長	二宮 恵
理事	副理事長	藤田 忠宏		副センター長	林 正徳
理事	副理事長	國廣 隆紀	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	事務局長	戸村 泰	理事	副センター長	服部 達雄
理事	次長	河井 恵子	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	総務部長	丸島 忠夫	理事	環境学習センター長	倉田 智子
理事	副部長	鈴木 茂夫	理事	副センター長	田中 茂
理事	事業部長	茂利 晃	理事	参与(市民活動担当)	村上 利子
理事	副部長	宮村 啓二	監事		品田芳二郎
理事	広報部長	野口 久	監事		廣川 一男
	副部長	藤田 忠宏	顧問		小角 浩
理事	副部長	林 正徳	顧問		荒野 詰也
	情報部長	國廣 隆紀	顧問		有馬 富穂
			顧問		野口 康男

平成16年度 2004.6.6第2回通常総会

理事	理事長	土田 茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長(EC—Chiba担当)	國廣 隆紀	理事	副センター長	服部 達雄
理事	副理事長(ECU担当)	藤田 忠宏	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	事務局長	戸村 泰	理事	副センター長	石黒 忠
理事	事務局次長(主に理事会担当)	河井 恵子		環境学習センター長	林 正徳
理事	事務局次長(主に新事業担当)	古畑 義正	理事	副センター長	阿部 邦夫
	総務部長	戸村 泰	理事	市民活動担当	村上 利子
理事	副部長	吉海 照直	監事		品田芳二郎
	副部長	古畑 義正	監事		廣川 一男
理事	事業部長	茂利 晃	顧問		小角 浩
理事	広報部長(兼ECU担当)	本間 格	顧問		有馬 富穂
理事	副部長	倉田 智子	顧問		荒野 詰也
	情報部長	國廣 隆紀	顧問		鈴木 茂夫
理事	EMS支援センター長	二宮 恵	顧問		野口 康男
理事	副センター長	野口 久			
理事	副センター長	林 正徳			

## 平成17年度 2005.5.29第3回通常総会

理事	理事長	土田 茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長 (EC-Chiba担当)	國廣 隆紀		副センター長	服部 達雄
理事	副理事長 (ECU担当千葉代表)	戸村 泰	理事	副センター長	大木 久光
理事	事務局長	服部 達雄	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	次長	野口 康男	理事	副センター長	石黒 忠
理事	総務部長	古畑 義正		環境学習センター長	林 正徳
理事	副部長	種本 利治	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	副部長	吉海 照直	理事	副センター長	小野 鈴子
理事	事業部長	茂利 晃	監事		廣川 一男
	副部長	石黒 忠	監事		藤田 忠宏
理事	広報部長 (兼、ECU担当)	本間 格	監事		鈴木 茂夫
理事	副部長	倉田 智子	顧問		小角 浩
	情報部長	國廣 隆紀	顧問		村上 利子
理事	EMS支援センター長	二宮 恵	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	西田 啓作	顧問		有馬 富徳
理事	副センター長	林 正徳			

## 平成18年度 2006.5.28第4回通常総会

理事	理事長	土田 茂通	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長 (EC-Chiba担当)	國廣 隆紀		副センター長	服部 達雄
理事	副理事長 (ECU担当千葉代表)	戸村 泰	理事	副センター長	大木 久光
理事	事務局長	服部 達雄	理事	廃棄物対策センター長	大山長七郎
理事	次長	野口 康男	理事	副センター長	石黒 忠
理事	総務部長	古畑 義正		環境学習センター長	林 正徳
理事	副部長	種本 利治	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	副部長	吉海 照直	理事	副センター長	小野 鈴子
理事	事業部長	茂利 晃	監事		廣川 一男
	副部長	石黒 忠	監事		藤田 忠宏
理事	広報部長 (兼、ECU担当)	本間 格	監事		鈴木 茂夫
理事	副部長	倉田 智子	顧問		小角 浩
	情報部長	國廣 隆紀	顧問		村上 利子
理事	EMS支援センター長	二宮 恵	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	西田 啓作	顧問		有馬 富徳
理事	副センター長	林 正徳			

平成19年度 2007.5.27第5回通常総会

理事	理事長	戸村 泰	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長	國廣 隆紀		副センター長	服部 達雄
理事	副理事長	服部 達雄	理事	廃棄物対策センター長	石黒 忠
理事	副理事長	二宮 恵		副センター長	大山長七郎
	事務局長	服部 達雄		環境学習センター長	種本 利治
理事	次長	長谷川三喜雄	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	総務部長	古畑 義正	理事	副センター長	小野 鈴子
理事	副部長(会計)	青木 誠	理事	副センター長	中庭 武雄
理事	副部長	種本 利治		副センター長	林 正徳
	事業部長	古畑 義正	理事	相談役(兼、ECU担当)	土田 茂通
	副部長	長谷川三喜雄	監事		廣川 一男
	副部長	上口 清彦	監事		藤田 忠宏
	副部長	茂利 晃	監事		吉海 照直
理事	広報部長	倉田 智子	顧問	兼、ECU担当	小角 浩
理事	副部長	上口 清彦	顧問		荒野 喆也
理事	副部長兼、ECU担当	本間 格	顧問		有馬 富穂
	情報部長	國廣 隆紀		アドバイザー	大山長七郎
	副部長	有馬 富穂		アドバイザー	林 正徳
	EMS支援センター長	二宮 恵		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	西田 啓作		アドバイザー	大木 久光
理事	副センター長兼EA21地域事務局	野口 康男			
	副センター長	種本 利治			

平成20年度2008.5.25第6回通常総会

理事	理事長	戸村 泰	理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅
理事	副理事長	國廣 隆紀		副センター長	服部 達雄
理事	副理事長	服部 達雄	理事	廃棄物対策センター長	石黒 忠
理事	副理事長	茂利 晃		副センター長	大山長七郎
理事	副理事長	二宮 恵		環境学習センター長	種本 利治
	事務局長	服部 達雄	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	次長	長谷川三喜雄	理事	副センター長	小野 鈴子
理事	総務部長	古畑 義正	理事	副センター長	中庭 武雄
理事	副部長(会計)	青木 誠		副センター長	林 正徳
理事	副部長	種本 利治		水環境対策センター長	古畑 義正
	事業部長	茂利 晃		副センター長	上口 清彦
	副部長	長谷川三喜雄	理事	相談役(兼、ECU担当)	土田 茂通
理事	広報部長	倉田 智子	監事		廣川 一男
理事	副部長	上口 清彦	監事		藤田 忠宏
理事	副部長(兼、ECU担当)	本間 格	監事		吉海 照直
	情報部長	國廣 隆紀	顧問	兼、ECU担当	小角 浩
	副部長	有馬 富穂	顧問		荒野 喆也
	EMS支援センター長	二宮 恵	顧問		有馬 富穂
理事	副センター長	西田 啓作		アドバイザー	大山長七郎
理事	副センター長兼EA21地域事務局	野口 康男		アドバイザー	林 正徳
	副センター長	種本 利治		アドバイザー	小関 光二
				アドバイザー	大木 久光

## 平成21年度2009.5.24 第7回通常総会

理事	理事長	國廣 隆紀	理事	環境学習センター長	戸村 泰
理事	副理事長	戸村 泰	理事	副センター長	種本 利治
理事	副理事長	服部 達雄	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	副理事長	茂利 晃	理事	副センター長	中庭 武雄
理事	副理事長	二宮 恵	理事	副センター長	林 正徳
理事	事務局長	服部 達雄	理事	副センター長	山口 由富子
理事	次長	長谷川 三喜雄	理事	水環境対策センター長	古畑 義正
理事	総務部長	古畑 義正	理事	副センター長	上口 清彦
理事	副部長(会計)	宮田 勉	理事	副センター長	見並 勝佳
理事	副部長	青木 誠	理事	ECU 担当	土田 茂通
理事	事業部長	茂利 晃	理事	ECU 担当	小角 浩
理事	副部長	長谷川 三喜雄	理事	相談役	土田 茂通
理事	広報部長	國廣 隆紀	監事		廣川 一男
	副部長	佐藤 素子	監事		藤田 忠宏
理事	情報部長	野口 康男	監事		吉海 照直
	副部長	有馬 富徳	顧問		小角 浩
理事	EMS支援センター長	二宮 恵	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	種本 利治	顧問		有馬 富徳
理事	副センター長	西田 啓作		アドバイザー	大山 長七郎
理事	副センター長	青木 誠		アドバイザー	林 正徳
理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	本間 格
理事	副センター長	阿部 邦夫		アドバイザー	倉田 智子
理事	廃棄物対策センター長	石黒 忠		アドバイザー	小野 鈴子
	副センター長	大山 長七郎		アドバイザー	佐藤 素子

## 平成23年度2011.5.15 第9回通常総会

理事	理事長	國廣 隆紀	理事	環境学習センター長	中庭 武雄
理事	副理事長(環境学習)	戸村 泰	理事	副センター長	阿部 邦夫
理事	副理事長(事務総括)	服部 達雄	理事	副センター長	吉田 昌弘
理事	副理事長(事業総括)	茂利 晃	理事	副センター長	山口 由富子
理事	副理事長(EMS)	種本 利治	理事	水環境対策センター長	見並 勝佳
理事	副理事長(水環境)	古畑 義正	理事	副センター長	上口 清彦
理事	事務局長	服部 達雄	理事	浄化槽啓発特別プロジェクトリーダー	上口 清彦
理事	次長	長谷川 三喜雄		プロジェクトサブリーダー	久保田 隆
理事	総務部長	古畑 義正	理事	プロジェクトサブリーダー	見並 勝佳
理事	副部長(会計)	橋本 正	理事	生物多様性研究会長	鈴木 優子
理事	事業部長	茂利 晃	理事	研究会副会長	中庭 武雄
理事	副部長	長谷川 三喜雄	理事	EA21地域事務局担当	服部 達雄
理事	広報部長	國廣 隆紀	理事	相談役・ECU担当	土田 茂通
	副部長	佐藤 素子	監事		廣川 一男
理事	情報部長	服部 達雄	監事		吉海 照直
理事	副部長	有馬 富徳	顧問	ECU担当	小角 浩
理事	EMS支援センター長	種本 利治	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	宮田 勉	顧問		有馬 富徳
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		二宮 恵
理事	副センター長	青木 誠		アドバイザー	大山 長七郎
理事	副センター長	吉野 定治		アドバイザー	林 正徳
理事	副センター長	田 博秋		アドバイザー	小関 光二
理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅		アドバイザー	本間 格
理事	副センター長	吉田 昌弘		アドバイザー	倉田 智子
	廃棄物対策センター長	宮田 勉		アドバイザー	小野 鈴子
	副センター長	大山 長七郎		アドバイザー	佐藤 素子
				アドバイザー	西田 啓作
				アドバイザー	野口 久
				アドバイザー	野口 康男

平成25年度2013.5.26 第11回通常総会

理事	理事長	見並 勝佳	理事	生物多様性研究会長	見並 勝佳
理事	副理事長	種本 利治	理事	研究会副会長	鈴木 優子
理事	事務局長	服部 達雄	理事	特命担当	戸村 泰
理事	総務部長 (兼、会計担当)	橋本 正	理事	ECU担当	國廣 隆紀
理事	事業部長	茂利 晃	理事	ECU担当	二宮 恵
理事	副部長	宮田 勉	理事	EA21地域事務局担当	服部 達雄
理事	広報部長	國廣 隆紀	監事		吉海 照直
	副部長	佐藤 素子	監事		林 正徳
理事	情報部長	服部 達雄	顧問		小角 浩
	副部長	有馬 富徳	顧問		有馬 富徳
理事	EMS支援センター長	種本 利治	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	宮田 勉	顧問		二宮 恵
理事	副センター長	青木 誠	顧問		廣川 一男
理事	副センター長	吉野 定治	顧問		古畑 義正
	副センター長	田 博秋		アドバイザー	大山 長七郎
理事	地球温暖化対策センター長	橋本 正		アドバイザー	林 正徳
	副センター長	北落 謙太郎		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	辻川 毅		アドバイザー	本間 格
理事	廃棄物対策センター長	宮田 勉		アドバイザー	倉田 智子
	副センター長	船橋 孝之		アドバイザー	佐藤 素子
	環境学習センター長	中庭 武雄		アドバイザー	西田 啓作
理事	副センター長	吉田 昌弘		アドバイザー	野口 久
理事	水環境対策センター長	上口 清彦		アドバイザー	長谷川 三喜雄
	副センター長	久保田 隆		アドバイザー	山口 由富子
				アドバイザー	渡辺 忠明

平成27年度2015.5.17 第13回通常総会

理事	理事長	見並 勝佳	理事	生物多様性研究会長	見並 勝佳
理事	副理事長	上口 清彦	理事	研究会副会長	渡辺 忠明
理事	事務局長	服部 達雄	理事	ECU担当	國廣 隆紀
理事	総務部長 (兼、会計担当)	橋本 正	理事	EA21地域事務局担当	服部 達雄
理事	事業部長	橋本 正	監事		有馬 富徳
理事	副部長	茂利 晃	監事		戸村 泰
理事	広報部長	服部 達雄	顧問		小角 浩
理事	情報部長	服部 達雄	顧問		有馬 富徳
理事	EMS支援センター長	宮田 勉	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	種本 利治	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	田 博秋	顧問		廣川 一男
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		古畑 義正
理事	地球温暖化対策センター長	橋本 正	顧問		吉海 照直
理事	副センター長	辻川 毅	顧問		林 正徳
理事	副センター長	山本 忠	顧問		鈴木 優子
理事	廃棄物対策センター長	宮田 勉	顧問		青木 誠
	副センター長	船橋 孝之		アドバイザー	大山 長七郎
	副センター長	瀧端 尊史		アドバイザー	小関 光二
理事	環境学習センター長	吉田 昌弘		アドバイザー	本間 格
理事	副センター長	渡辺 忠明		アドバイザー	倉田 智子
理事	副センター長	志澤 達司		アドバイザー	佐藤 素子
理事	副センター長	佐藤 ミヤ子		アドバイザー	西田 啓作
理事	水環境対策センター長	上口 清彦		アドバイザー	野口 久
	副センター長	久保田 隆		アドバイザー	山口 由富子
	副センター長	櫻井 哲		アドバイザー	吉野 定治



平成29年度2017.5.21 第15回通常総会

理事	理事長	見並 勝佳		生物多様性研究会長	今期は休会
理事	副理事長	上口 清彦	理事	ECU担当	國廣 隆紀
理事	副理事長	吉田 昌弘	理事	ECU担当	笹木 勝利
理事	副理事長	松村 利治	理事	ECU担当	有馬 富徳
理事	20周年プロジェクト外委員会委員長	服部 達雄	理事	EA21地域事務局担当	服部 達雄
理事	事務局長	橋本 正	理事	特命担当理事	宮田 勉
理事	次長	服部 達雄	理事	エコ検定受験講座責任者	橋本 正
理事	総務部長	橋本 正	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	会計担当	橋本 正	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	事業部長	見並 勝佳	監事		有馬 富徳
理事	副部長	茂利 晃	監事		戸村 泰
	広報部長と情報部長空席	事務局で実務担当	顧問		小角 浩
理事	EMS支援センター長	松村 利治	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	青木 誠	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	田 博秋	顧問		廣川 一男
理事	地球温暖化対策センター長	辻川 毅	顧問		古畑 義正
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		吉海 照直
理事	廃棄物対策センター長	瀧端 尊史	顧問		林 正徳
理事	副センター長	船橋 孝之	顧問		鈴木 優子
理事	環境学習センター長	吉田 昌弘		アドバイザー	大山 長七郎
理事	副センター長	志澤 達司		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	佐藤 ミヤ子		アドバイザー	倉田 智子
理事	副センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	佐藤 素子
理事	水環境対策センター長	笹木 勝利		アドバイザー	野口 久
理事	副センター長	上口 清彦		アドバイザー	山口 由富子
理事	副センター長	久保田 隆		アドバイザー	吉野 定治
理事	副センター長	櫻井 哲		アドバイザー	古畑 義正

※2017年8月笹木勝利が退会し、水環境対策センター長に上口清彦が就任

令和元年度2019.5.19 第17回通常総会

理事	理事長	吉田 昌弘	理事	環境学習センター長	吉田 昌弘
理事	副理事長	上口 清彦	理事	副センター長	松村 利治
理事	副理事長	松村 利治	理事	副センター長(市民啓発G)	佐藤 ミヤ子
理事	副理事長	山畑 祐哉	理事	副センター長	志澤 達司
理事	事務局長	國井 茂樹	理事	副センター長	綿貫 沢
理事	次長	服部 達雄	理事	水環境対策センター長	上口 清彦
理事	総務部長	國井 茂樹	理事	副センター長	久保田 隆
理事	広報部長(兼)情報部長	見並 勝佳	理事	副センター長	井町 臣男
理事	副部長(HP担当)	秋葉 信夫	理事	ECU担当	橋本 正
理事	副部長(広報担当)	服部 達雄	理事	EA21地域事務局担当	服部 達雄
理事	事業部長	見並 勝佳	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	副部長(企画担当)	茂利 晃	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	副部長(エコ検定担当)	橋本 正	監事		有馬 富徳
理事	丸山川PJ担当	見並 勝佳	監事		戸村 泰
理事	大多喜町PJ担当	國廣 隆紀	顧問		土田 茂通
理事	EMS支援センター長	山畑 祐哉	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	青木 誠	顧問		廣川 一男
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		吉海 照直
理事	副センター長	濱中 道人		アドバイザー	倉田 智子
理事	地球温暖化対策センター長	國廣 隆紀		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	橋本 正		アドバイザー	佐藤 素子
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	辻川 毅
理事	副センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	野口 久
理事	廃棄物対策センター長	瀧端 尊史		アドバイザー	古畑 義正
理事	副センター長	船橋 孝之			
理事	副センター長	濱中 道人			

令和2年度2020.6.14 第18回通常総会

理事	理事長	吉田 昌弘	理事	廃棄物対策センター長	瀧端 尊史
理事	副理事長	上口 清彦	理事	副センター長	船橋 孝之
理事	副理事長	松村 利治	理事	副センター長	濱中 道人
理事	副理事長	山畑 祐哉	理事	環境学習センター長	吉田 昌弘
理事	事務局長	井町 臣男	理事	副センター長(市民啓発G)	佐藤 ミヤ子
理事	次長	服部 達雄	理事	副センター長	志澤 達司
理事	総務部長	松村 利治	理事	副センター長	綿貫 沢
理事	副部長(兼)経理担当	河井 恵子	理事	水環境対策センター長	上口 清彦
理事	広報部長(兼)情報部長	見並 勝佳	理事	副センター長	久保田 隆
理事	副部長(HP担当)	秋葉 信夫	理事	副センター長	井町 臣男
理事	副部長(広報担当)	服部 達雄	理事	ECU担当	橋本 正
理事	事業部長	見並 勝佳	理事	EA21事務局担当	服部 達雄
理事	副部長(企画担当)	茂利 晃	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	副部長(エコ検定担当)	橋本 正	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	丸山川PJ担当	見並 勝佳	監事		有馬 富徳
理事	大多喜町PJ担当	國廣 隆紀	監事		戸村 泰
理事	EMS支援センター長	山畑 祐哉	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	青木 誠	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		吉海 照直
理事	副センター長	濱中 道人		アドバイザー	倉田 智子
理事	地球温暖化対策センター長	國廣 隆紀		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	橋本 正		アドバイザー	佐藤 素子
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	辻川 毅
理事	副センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	野口 久
				アドバイザー	古畑 義正

令和3年度2021.5.30 第19回通常総会

理事	理事長	吉田 昌弘	理事	廃棄物対策センター長	瀧端 尊史
理事	副理事長	山畑 祐哉	理事	副センター長	國廣 隆紀
理事	副理事長	松村 利治	理事	副センター長	茂利 晃
理事	事務局長	井町 臣男	理事	環境学習センター長	佐藤 ミヤ子
理事	次長	服部 達雄	理事	副センター長	草野 信
理事	総務部長	松村 利治	理事	副センター長	中村 仁
理事	副部長(兼)経理担当	河井 恵子	理事	水環境対策センター長	吉田 昌弘
理事	広報部長(兼)情報部長	見並 勝佳	理事	副センター長	久保田 隆
理事	副部長(HP担当)	秋葉 信夫	理事	副センター長	井町 臣男
理事	副部長(広報担当)	服部 達雄	理事	ECU担当	橋本 正
理事	事業部長(兼丸山川PJ担当)	見並 勝佳	理事	EA21事務局担当	服部 達雄
理事	副部長(企画担当)	志澤 達司	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	副部長(エコメッセ担当)	橋本 正	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	副部長(大多喜町PJ担当)	國廣 隆紀	理事	副責任者	中村 仁
理事	EMS支援センター長	山畑 祐哉	監事		有馬 富徳
理事	副センター長	青木 誠	監事		戸村 泰
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	濱中 道人	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	小林 亨	顧問		上口 清彦
理事	地球温暖化対策センター長	橋本 正		アドバイザー	倉田 智子
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	佐藤 素子
理事	副センター長	國廣 隆紀		アドバイザー	辻川 毅
				アドバイザー	野口 久

## 令和4年度2022.5.22 第20回通常総会

理事	理事長	吉田 昌弘	理事	廃棄物対策センター長	瀧端 尊史
理事	副理事長	山畑 祐哉	理事	副センター長	國廣 隆紀
理事	副理事長	橋本 正	理事	副センター長	茂利 晃
理事	事務局長	井町 臣男	理事	環境学習センター長	佐藤 ミヤ子
理事	次長	服部 達雄	理事	副センター長	志澤 達司
理事	総務部長(兼)経理担当	河井 恵子	理事	副センター長	中村 仁
理事	副部長	小林 亨	理事	水環境対策センター長	井町 臣男
理事	広報部長(兼)情報部長	山畑 祐哉	理事	副センター長	久保田 隆
理事	副部長	服部 達雄	理事	副センター長	松村 利治
理事	副部長(HP担当)	秋葉 信夫	理事	ECU担当	阿部 勲夫
理事	副部長(HP補佐)	中村 仁	理事	ECU担当	吉田 昌弘
理事	事業部長(エコメッセ担当)	橋本 正	理事	EA21事務局担当	服部 達雄
理事	副部長	中嶋 滋	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	副部長(大多喜町PJ担当)	國廣 隆紀	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	副部長(副責任者(オンライン担当))	中村 仁	理事	副責任者(オンライン担当)	中村 仁
理事	EMS支援センター長	山畑 祐哉	監事		有馬 富穂
理事	副センター長	青木 誠	監事		戸村 泰
理事	副センター長	服部 達雄	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	濱中 道人	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	小林 亨	顧問		上口 清彦
理事	地球温暖化対策センター長	橋本 正	顧問		倉田 智子
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	小関 光二
理事	副センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	佐藤 素子
理事	副センター長	國廣 隆紀		アドバイザー	野口 久
理事	副センター長	生野 宏		アドバイザー	

## 令和5年度2023.5.21 第21回通常総会

理事	理事長	吉田 昌弘	理事	廃棄物対策センター長	中嶋 滋
理事	副理事長	山畑 祐哉	理事	副センター長	瀧端 尊史
理事	副理事長	佐藤 ミヤ子	理事	副センター長	國廣 隆紀
理事	副理事長	河井 恵子	理事	環境学習センター長	佐藤 ミヤ子
理事	事務局長	井町 臣男	理事	副センター長	捧 一夫
理事	次長	服部 達雄	理事	副センター長	中村 仁
理事	総務部長	河井 恵子	理事	副センター長	志澤 達司
理事	副部長(兼)経理担当	小林 亨	理事	水環境対策センター長	井町 臣男
理事	広報部長(兼)情報部長	山畑 祐哉	理事	副センター長	久保田 隆
理事	副部長	服部 達雄	理事	副センター長	捧 一夫
理事	副部長(HP担当)	有馬 富穂	理事	ECU担当	吉田 昌弘
理事	副部長(HP担当)	秋葉 信夫	理事	EA21事務局担当	服部 達雄
理事	事業部長	佐藤 ミヤ子	理事	うちエコ診断実施機関責任者	吉田 昌弘
理事	副部長	河井 恵子	理事	副責任者	佐藤 ミヤ子
理事	副部長(大多喜町PJ担当)	國廣 隆紀	理事	副責任者(オンライン担当)	中村 仁
理事	EMS支援センター長	山畑 祐哉	監事		戸村 泰
理事	副センター長	青木 誠	監事		濱中 道人
理事	副センター長	橋本 正	顧問		荒野 喆也
理事	副センター長	國廣 隆紀	顧問		土田 茂通
理事	副センター長	小林 亨		アドバイザー	倉田 智子
理事	副センター長	服部 達雄		アドバイザー	佐藤 素子
理事	地球温暖化対策センター長	阿部 勲夫		アドバイザー	野口 久
理事	副センター長	橋本 正			
理事	副センター長	服部 達雄			
理事	副センター長	中嶋 滋			
理事	副センター長	生野 宏			

環境カウンセラー千葉県協議会年表

	組織・運営、外部関係	事業部関係	地球温暖化対策センター/環境学習センター	各地の環境イベントへの参加	環境マネジメントシステム支援センター関係
1998年度 平成10年度	EC千葉設立総会 ○運営体制：総会－運営委員会－監事 ○組織：代表、副代表 総務部、企画部、広報部	1998年2月8日 東京電力ホール			
	環境カウンセラー関東連絡会	第1回1998年5月14日 第2回1998年9月11日 第3回1999年1月29日	第1回研修会 1998年5月24日 東京電力千葉支店	「大気・水質汚染物質の測定技術について」(辻川毅) 「環境にやさしい、次世代のごみ処理技術について」(板谷真積)	第1回自然観察会 1998年10月18日 千葉市昭和の森
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第1号1998年5月10日 第2号1998年9月5日 第3号1998年12月25日	第2回研修会 1998年11月29日 東京電力千葉支店	「千葉県環境白書について」(千葉県環境部環境調整課) 「千葉県の河川・湖沼の水質汚濁を考える。」(村上利子) 「市民が市民をサポートすること」(小西由希子) 「千葉県のゴルフ場開発について」(田中茂)	
			第1回工場見学会 1998年12月2日 東電富津火力発電所 三井造船	三井造船(R21・廃棄物熱分解溶融システム)	
			第3回研修会 1999年2月14日 千葉・塚本ビル	「雨が降っても、風が吹いても、自然に感謝！」(市民部門高木文人) 「我が国における自然保護の歩み」(市民部門小角浩)	
1999年度 平成11年度	EC千葉第2回総会 (事務局および調査研究部会の設置)	1999年2月14日 千葉市塚本ビル	第4回講演会 1999年5月1日 TEPCO地球館	「産業廃棄物処理の課題について」(住友重機械・鶴谷泰二氏) 「フロン回収と処理状況について」(大山長七郎) 「千葉県のゴルフ場開発について」(田中茂) 「市民による環境測定活動」(佐藤素子)	第2回企業環境セミナー (共催行事)
	環境マネジメントシステム研究会 (調査研究部の中に設置)	第1回1999年4月25日 第2回1999年5月23日 第3回1999年7月4日	第1回夏季研修会 1999年7月31日、8月1日 さわやか県民プラザ	グループ討議内容： G1「環境ISO14001認証取得支援について」 G2「環境学習と啓発について」 G3「廃棄物と自治体への関わり方について」 G4「協議会の戦略と今後の進め方について」 G5「身近な環境問題を考える」	1998年10月2日 幕張・セイコーインスツルメンツビル
	環境マネジメント支援センターの発足 (環境マネジメントシステム研究会から改組)	1999年8月29日			
	環境マネジメントシステム支援センター設立総会 (登録者28名)	2000年2月6日 千葉中央コミュニティーセンター	第2回工場見学会 1999年9月21,22日 東電柏崎原子力発電所		
	環境学習研究会発足				
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第4号1999年4月4日 第5号1999年6月30日 第6号1999年9月25日 第7号1999年12月25日			
2000年度 平成12年度	EC千葉第3回総会 ○代表、副代表を会長、副会長に変更 ○事業部、情報部の設置 ○環境マネジメントシステム(EMS)支援センターをプロジェクトとして組織位置付け。	2000年2月13日 千葉中央コミュニティーセンター	第5回研修会 2000年2月13日 千葉中央コミュニティーセンター	「予算案から見た平成12年度環境行政の概要」(小角浩) 「地球温暖化防止と省エネ法改正のポイント」(神藤賢) 「環境庁指針に基づく地質地下水汚染の概要について」(品田芳二郎)	第2回企業環境セミナー 2000年10月20日 シャープ幕張ビル
	環境省の発足	2001年(平成13年)1月6日	第6回研修会 2000年5月14日 千葉中央コミュニティーセンター	「千葉県地球温暖化防止計画」(県環境部環境生活課副主幹高梨秀一氏) 「環境ホルモン分析の最新事情」(久本泰秀) 「生ゴミ減量の取り組み」(江口晴美)	第8回いちかわ環境フェア 2000年6月10～12日 ニッケコルトンプラザ
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第8号2000年3月31日 第9号2000年6月30日 第10号2000年9月30日 第11号2000年12月29日	第3回工場見学会 2000年7月6日 東浜リサイクルセンター	家電リサイクル工場	第3回企業環境セミナー 2000年10月20日 シャープ幕張ビル
			第2回夏季研修会 2000年8月19、20日 果休養ホーム「もとの荘」	(1)グループ討議「環境保全活動を考える。」 (2)見学等のオプション研修 ①こて橋廃棄物最終処分場の見学(第4回工場見学会) ②野鳥と谷津田の観察 ③木下層の地質観察と貝化石の採取	
			第4回工場見学会 2000年8月19日 丸徳興業	こて橋廃棄物最終処分場	
2001年度 平成13年度	EC千葉第4回定時総会 ○地球温暖化防止センター、廃棄物対策センターを新たなプロジェクトセンターとして設置。	2001年2月11日 千葉中央コミュニティーセンター	第7回環境セミナー 2001年2月11日 千葉中央コミュニティーセンター	(特別講演)「千葉県の産業廃棄物対策」(県環境生活部産業廃棄物課副主査 根本久美子氏) 「地球温暖化防止対策－省エネナビによる省エネルギーの啓発」(村上利子) 「ISO認証取得支援活動について」(林正徳)	第4回企業環境セミナー 2001年10月26日 シャープ幕張ビル
	「環境カウンセラー全国連合会」の設立	2001年9月8日 早稲田大学国際会議場	第5回施設見学会 2001年3月26日 大平興産	大塚山最終処分場	「ISO14001認証取得と環境経営」
	地球温暖化防止活動推進員制度の発足 (平成13年9月に公募開始)		第8回環境セミナー 2001年5月13日 千葉中央コミュニティーセンター	(特別講演)「千葉県における地球温暖化防止に関する取組について」(県環境生活部環境生活課政策室主幹兼室長 鶴巻成男氏) 「地球温暖化問題と解決の可能性」(荒野岳也) 「省エネナビの普及活動のさらなる展開」(林正徳) 「省エネに関する一考察」(土田茂通)	第4回企業環境セミナー 2001年10月26日 シャープ幕張ビル
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第12号2001年4月20日 第13号2001年8月5日	第3回夏季研修会 2001年8月26、28日 県環境研究センター	(講演)1.「千葉県の環境問題と環境研究センターの役割」(鎗田環境研究センター長) 2.「循環型社会を考える」(原環境研究センター廃棄物化学物質部長) (グループ討議)	第4回企業環境セミナー 2001年10月26日 シャープ幕張ビル
					第6回塚田環境フェア 2001年9月2日 船橋市塚田公民館
					千葉市消費生活展 2002年1月25、27日 千葉三越

2002年度 平成14年度	EC千葉定時総会	2002年2月23日 千葉大学西キャンパス	第9回環境セミナー	2002年2月24日 千葉大学西キャンパス	(特別講演)「環境問題とエネルギー問題の融和と新エネルギー」 (千葉大学工学部助教佐藤建吉氏)	第1回「環境学習協力フェスティバル21」	2002年2月17日 千葉市生涯学習センター ①深刻化する地球温暖化(荒野)②高等学校生物教諭(岩倉三好)③小学校教諭(今井美枝子)④日環協・環境指導員(林正徳)⑤省エネナビプロジェクト(村上利子)⑥プロジェクトワイルド(倉田智子)	東金市「アースセレブレーション2002」	2002年6月8日 東金文化会館	第5回企業環境セミナー	2002年10月25日 千葉商工会議所	「中小企業のISO効率的認証取得」
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第14号2002年1月6日 第15号2002年5月1日 第16号2002年8月10日 第17号2002年12月12日 第18号2002年3月10日	第10回環境セミナー	2002年5月12日 ばるるプラザCHIBA	メインテーマ「環境を考える」 (基調講演)「消費者運動から私ができるもの」(村上利子) (一般講演) 1.「高校の環境教育の実践」(岩倉三好) 2.「最近の環境学習(市川市の取り組み)」(松本孝) 3.「市民活動から考える環境学習」(大西優子)	第4回自然観察会	2002年10月6日 千葉市昭和の森	暮らしと環境を考えようin袖ヶ浦	2002年6月15日 袖ヶ浦市市民会館			
			第6回工場見学会	2002年7月11日 東電富津火力発電所他	TEPCO新エネルギーパーク 君津地域広域廃棄物処理施設(かずさクリーンシステム)	環境教育・環境学習指導者養成セミナー (環境カウンセラー全国連合会との共催)	2002年12月23日 千葉市生涯学習センター ①養成セミナー(先崎毅、富川昌美)②環境教育の進め方(倉田智子)③大気汚染の把握(横山新紀)④地球温暖化(秋元智子)⑤ゴミとリサイクルを考える(神崎広史)⑥おいしい水(河井恵子)⑦自然とのつながり(松山みよ子)	県環境研究センター「エコパーク2002」	2002年6月29日			
			第4回夏季研修会	2002年8月25、26日 国立環境研究所	(特別講演)「環境研究のこれから」(国立環境研究所合志理事長) (研究施設見学) (全員発表) 環境カウンセラーとしての最近の活動							
2003年度 平成15年度	環境カウンセラー千葉県協議会定時総会 (特定非営利活動法人化のために、これまでの任意団体としての環境カウンセラー千葉県協議会を解散。)	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	第11回環境セミナー	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	(総会特別講演)「やさしい燃料電池」(藤田忠宏)	第4回自然観察会	2003年5月18日昭和の森	東金市「アースセレブレーション2003」	2003年6月7日 東金文化会館	第6回企業環境セミナー	2003年10月17日 千葉商工会議所	「中小企業におけるISO14001の活用の仕方」
	特定非営利活動法人環境カウンセラー千葉県協議会設立総会 環境カウンセラー千葉県協議会平成15年度定時総会に続いて、特定非営利活動法人としての設立総会(設立趣旨書)。定款、運営細則の制定。理事18名、監事2名を新役員として選任。	2003年3月29日 ばるるプラザ千葉	第12回環境セミナー	2003年5月25日 県立中央博物館	(講演) 1.「里山に映る環境問題」(生態環境研究部長 中村俊彦氏) 2.「環境のための批判的教育」(環境教育研究科長 小川かほる氏)	双方向の体験学習	(1) 2003年4月20日 鎌ヶ谷市ホテルの里 (2) 2003年6月8日 八千代市保品野草園 (3) 2003年6月23日 柏市大堀川 (4) 2003年9月20日 船橋市豊富どんぐりの森	「暮らしと環境を考えようin袖ヶ浦」	2003年6月22日 袖ヶ浦市市民会館			
	環境カウンセラー全国連合会(ECU) NPO法人設立総会 (7月1日内閣府へNPO法人認証申請)	2003年6月13日	第7回工場見学会	2003年7月10日 新日鉄君津製鉄所	プラスチックリサイクル工場の見学			「白井市環境フォーラム」	2003年6月28日 白井市文化会館			
	(平成15年度千葉県NPO活動提案募集事業) 「地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会の開催」	5月23日事業提案応募 7月24日委託候補に決定 8月1日業務委託契約	第5回夏季研修会	2003年8月24、25日 ユートピア笠森	テーマ:「NPO法人としての今後の活動の活性化」 (講演)「NPO法人の今後の運営上の留意点について」 (県環境生活部NPO活動推進課長 森田昌雄氏) (ワークショップ討論)「NPO法人としての今後の活動の活性化」	地球温暖化防止活動推進員の養成・ブラッシュアップのための研修会	(佐原) 2003年11月15日、12月6日、2004年1月17日 (柏) 2003年11月21日、12月12日、2004年1月23日 (袖ヶ浦) 2003年11月27日、12月18日、2004年1月29日	「エコメッセちば2003」	2003年11月9日			
	EC千葉NPO法人認証	平成15年7月22日付千葉県知事認証	第8回工場見学会	2004年2月14日 香取市和郷園	循環型農業の畜・農産廃棄物の有効利用	(東京電力との協働事業-1)「地球温暖化対策学習会」(Part 1)	2004年1月25日 東京電力千葉支店					
	ECU関東連絡会 (関東連絡会を発展的解消し、関東ブロック協議会として発足。)	2003年6月6日(高崎) 2003年10月(東京)	第9回施設見学会	2004年3月23日 (株)ムラマツ	廃棄木材を原料に炭や活性炭を製造する設備	(東京電力との協働事業-2)「地球温暖化対策学習会」(Part 2)	2004年2月4日 東電千葉火力発電所					
	環境カウンセラー全国連合会(ECU)臨時総会 (平成15年10月1日内閣府認証を受けてNPO法人として発足。)	2003年12月9日 東京都北区滝野川会館				(東京電力との協働事業-3)「地球環境フォーラム千葉2004」	2004年2月27日 千葉市生涯学習センター					
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第19号2003年7月6日 第20号2003年9月19日 第21号2004年2月21日										
2004年度 平成16年度	EC千葉通常総会	2004年6月6日 千葉市市民会館	第13回環境セミナー	2004年6月6日 千葉市市民会館	(総会特別講演)「下水からの窒素、りん除去技術の変遷」 (日大理工学部教授田中和博氏)	環境カウンセラー全国連合会(ECU) 「介護施設における環境管理指導者養成講座」	2004年10月16~17日 東京都北区滝野川会館	「鎌ヶ谷市民環境展」	2004年6月8~18日 鎌ヶ谷市役所	第7回企業環境セミナー	2004年10月22日 千葉商工会議所	「中小企業の環境マネジメントシステムの構築」
	EC千葉事務処理要領の制定	2004年8月1日	第10回工場見学会	2004年7月20日 サッポロビール千葉工場	ビール工場の製造・環境対策施設	佐原市「子どもと一緒に環境学習の会」 (環境省関東地区環境対策調査官事務所主催)	2004年12月11日 佐原市中央公民館	東金市「アースセレブレーション2004」	2004年6月12日 東金文化会館			
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第22号2004年8月31日 第23号2004年12月1日	第6回秋季研修会	2004年11月28日 幕張OVTA	(講演)「環境教育推進法の基本方針について」 (環境省環境教育推進室 田島室長補佐) (ワークショップ討論)「新しい活動及び既存の活動の活性化」			「エコメッセちば2004」	2004年8月8日 幕張メッセ国際会議場			
								「第3回白井市環境フォーラム」	2004年10月10日 白井市文化会館			

	組織・運営、外部関係		事業部関係		地球温暖化対策センター/環境学習センター	各地の環境イベントへの参加	環境マネジメントシステム支援センター関係					
2005年度 平成17年度	EC千葉第3回通常総会	2005年5月29日 千葉市民会館	第14回環境セミナー	2005年5月29日 千葉市民会館	(総会特別講演)「バイオマス活用技術の動向と展望」 (独)農業工学研究所資源循環研究室長 柚山義人氏	「夏休み親子の環境学習会」 (千葉友の会行事の支)	千葉市環境フェスティバル	2005年6月3日	内部監査員養成講座	2005年5月26,27日 千葉商工会議所		
	EA21地域事務局の設立 (千葉県環境財団)	2005年4月1日 事務職員派遣の覚書締結	第1回環境公開講座	2005年7月23日 千葉市民会館	「水を貯える、水を育む」 (千葉大学園芸学部緑地環境学科教授 唐常源氏)		暮らしと環境を考えよう IN袖ヶ浦	2005年6月11日 袖ヶ浦市民会館	第1回中小企業環境セミナー	2005年8月26日 千葉商工会議所		
	県とNPOとの協働事業『中小企業向けの環境経営システム「エコアクション21」の普及事業』	7月5日事業提案 8月23日採択決定 9月22日業務委託契約	第11回工場見学会	2005年8月1日 キッコーマン野田工場	醤油工場の製造・環境対策施設	県立船橋北高校環境学習授業の実施	2005年10月27日 (8テーマでの講義と実習)	「鎌ヶ谷市民環境展」	2005年6月19～24日 鎌ヶ谷市役所	第8回企業環境セミナー	2005年10月21日 千葉商工会議所	激動の時代を環境経営で勝ち抜く方法「エコアクション21」に取組もう
	環境省地方環境事務所の設置	2005年10月1日	第2回環境公開講座	2005年9月17日 千葉市民会館	「スクラップ経済からストック経済へ」 (千葉県印旛地域整備センター用地課長 石渡正佳氏)		県立中央博物館 特別企画「ワクワクたいけん2005」	2005年7月～8月の4日 県立中央博物館	「千葉県環境経営セミナー」	2005年11月17日 プラザ葉の花	「ISO14001のゆくえ？」	
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第24号2005年4月1日 第25号2005年8月1日 第26号2005年11月1日 第27号2006年3月1日	第7回秋季研修会	2005年11月26日 幕張・OVTA	(講演)「環境教育についての現状と今後の方向」 (県立中央博物館環境教育研究科長 小川かほる氏) (実績報告)「環境教育・環境学習をどう進めるか」 <船橋北高校の環境学習の実績を振り返って>		「エコメッセちば2005」	2005年9月18日 幕張メッセ国際会議場	EA21普及セミナー	2005年12月2日:松戸 2005年12月14日:市川 2006年1月20日:佐原 2006年1月27日:君津	(千葉県等との共催) 「環境」で企業存続を図るため エコアクション21の認証・登録 (県とNPOとの協働事業)	
			第3回環境公開講座	2006年1月28日 千葉市民会館	「アスベスト問題にどう対処したらよいか」 (日本石綿協会処理部会長 平井良夫氏)		「白井市環境フォーラム」	2005年12月3日 白井市文化会館				
		第12回施設見学会	2006年2月18日 山田町「バイオマスプラント」	農業廃棄物のバイオマスエネルギー循環利用施設		東金市「アースセレブレーション2005」	2006年1月14日 東金文化会館					
2006年度 平成18年度	EC千葉第4回通常総会	2006年5月28日 千葉市民会館	第15回環境セミナー	2006年5月28日 千葉市民会館	(総会特別講演)「地球温暖化対策をめぐる課題と展望」 (埼玉環境科学国際センター長 須藤隆一氏)	第5回自然観察会	2006年7月3,4日 屋敷	「鎌ヶ谷市民環境展」	2006年6月18～23日 鎌ヶ谷市役所	EA21普及セミナー	2006年8月25日 千葉商工会議所	「エコアクション21」に取り組もう。
	平成18年度千葉県NPOパワーアップ補助金事業	5月15日応募書提出 6月24日審査会採択決定	第13回施設見学会	2006年9月8日 日本航空成田整備工場	航空機の整備および機体洗浄排水処理施設	県立船橋北高校環境学習授業の実施	2006年10月12日 (県NPOパワーアップ補助金事業)	「エコメッセ2006 in ちば」	2006年9月3日 幕張メッセ	EA21普及セミナー	2006年9月28日 千葉県産廃協会	産廃事業者向け「エコアクション21」に取り組もう。
	環境カウンセラー全国連合会(ECU) EC制度発足10周年及びECU設立5周年記念オープンフォーラム	2006年10月	第4回環境公開講座	2006年9月30日 千葉市民会館	「エネルギーと環境問題」(電力中央研究所理事 中岡 章氏)	第6回自然観察会	2006年12月9日 栗山川周辺	「環境シンポジウム2006千葉会議」	2006年9月24日 日本大学生産工学部	第9回企業環境セミナー	2006年10月20日 千葉商工会議所	「環境マネジメントから経営マネジメントへの転換」
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第28号2006年6月1日 第29号2006年10月1日 第30号2007年3月1日	第8回秋季研修会	2006年11月25日 幕張OVTA	(講演)「環境カウンセラーに期待すること」(環境省環境教育推進室 北次室長) (ワークショップ討論)「環境カウンセラーの今後のあり方とEC千葉県協議会のさらなる活性化」	見学会	2007年1月28日 県立中央博物館 「千葉の干潟展」	東金市「アースセレブレーション2006」	2007年1月20日 東金文化会館	EA21普及セミナー	2006年11月17日 柏商工会議所	「エコアクション21」に取り組もう。
			第14回施設見学会	2007年2月22日 石井食品八千代工場 八千代松陰学園	食品工場および学校の太陽光発電施設			「白井市環境フォーラム」	2007年1月27日 白井市文化会館	ISO14001内部監査員養成講座	2006年5月18,19日 2006年11月28,29日 千葉商工会議所	
			第5回環境公開講座	2007年3月25日 千葉市民会館	「身近な課題としてみる生物多様性について」 (市川市環境清掃部自然環境課副主幹 須藤 治氏)							
2007年度 平成19年度	第5回通常総会 (「アドバイザー制度」の導入)	2007年5月27日 千葉市民会館	第16回環境セミナー	2007年5月27日 千葉市民会館	(総会特別講演) 「自然環境保全と環境カウンセラー」 -美しい日本の自然保護に取り組んで半世紀- (小角浩)	第7回自然観察会	2007年4月15日 筑波山	2007ちば環境フェスティバル (ちばし手づくり環境博覧会)	2007年6月5日 千葉市文化センター	ISO14001内部監査員養成講座	2007年5月15,16日 2007年9月5,6日 千葉商工会議所	
	広報「環境カウンセラーちば」の発行	第31号2007年8月1日 第32号2007年12月1日	第15回施設見学会	2007年8月10日 宇宙航空研究開発機構	宇宙ロケットの開発・実験施設	「総合学習プログラム見本市」に参加	2007年8月7日 柏市民プラザ	「鎌ヶ谷市民手作り環境展」	2007年6月17～30日 鎌ヶ谷市生涯学習推進センター	ISO9001内部監査員養成講座	2007年6月21,22日 千葉商工会議所	
			第6回環境公開講座	2007年9月1日 千葉市民会館	「バーチャル・ウォーターをご存じですか？」 (千葉県環境研究センター室長 小食久子氏)	第8回自然観察会	2007年9月21～22日 上高地	「エコメッセ2007 in ちば」	2007年9月9日 幕張メッセ	EA21普及セミナー	2007年8月24日 千葉商工会議所	「エコアクション21」に取り組もう。
	平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業 「高校での環境学習授業」	5月15日応募書提出 7月20日交付決定	第9回秋季研修会	2007年10月10日 幕張・OVTA	(講演)「IPCC第4次報告と地球温暖化問題の現状と動向」(環境省地球環境局研究調査室 世一室長補佐) (グループ討議)「環境カウンセラー及びEC千葉県協議会として何をすべきか」	県立茂原高校環境科学特別授業 (テーマ:「廃棄物」、「水質測定」、「バイオマスの活用」)	2007年9月20,27日 2007年10月4,11日 2007年11月15,22日 (平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業)	「環境シンポジウム千葉会議2007」	2007年11月18日 千葉大学キャンパス	第10回企業環境セミナー	2007年10月19日 千葉商工会議所	「環境マネジメントシステムでの中小企業の生き残り作戦」
			第16回施設見学会	2008年1月22日 ちば野藪の里浄水場	活性炭およびオゾン処理などの水道の高度処理施設	東京学館浦安高校環境授業 (テーマ:「水環境」、「廃棄物」)	2007年10月6日 2007年10月20日 (平成19年度県NPOパワーアップ補助金事業)	「東金アースセレブレーション」	2008年1月26日 東金文化会館	ISO9001内部監査員養成講座	2007年11月29,30日 千葉商工会議所	
			第7回環境公開講座	2008年3月15日 千葉市民会館	「アジア・太平洋水サミットと開発途上国の水問題」 (千葉大学環境リポートセンシング研究センター教授 近藤明彦)	第9回自然観察会	2008年2月23日 芝浦工大柏中学・高校、 北千葉導水ビジターセンター	「千葉市民活動センターまつり」	2008年2月3日 千葉市民活動センター	ISO14001内部監査員養成講座	2008年1月29,30日 2008年6月19,20日	
								「第6回白井市環境フォーラム」	2008年2月9日 白井市文化会館	EA21普及セミナー	2008年2月18日 船橋商工会議所	「エコアクション21」に取り組もう。
								「G20ちば2008」記念事業	2008年3月8,9日 幕張メッセ国際会議場			

年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動
2008年度 平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第6回通常総会(5/25)</li> <li>○水環境対策センター設立</li> <li>○EC千葉設立10周年記念パーティー(5/24)</li> <li>○平成20年度千葉県とNPOとの協働事業提案</li> <li>「浄化槽使用者に対する水質保全に関する啓発教育の実施(水環境対策センター)」</li> <li>○千葉県委託事業受託「環境学習地域教材作成事業」(環境学習センター)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○県NPOパワーアップ補助金プロジェクト報告会(4/20)</li> <li>「EC千葉の成果」(戸村泰)</li> <li>○第17回環境セミナー 設立10周年特別講演会(5/25)</li> <li>「低炭素社会の構築に向けたロードマップ」</li> <li>((独)国立環境研究所 芦名秀一)</li> <li>○ちばし手づくり環境博覧会(6/5-10)</li> <li>○市原市タワセセミナーに出展(7/10)</li> <li>○エコメッセ2008inちばに出展(9/7)</li> <li>○日本科学未来館への施設見学会(9/12)</li> <li>○環境シンポジウム千葉に参加(10/25)</li> <li>講演「低炭素社会に向けた排出実態把握と地域の対策」(戸村泰)</li> <li>ポスターセッションに出展</li> <li>○第10回秋季研修会開催(11/22-23)</li> <li>OVTA(海浜幕張)</li> <li>「カーボンオフセットの活用」(環境省地球温暖化対策課 仲幸平技官)</li> <li>○第8回環境公開講座を開催(12/6)</li> <li>「水を知る-飲料水から超純水まで」(オルガノ開発センター 中村日出夫部長)</li> <li>○第2回福島第二原発見学会開催(2/24)</li> <li>○千葉市民活動フェアinきぼーるに出展(3/14-15)</li> <li>(野口康男)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報「環境カウンセラーちば」第33号発行(4/6)</li> <li>(倉田智子、本間格、上口清彦、二宮恵、松本源寿、佐藤素子)</li> <li>○広報「環境カウンセラーちば」第34号発行(8/1)</li> <li>(倉田智子、本間格、上口清彦、二宮恵、松本源寿、佐藤素子)</li> <li>○EC千葉10周年記念誌「環境保全活動10年のあゆみ」発行(7/10)</li> <li>(二宮恵、倉田智子、佐藤素子、本間格、上口清彦、松本源寿、戸村泰、土田茂通、野口康男、國廣隆紀)</li> <li>○広報「環境カウンセラーちば」第35号発行(3/1)</li> <li>(倉田智子、本間格、上口清彦、二宮恵、松本源寿、佐藤素子)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ISO内部監査員養成講座品質(5/20-21)、(9/25-26)、(1/29-30)</li> <li>環境(6/19-20)、(10/23-24)、(2/9-10)</li> <li>(野口久、西田啓作)</li> <li>○EA21普及セミナー(第1回)(8/22)</li> <li>千葉商工会議所</li> <li>基調講演、事例紹介及びシステム説明</li> <li>○第11回企業環境セミナー(10/17)</li> <li>「経営改善に役立つ環境マネジメントシステム」</li> <li>○EA21講習会</li> <li>山武市にて(11/1)</li> <li>(林正徳)</li> <li>○EA21普及セミナー(11/14)</li> <li>市川商工会議所</li> </ul>			<ul style="list-style-type: none"> <li>○東京学館浦安高校総合学習「エコライフ授業」(5/31、6/21)</li> <li>「廃棄物と不法投棄」(石黒忠)</li> <li>「水循環」(上口清彦)</li> <li>○第10回自然観察会(10/1-3)</li> <li>「十和田、八幡平」(小角浩、林正徳、中庭武雄、種本利治)</li> <li>○千葉県委託事業受託「環境学習地域教材作成事業」として</li> <li>東京学館浦安高校総合学習「エコライフ授業」(11/1及び11/29)</li> <li>「もったいないの心で廃棄物を見直そう」(石黒忠)</li> <li>「水循環」(上口清彦)</li> <li>「大気環境、大気の汚れ」(石黒忠)</li> <li>「水質とその測定」(上口清彦)</li> <li>○山武地区中学校技術科研修会に出前講座(11/13)</li> <li>「環境教育、省エネ、太陽光発電、バイオマス、水環境」(戸村泰、服部達雄、小関光二、阿部邦夫、見並勝佳)</li> <li>○千葉県環境教育研究会に参加し発表(2/8)</li> <li>「茂原高校で行った授業の体験から得たこと」(戸村泰)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力)(10/27-28)</li> <li>「自然環境と生物多様性」(小角浩、倉田智子)</li> <li>○エコリーダー公式テキスト「&lt;緑化&gt;エコリーダーになろう」(2/)</li> <li>(分担執筆:小角浩、倉田智子)</li> </ul>		
2009年度 平成21年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第7回通常総会(5/24)</li> <li>理事長:戸村泰から國廣隆紀に</li> <li>○EC千葉が「平成21年文化の日千葉県功労者表彰」を受ける(11/3)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○第18回環境セミナー(5/24)</li> <li>「地球温暖化について-北極海の現状」(海洋研究開発機構 菊地隆博士)</li> <li>○千葉県手づくり環境博覧会に出展(6/6-6/7)</li> <li>○エコメッセ2009 inちばに出展(9/6)</li> <li>○3R推進全国大会in千葉に参加(10/16-10/18)</li> <li>(戸村泰、野口康男、國廣隆紀)</li> <li>「ごみのリサイクル」展示(大山長七郎)</li> <li>○第11回秋季研修会(11/14-11/15)</li> <li>OVTA(海浜幕張)</li> <li>環境カウンセラーとして何をなすべきか「環境カウンセラーに期待すること」(環境省関東事務所 寺西武夫課長)</li> <li>○千葉市民活動フェア2009に出展(11/20-11/21)</li> <li>(戸村泰ほか)</li> <li>○第9回環境公開講座(1/31)</li> <li>「地球温暖化で何が起きるか、気象の問題」(銚子地方気象台:鈴木淳 総務課長)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○広報「環境カウンセラーちば」第36号発行(7/12)</li> <li>(國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)</li> <li>○広報「環境カウンセラーちば」第37号発行(11/8)</li> <li>(國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ISO内部監査員養成講座品質(6/25-26)、(9/17-18)</li> <li>環境(7/9-10)、(11/12-13)</li> <li>(野口久、西田啓作)</li> <li>○EA21普及セミナー(7/30)</li> <li>基調講演:(EA21中央事務局:森下研事務局長)</li> <li>事例紹介:(八千代市、流山市)</li> <li>システム説明:(西田啓作)</li> <li>○第12回企業環境セミナー(10/9)</li> <li>「ISO14001の有効性を高めるために」</li> <li>基調講演:(杉本公成)</li> <li>事例紹介:(㈱TOTOバスクリエイト、㈱アルファテック)</li> <li>システム説明:(山本光男、廣川一男)</li> <li>○EA21地域普及セミナー(2/26)</li> <li>松戸商工会議所で開催</li> <li>松戸市での活動紹介(土田茂通)</li> <li>事例紹介:(㈱ディグ、山本産業㈱)</li> <li>システム説明:青木 誠)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○千葉友の会 子どもひろば環境学習会への出前講座(6/13)</li> <li>「みんなで防ごう地球温暖化」(戸村泰、野口康男、林正徳、服部達雄、大山長七郎)</li> <li>○施設見学会(8/28)</li> <li>「㈱フジコーのバイオマス施設」(辻川毅、茂利晃)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○木更津高専 環境工学科への出張授業(7/23)</li> <li>「EC千葉の環境学習の実施例や教材について」(國廣隆紀)</li> <li>○南房総市民環境大学へ講師派遣(9/26-11/14)</li> <li>7回講座中、省エネ、水環境、太陽光発電、フードマイレージと地産地消の4講座を担当</li> <li>(林正徳、上口清彦、小関光二、小野鈴子)</li> <li>○県立茂原高校の環境科学の授業(9/15、9/29)</li> <li>「調べよう水の環境、生活排水の活性汚泥処理」(見並勝佳、上口清彦)</li> <li>○第4回自然観察会(9/28-29)</li> <li>「梅池・鬼押出し:梅池高原、白馬、川中島、鬼押出し、八ッ場ダム」(小角浩、中庭武雄、林正徳)</li> <li>○県立茂原高校の環境科学の授業(11/10、10/24)</li> <li>「シュロの植生と環境変化」(中庭武雄、山口由富子)</li> <li>○県立鎌ヶ谷西高校の環境科学の授業(11/25)</li> <li>「バイオマス、水の分析、食と温暖化、グリーンコンシューマーとマイバッグ製作」(阿部邦夫、服部達雄、長内悦子、久保田隆、長谷川三喜雄、小野鈴子、倉田智子、大西優子)</li> <li>○県内自然観察会(11/27)</li> <li>「東大の演習林などの房総丘陵の植生観察」(藤平武雄、吉田昌弘)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力)(9/26-27)</li> <li>「環境カウンセラーの活動と生物多様性について」(小角浩、倉田智子)</li> </ul>		



年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動
2010年度 平成22年度	○第8回通常総会(5/23) ○EC千葉が、環境大臣から「地域環境保全功労者」表彰を受ける(6/7)	○第19回環境セミナー(5/23) 「地球温暖化対策の動向とチャレンジ25」 (環境省地球環境局研究対策室 小野洋室長) ○千葉市手づくり環境博覧会に出展(6/5-6/11) ○エコメッセ2010inちばに出展(9/5) ○施設見学会(6/23) 「積水ハウス(株)関東工場及びゼロエミッションセンター」 建設廃棄物の100%リサイクル及びソーラーハウス ○第12回秋季研修会(11/13) 「生物多様性ちば県戦略」 (千葉県立中央博物館 中村俊彦副館長) EC千葉に「生物多様性研究会」を立上げ決定 ○第10回環境公開講座(1/22) 「南極から見た地球環境」 (朝日新聞科学医療グループ中山由美記者)	○広報「環境カウンセラーちば」第38号発行(5/9) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿) ○広報「環境カウンセラーちば」第39号発行(9/11) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/17-6/18)、(9/16-9/17) 環境(7/15-7/16)、(11/18-11/19)(野口久、西田啓作) ○EA21普及セミナー(7/30) 基調講演:(種本利治) 事例紹介:(株)サンコー、(株)ハートフル システム説明:(野口久、服部達雄) ○第13回企業環境セミナー(10/15) 「経営に役立つISO14001」 基調講演:(荒野 結也) 事例紹介:(広栄化学工業(株)、千葉オイレックス(株)) システム説明:(山本光男) ○EA21地域普及セミナー(11/19) 八千代市で開催 基調講演:「八千代市での活動紹介」(有馬富徳) 事例紹介:(有)池田鋼業、サニー工業(株) システム説明:(種本利治)	○浦安市公民館の小中学生対象出前講座(7/25) 「電気を大切に」 (種本利治)	○浦安市公民館の小中学生対象出前講座(7/25) 「ごみを減らそう」 (大山長七郎) ○環境省「NGO/NPO・企業環境政策提言」への応募 「飲料販売におけるマイボトルの推進」 (船橋孝之)	○木更津高専 環境工学科への出張授業(5/2) 「環境とまちづくり」 (國廣隆紀、吉田昌弘) ○第5回自然観察会(9/30-10/1) 「佐渡:両津、金北山、相川金山、トキ管理センター」 (小角浩、林正徳) ○南房総市民環境大学へ講師派遣(11/13) 「もったいないの心で廃棄物を見直そう」 (大山長七郎)	○浄化槽講習会 県主催に協力して10会場19回開催 (大網白里市、木更津市、市原市、銚子市、館山市、旭市、香取市、山武市、いすみ市、鋸南町)			○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (11/11-12) 「生物多様性の保全を考える」 (小角浩、佐藤素子)
2011年度 平成23年度	○第9回通常総会(5/15) ○生物多様性研究会設立(5/1) ○EC千葉が生活協同組合「ちばこープ地域輝き賞」を受ける(3/25) ○EC千葉が日本水環境学会関東支部から「水環境保全活動奨励賞」を受ける(6/24)	○第20回環境セミナー(5/15) 「水環境保全の新たな展開」 (東北大学 須藤隆一博士) ○第11回環境公開講座(8/27) 「日常のくらしと放射線」 (放射線医学総合研究所 武田志乃主任研究員) ○エコメッセ2011inちばに出展(9/4) ○第13回秋季研修会(11/12) 「EC千葉として再生可能エネルギーへの取組のワークショップ」 (環境省地球環境局地球温暖化対策課 工藤俊祐環境技官) ○千葉市市民活動フェアに出展(11/18-11/19) (戸村泰、服部達雄)	○広報「環境カウンセラーちば」第40号発行(8/7) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿) ○ホームページを一新(2/22) プロバイダーを変更しURLを変更(旧) <a href="http://www.005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/">http://www.005.upp.so-net.ne.jp/ec-chiba/</a> (新) <a href="http://ecchiba.sakura.ne.jp/">http://ecchiba.sakura.ne.jp/</a> (見並勝佳)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/16-17)、(9/15-16) 環境(7/17-18)、(11/24-25)(野口久、西田啓作) ○EA21普及セミナー(7/29) 基調講演:(青木誠) 事例紹介:(株)常磐植物化学研究所、(株)太平洋機工 システム説明:(服部達雄) ○第14回企業環境セミナー(10/14) 「ISO14001は良くても有効なシステム」 基調講演:(環境ISOシステム 市川昌彦代表) 事例紹介:(セイコーインスツル(株)、株)住化分析センター  ○EA21地域普及セミナー(12/16) 君津市で開催 (國廣隆紀、服部達雄)	○施設見学会(2/29) 千葉大学柏の葉キャンパス「太陽光利用型植物工場」	○施設見学会(10/20) (株)ハイパー・リサイクル、(株)グリーンサイクル 家電リサイクル ○環境省「NGO/NPO・企業環境政策提言」への応募 「中小事業者の環境負荷削減実績の効果的把握」 (宮田勉)	○木更津高専 環境工学科への出張授業(6/20) 「環境とまちづくり」 (戸村泰、阿部邦夫) ○南房総市民環境大学へ講師派遣 「生物多様性と川の自然度しらべ」 (9/17) (鈴木優子) 「身近にできるエコ活動」(10/15) (大西優子) 「加速させよう省エネ」(11/12) (林正徳) ○第6回自然観察会9/26-9/27) 「裏磐梯:猪苗代湖、五色沼、裏磐梯、会津若松、大内宿」 (小角浩、林正徳、中庭武雄)  ○県内自然観察会(3/24) 県立中央博物館「海の博物館」(勝浦市) (中庭武雄、吉田昌弘)	○浄化槽講習会 県主催に協力して5会場5回開催(10/1-1/30) (手賀沼、佐倉市、鎌ヶ谷市、鴨川市、市原市) (上口清彦、久保田隆)	○丸山川の生物多様性観察(8/1) 「丸山川の生きものしらべ」(第1回) (南房総市民環境保全課の協力) (鈴木優子、國廣隆紀、見並勝佳、吉田昌弘、佐藤素子) ○環境省「NGO/NPO・企業環境政策提言」への応募 「廃棄物最終処分場の再生と跡地の生物多様性を育む制度」 (鈴木優子)		○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (10/3-10/4) 「生物多様性保全活動推進法と環境カウンセラー」 (小角浩、倉田智子) 災害廃棄物処理 (西川光善) 新規EC研修 (中庭武雄) ○環境とエネルギー教育の指導者養成セミナー「新しい公共」としてローカルエネルギーの創造」に講師派遣(2/2) 「新しい公共」とはなにか」 (國廣隆紀)
2012年度 平成24年度	○第10回通常総会(5/27)	○第21回環境セミナー(5/27) 「再生可能エネルギー基盤の経済社会に向けて」 (千葉大学 倉阪秀史教授) ○エコメッセ2012inちばに出展(9/17) (茂利晃ほか) ○第14回秋季研修会(11/10) 「再生可能エネルギー、省エネの普及活動」 「環境戦略と今後の地球温暖化対策」 (環境省低炭素社会推進室 大川正人室長補佐)  ○千葉市民活力創造フェアに出展(11/17-11/18) (戸村泰、服部達雄)	○広報「環境カウンセラーちば」第41号発行(6/20) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿) ○広報「環境カウンセラーちば」第42号発行(9/7) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/14-15)、(9/13-14) 環境(7/12-13)、(11/15-16)(野口久、西田啓作) ○EA21普及セミナー(7/27) 基調講演:(國廣隆紀) 事例紹介:(千葉県解体工事業組合、学校法人有馬学園) システム説明:(服部達雄) ○EA21地域普及セミナー(9/20) 流山商工会議所と共催 基調講演:(清水一郎) 事例紹介:(東海相互サービス(株)、(株)初石飯金) ○EA21地域普及セミナー(10/3) 市原市で市原商工会議所と共催で開催 基調講演:(國廣隆紀)  ○第15回企業環境セミナー(10/19) 「EMSのステップアップ活用」 基調講演:(吉野定治) 事例紹介:(株)リコー、(株)立産機システム ○EA21地域普及セミナー(11/16) 八千代市及び習志野市で開催 基調講演:(宮田勉) 事例紹介:(斎藤会計事務所、(株)シブオーレ) システム説明:	○施設見学会(2/22) (株)日立産機システム習志野事業所 エネルギー管理システムの優良工場受賞工場 ○袖ヶ浦市の環境学習講座に講師派遣(12/15) 「現在のエネルギー環境政策について」 (國廣隆紀)  ○県立泉高校の特別授業に講師派遣(12/18) 「私たちのくらしとエネルギー」 (國廣隆紀)	○南房総エコネットの勉強会の出前講座 「海辺のしらべ」及び「生物多様性地域連携法について」 (鈴木優子)  ○第7回自然観察会(7/18-7/20) 「出羽三山:蔵王、羽黒山、鶴岡、酒田、湯殿山、山寺、米沢、喜多方」 (小角浩、林正徳、中庭武雄) ○袖ヶ浦市の環境学習講座に講師派遣(10/25) 「フードマイレージと食料自給」 (國廣隆紀) ○市原市の市民環境大学いちはらに講師派遣(11/3) 基調講演「エネルギーと環境」 (辻川毅)  ○芝浦工大柏中等高等学校に講師派遣(12/4) 中学生に「身近な植物からの環境変化を考える」 (中庭武雄)	○浄化槽講習会(9/29-12/8) 県、浄化槽協会、環境保全センターの共催に協力して5会場5回開催 (一宮市、富津市、南房総市、旭市、山武市) (上口清彦、稲葉信克、見並勝佳、古畑義正、久保田隆)	○生物多様性研修会(5/6) 「千葉県の外来種」 (鈴木優子) ○県内自然観察会(6/24) 「房総の自然・小櫃川河口から東京湾に広がる盤洲干潟」 (吉田昌弘、木更津高専 湯谷賢太郎教授の協力) ○丸山川の生物多様性観察(7/29) 「丸山川の生きものしらべ」(第2回) (南房総エコネットに協力) (鈴木優子、國廣隆紀、見並勝佳、吉田昌弘)		○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (11/26-27) 生物多様性保全 (中庭武雄、鈴木優子)	



年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動	
2013年度 平成25年度	○第11回通常総会(5/26) 理事長:國廣隆紀から見並勝佳に 総会で、土田茂通元理事長講演 「EC千葉15年間の活動(継続と挑戦の時代)」	○施設見学会(5/22) 「復活工事中の大多喜町面白峡発電所」 (NPO法人サポート技術士センターと共に大多喜町担当者らと意見交換) (國廣隆紀) ○第22回環境セミナー(5/26) 「公害・環境の歴史と環境カウンセラー」 (小林料かながわ環境カウンセラー協議会理事) ○第12回環境公開講座(8/31) 「極地の氷から地球温暖化の将来を探る」 (国立極地研究所 藤井理行博士) ○エコメッセ2013inちばに出席(9/29) (茂利見ほか) ○千葉市市民活力創造フェアに出席(11/16-11/17) (戸村泰、服部達雄) ○第15回秋季研修会(11/23) 「地球温暖化対策、いかに活動にいかすか」 (山本忠)  ○施設見学会(11/29) 「地球磁場逆転地層(チバニアン)」 「復活工事中の大多喜町面白峡発電所」 (市原市在住の遠山あき様から養老川水系と面白峡発電の話をお聴く) (國廣隆紀、志澤達司)	○広報「環境カウンセラーちば」第43号発行(4/20) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿) ○広報「環境カウンセラーちば」第44号発行(9/14) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/13-14)、(9/12-13) 環境(7/11-12)、(11/14-15) (吉野定治、青木誠、西田啓作) ○EA21普及セミナー(7/26) 基調講演:(田博秋) 事例紹介:(齋藤会計事務所、大金鋼業㈱) システム説明:(服部達雄) ○第16回企業環境セミナー(10/18) 「ISO14001改定の動向」 基調講演:(日本適合性認定協会 森川高志氏) 講演:(荒野 詰也) 事例紹介:(リコージャパン㈱、千葉大学) ○EA21地域普及セミナー(11/19) 八千代商工会議所、習志野商工会議所と共催 基調講演:(服部達雄) 事例紹介:(八千代市、大金鋼業㈱) システム説明:(有馬富穂)				○木更津高専 環境工学科への出張授業(6/25) 「緑のカーテンで涼しいまちづくり」 (鈴木優子) ○第8回自然観察会(7/24-7/25) 「駒留湿原・尾瀬沼:駒留湿原、桧枝岐、沼山峠、尾瀬沼」 (渡辺忠明、林正徳、中庭武雄) ○船橋市公民館講座への講師派遣(11/12) 「地球温暖化の現状」 (山本忠) ○白井市市民大学校環境学習への講師派遣(12/20) ○白井市立七次台中学校への出張授業(1/17) 「地球温暖化」 (辻川毅) ○うらやす市民大学への講師派遣(1/25) 「地球温暖化問題」 (山本忠)	○浄化槽講習会(10/19-12/7) 県、浄化槽協会、環境保全センターの共催に協力して5会場5回開催 (大多喜町、成田市、多古町、袖ヶ浦市、市川市) (見並勝佳、古畑義正、久保田隆、上口清彦、西田啓作、稲葉信克、松村利治、久本泰秀)	○丸山川の生物多様性観察(7/28) 丸山川の生きものしらべ(第3回) (南房総エコネットに協力) (鈴木優子、國廣隆紀、見並勝佳、吉田昌弘、種本利治、山口由富子) ○うらやす市民大学への講師派遣(10/22) 「地球温暖化問題と生物多様性の危機」 (鈴木優子)		○ECU環境パートナーシッププラザ展示・ECU関東ブロック交流会 EC千葉が引き受け、国連大学ビルで開催 ・EC展示会(9/17-28) (國廣隆紀、二宮恵、倉田智子) ・各EC及び各協議会の活動紹介と交流(9/21) (東京、茨城、神奈川、千葉、福島から27名参加) (見並勝佳、國廣隆紀、二宮恵、倉田智子、茂利見、山本忠、土田茂通、服部達雄、古畑義正、橋本正、種本利治、宮田勉) ○第4回環境カウンセラー全国交流会(10/12) EC千葉が引き受け、千葉で開催(全国から76名参加) 基調講演:「昨今のエネルギー事情及び環境への取り組み」 (倉阪秀史教授) 講演:「千葉での再生可能エネルギーの普及活動」 (國廣隆紀)  ○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (10/15) (中庭武雄、宮田勉)
2014年度 平成26年度	○第12回通常総会(5/25) ○エコ検定受験対策講座の開催(千葉県初) ○環境大臣、文部科学大臣名で環境教育等支援団体として指定を受ける(9/22)	○第23回環境セミナー(5/25) 「地球温暖化リスクに関する最新の科学的知見」 (国立環境研究所 高橋潔主任研究員) ○第13回環境公開講座(8/23) 「ミンパチ大量死は警告する」 (元朝日新聞論説委員 岡田幹治氏) ○エコメッセ2014inちばに出席(9/23) (茂利見、宮田勉) ○第16回秋季研修会(11/15) 「今後のEC千葉の活動のためにかながわECの話をお聴く」 (かながわEC 木村信幸理事長)	○広報「環境カウンセラーちば」第45号発行(5/24) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿) ○広報「環境カウンセラーちば」第46号発行(11/9) (國廣隆紀、佐藤素子、二宮恵、松本源寿)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/12-6/13)、(9/18-9/19) 環境(7/14-7/15)、(11/17-11/18) (荒野 詰也、矢野和敏、吉野定治、長田彰、宮田勉、田博秋) ○EA21普及セミナー(7/25) 基調講演:(千葉県環境生活部 細野義博氏) 講演:(宮田勉) 事例紹介:(㈱徳倉、㈱ジェフォーレ) システム説明:(服部達雄) ○第17回企業環境セミナー(10/17) 「ISO14001パフォーマンスの向上と現状の課題」 基調講演:(長田彰) 講演:(有馬富穂) 事例紹介:(宮田鉄工㈱、大里綜合管理)	○施設見学会(6/5) 「船橋市西浦下水処理場の小委水力発電の実証実験」 (國廣隆紀) ○施設見学会(7/25) 「上総鶴舞ソーラーシェアリング」 (辻川毅)		○放送大学千葉学習センター講座(7/) 「エネルギーと環境」 (吉田昌弘) ○第9回自然観察会(9/2-9/3) 「富士北麓:河口湖、富士浅間神社、船津体内樹形、鳴沢氷穴、本栖湖、西湖、富士吉田、富士山奥庭、山中湖、忍野八海」 (小角浩、吉田昌弘) ○エコ検定受験対策講座 前期及び後期(9/ -11/ ) 「第17回エコ検定受験に向けて」 (前期:山本忠、見並勝佳、橋本後期:服部達雄、佐藤ミヤ子) ○日帰り自然観察会(3/22) 「皇居東御苑」 (渡辺忠明、吉田昌弘)	○浄化槽講習会(11/15-1/28) 県、浄化槽協会、環境保全センターの共催に協力して3会場3回開催 (東金市、野田市、山武市) (上口清彦、林正徳、久保田隆、野口久、稲葉信克、服部達雄)	○県内自然観察会(6/3) 「南房総市 丸養蜂場見学」 (環境公開講座に先立ち見学) (見並勝佳) ○丸山川の生物多様性観察(8/3) 丸山川の生きものしらべ(第4回) (南房総エコネットに協力) (見並勝佳ほか) ○うらやす市民大学への講師派遣(9/30-10/28) 「地球温暖化、化石と再生エネルギー」 (山本忠) 「生活に必要な食糧と水について」 (國廣隆紀) 「緑のカーテンで涼しいまちづくり」 (鈴木優子)		○ECU展示会(9/17-28) 会場:環境パートナーシッププラザ(渋谷区) (展示準備と撤収) (二宮恵、倉田智子) ○関東ブロック交流会(9/21) ○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (12/5) 「地球温暖化の専門研修」 (橋本正、二宮恵、北落謙太郎)	
2015年度 平成27年度	○第13回通常総会(5/17)	○第24回環境セミナー(5/17) 「地球化学的手法による火山噴火予知の可能性」 (東京工業大学 野上健治教授) ○エコメッセ2015inちばに出席(9/23) (橋本正、宮田勉) ○第17回秋季研修会(11/14) 「海洋の変化と気象くらしへの影響」 (東京管区気象台 片山恭男海洋情報調整官)	○広報「環境カウンセラーちば」第47号発行(9/1) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/18-19)、(9/17-18) 環境(7/13-14)、(10/8-9) (志澤達司、荒野詰也、青木誠、西田啓介) ○EA21普及セミナー(7/24) 基調講演:(八千代市 秋葉就一市長) 事例紹介:(㈱小見解体、誠和工業、司工業㈱) システム説明:(服部達雄) ○第18回企業環境セミナー(10/23) 「ISO14001及びISO9001の改正動向と対応」 講演:(長田彰、志澤達司) 事例紹介:(ガラスリソーシング㈱、㈱太陽堂印刷所) ○EA21審査人力量向上研修(1/30) 千葉地域事務局主催で、EC千葉が引き受け 千葉県教育財団で開催 基調講演:(千葉大学 倉阪秀史教授) 講演:(橋本正、志澤達司、長田彰)	○施設見学会(9/7) 「ソーラーシェアリングしろい富塚視察」 (農業と太陽光発電事業の両立) (辻川毅)		○白井市再生可能エネルギー協議会への講師派遣(5/24) 「長続きする省エネ(三日坊主の省エネ退散)」 (佐藤ミヤ子) ○エコ検定受験対策講座前期(5/7/ ) 「第18回エコ検定受験に向けて」 (山本忠、橋本正、佐藤ミヤ子) ○放送大学千葉学習センターへの講師派遣(7/ ) 「エネルギーと環境」 (吉田昌弘) ○自然観察会(9/2-9/3) 「富士南麓:柿田川遊水池、浅間大社、田貫湖、静岡県養鱒場、白糸の滝」 (渡辺忠明、小角浩、吉田昌弘) ○エコ検定受験対策講座後期(10/ ,11/ ) 「第18回エコ検定受験に向けて」 (山本忠、吉田昌弘、橋本正、佐藤ミヤ子) ○県内自然観察会(2/21) 「白井市七次川防災調整池のオオハクチョウ(渡来南限)の観察他」 (渡辺忠明、吉田昌弘、辻川毅)	○浄化槽講習会・キッコーマン 榎野田工場見学会 「醤油の生産と環境への取り組み」 (上口清彦) ○浄化槽講習会(11/7-1/28) 県、浄化槽協会、環境保全センター共催に協力して3会場3回開催 (白井市、東金市、山武市) (上口清彦、久保田隆、辻川毅、笹木勝利、松村利治、見並勝佳)		○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (12/2-3) 「地球温暖化の専門研修(ファシリテーターとして運営をサポート)」 (見並勝佳、橋本正)		

年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動	
2015年度 平成27年度							○エコ検定受験対策講座 「前期集中・直前講座(全4回)」 (山本忠、橋本正、佐藤ミヤ子ほか) 「後期集中・直前講座(全4回)」 (山本忠、橋本正、佐藤ミヤ子ほか)					
2016年度 平成28年度	○第14回通常総会(5/22) ○「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」として、環境省の認定を受ける(6/10) ○NPO法人福島環境カウンセラー協議会と交流(7/23-7/24) 「東日本大震災後の復旧、復興活動について」 (見並勝佳、戸村泰、服部達雄、宮田勉、橋本正、佐藤素子、中川文子)	○第25回環境セミナー(5/22) 「夢をつかむ力-ロボット研究の最前線」 (千葉工業大学 先川原正浩教授) ○第19回ふなばし環境フェアに出展(6/11) 「地球温暖化防止の啓発」 (見並勝佳ほか) ○エコメッセ2016inちばに出展(9/22) (うちエコ診断の紹介) (宮田勉ほか) ○かまがや環境フェアに出展(10/8) (呼気の二酸化炭素濃度測定体験) (見並勝佳、倉田智子) ○コープみらい秋まつりに出展(10/16) (二酸化炭素の燃焼実験ほか) (吉田昌弘、橋本正、宮田勉、佐藤ミヤ子)	○広報「環境カウンセラーちば」第48号発行(8/20) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーちば」第49号発行(10/25) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーちば」第50号発行(2/10) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/16-17)、(9/15-16)環境(7/11-12)、(10/6-7) (志澤達司、熊田成人、青木誠、長田彰、橋本正、田博秋) ○EA21普及セミナー(7/24) 基調講演:(千葉県環境生活部廃棄物指導課 江利角晃也課長) 事例紹介:(株)ガレージ藤枝、(有)四季コーポレーション) 講演:(橋本正) システム説明:(服部達雄) ○第19回企業環境セミナー(10/28) 「ISO14001の改正に伴う組織の対応」 講演:(株)パデセア 黒柳要次代表取締役) 事例紹介:(東京ガス(株)環境部、エム・エム・プラスチック(株))				○県内自然観察会(4/24) 「鎌ヶ谷市栗野地区公園の自然観察」 (絶滅危惧のキンランの観察、他) (渡辺忠明、吉田昌弘) ○エコ検定受験対策講座前期(6/7/7) 「第19回エコ検定受験に向けて」 (見並勝佳、吉田昌弘、宮田勉、服部達雄、橋本正、佐藤ミヤ子) ○放送大学千葉学習センターへの講師派遣(7/7) 「エネルギーと環境」 (吉田昌弘) ○第11回自然観察会(9/26-9/27) 「那須・塩原:那須平成の森、茶臼岳、那須、沼ッ原湿原、深山ダム、塩原」 (渡辺忠明、小角浩、吉田昌弘) ○エコ検定受験対策講座後期(11/7) 「第19回エコ検定受験に向けて」 (吉田昌弘、橋本正、服部達雄、宮田勉、佐藤ミヤ子)  ○コープみらい親子環境教室への講師派遣(11/26) 「食べ物から考える地球温暖化」 (佐藤ミヤ子) ○エコ検定受験対策講座「前期集中・直前講座(全4回)」 (見並勝佳、服部達雄、橋本正、宮田勉、吉田昌弘、佐藤ミヤ子) ○白井市再生可能エネルギー協議会への講師派遣(12/11) 「どちらを選ぶか、今、その選択が一人一人に委ねられています」 (佐藤ミヤ子)	○施設見学会(5/30) 「首都圏外郭放水路の視察」 (中川、大落古利根川、等中小河川の洪水を地下に取込み災害を防ぐ地下放水路) (上口清彦) ○浄化槽講習会(11/13-1/30) 県、浄化槽協会、環境保全センター共催に協力して3会場3回開催 (銚子市、木更津市、九十九里町) (久保田隆、松村利治、上口清彦、笹木勝利、櫻井哲、見並勝佳)	○丸山川の生物多様性観察(7/31) 丸山川の生きものしらべ(第6回) (南房総エコネットに協力) (見並勝佳、國廣隆紀、吉田昌弘、佐藤ミヤ子、志澤達司)	○「うちエコ診断実施機関EC千葉ネット」として環境省から認定を受ける(6/10) ○うちエコ診断を30件実施 主催:千葉市、白井市、JCCCA (佐藤ミヤ子) ○診断士登録時研修(7/27)	○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力)(11/30) 「地球温暖化の専門研修」 (橋本正、國廣隆紀、服部達雄、宮田勉、有馬富徳) ○福島原発事故現状の視察(12/12) (原発敷地内の除染・廃炉活動をバスで視察) (種本利治、井町臣男、橋本正)
2017年度 平成29年度	○第15回通常総会(5/21) ○「ちば環境学習応援団」として、千葉県から委嘱を受ける(9/25)	○第26回環境セミナー(5/21) 「地球温暖化の影響と最近の気候気象について」 (株)ウェザーニューズ'安部大介取締役) ○第20回ふなばし環境フェアに出展(6/10) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体験」 (見並勝佳、倉田智子ほか) ○第1回大多喜町環境教育プログラム(7/16) 「わくわく探検隊〜自然となかよし〜」 (國廣隆紀、森川礼子、志澤達司、松村利治、秋葉信夫) ○エコメッセ2017inちばに出展(10/9) 「呼気の二酸化炭素測定体験」 (見並勝佳、橋本正、服部達雄、茂利晃) 「うちエコ診断の実施と勧誘」 (佐藤ミヤ子、秋葉信夫、上口清彦、吉田昌弘)  ○かまがや環境フェアに出展(10/14) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体験」 (橋本正、服部達雄、倉田智子) ○第14回環境公開講座(1/27) 「増え続ける二酸化炭素濃度がもたらす二つの問題-温暖化と海洋の酸性化」 (国立環境研 野尻幸宏グループ長(弘前大教授)) 「地球温暖化対策を考える視点」 (橋本正)	○広報「環境カウンセラーちば」第51号発行(7/15) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーちば」第52号発行(12/20) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座品質(6/15-16)、(9/14-15)環境(7/10-11)、(10/5-6) (志澤達司、青木誠、橋本正、田博秋) ○EA21普及セミナー(7/21) 基調講演:(服部達雄) 事例紹介:(株)永光自動車工業、(株)千葉マツダ) システム説明:(戸村泰) ○第20回企業環境セミナー(10/27) 「ISO14001の改正版への対応と実践」 講演:(日本環境管理監査人協会 斎藤義孝理事) 事例紹介:(大平興産(株)、富士石油(株)袖ヶ浦製油所)			○施設見学会(8/29) エム・エム・プラスチック(株) (容器包装プラスチックリサイクル) (湯端専史、見並勝佳)	○エコ検定受験対策講座前期(6/7-7/7) 「第20回エコ検定受験に向けて」 (橋本正、見並勝佳、佐藤ミヤ子) ○放送大学千葉学習センターへの講師派遣(7/7) 「エネルギーと環境」 (吉田昌弘) ○コープみらい親子環境教室への講師派遣(7/23) 「毎日の食べ物はどこから来るの？」 (佐藤ミヤ子) ○第12回自然観察会(10/11-10/12) 「乗鞍岳周辺:番所大滝、善五郎の滝、三本滝、牛留の池、一ノ瀬園地、乗鞍高原、豊平、魔王岳、平湯大滝」 (小角浩、吉田昌弘、佐藤ミヤ子)  ○エコ検定受験対策講座後期(10/7-11/7) 「第20回エコ検定受験に向けて」 (橋本正、見並勝佳、服部達雄) ○八千代市環境政策課審査員研修会に講師派遣(1/11) 「地球温暖化防止 私たちができること」 (吉田昌弘)	○浄化槽講習会(11/11-11/25) 県、浄化槽協会、環境保全センター共催に協力して3会場3回開催 (野田市、匝瑳市、印西市) (上口清彦、久保田隆、松村利治)	○丸山川の生物多様性観察(8/6) 丸山川の生きものしらべ(第7回) (南房総エコネットに協力) (見並勝佳、國廣隆紀、服部達雄、橋本正、志澤達司)	○うちエコ診断を53件実施 主催:千葉市、白井市、野田市、八千代市、木更津市、JCCCA (佐藤ミヤ子、秋葉信夫) ○診断士登録時研修及びフォローアップ研修(4/9、4/16、4/22、7/1)	○化学物質リスクアセスメント初級講習会(開催協力)(7/11) (ECUで化学物質リスクアセスメントの人材養成事業を始めたので皮切りに千葉での開催を引き受け) (國廣隆紀、有馬富徳) ○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力)(10/23) 「地球温暖化の専門研修」 (橋本正、國廣隆紀、服部達雄、有馬富徳、戸村泰)

年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動
2018年度 平成30年度	○第16回通常総会(5/20) ○EC千葉20周年記念事業実施(5/21) (20年継続会員に感謝状贈呈、特別講演会)	○第27回環境セミナー(5/20) 「地質時代の日本の地名が刻まれるか、チバニアン」 (国立極地研究所 菅沼悠介博士) ○第21回ふなばし環境フェアに出展(6/23) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体験」 (見並勝佳ほか) ○第2回大多喜町環境教育プログラム(7/8) 「わくわく探検隊～自然となかよし～」 (國廣隆紀、森川礼子、志澤達司、綿貫沢、國井茂樹) ○エコメッセ2018inちばに出展(10/8) 「呼気の二酸化炭素測定体験」 (見並勝佳、吉田昌弘、橋本正、服部達雄、茂利晃、佐藤ミヤ子、綿貫沢、荒川勤)	○広報「環境カウンセラーちば」第53号発行(7/20) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーちば」第54号発行(3/10) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座環境(5/21-22)、(9/18-19) 品質(6/19-20)、(10/16-17) (青木誠、長田彰、橋本正、田博秋、志澤達司、熊田成人) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(7/5) 「環境監査員」 (長田彰) ○EA21普及セミナー(7/20) 基調講演:(檜崎誠治) 事例紹介:(アンザワ・ファインテック㈱、㈱タツノ化学) システム説明:(服部達雄) ○第21回企業環境セミナー(11/16) 「2015年版EMS/QMSの活用状況」 講演:(㈱日本環境認証機構 三浦和行研修部長) 事例紹介:(㈱三英、㈱クボタ京薬工場) ○EA21審査員力量向上研修会(1/21) 「2017年版ガイドラインに対応する審査員への期待と課題」 (千葉大学 倉坂秀史教授) 「EA21の審査に対する法規制の視点」 (橋本正)			○日帰り自然観察会(5/31) 「皇居東御苑の生物多様性」 (渡辺忠明、吉田昌弘、佐藤ミヤ子) ○(公社)日本技術士会千葉県支部CPD講習会への講師派遣(6/2) 「家庭部門におけるCO2排出削減の現状とうちエコ診断の果す役割」 (吉田昌弘、佐藤ミヤ子) ○佐倉市立志津小学校・中学校教員研修への講師派遣(8/22) 「地球温暖化」 (茂利晃) ○日帰り自然観察会(10/20) 「県立中央博物館(生態園)」 (多様な森林草地と動植物の生態) (由良浩氏、佐藤ミヤ子) ○印西市立立原小学校児童・教員研修に講師派遣(1/) 「地球温暖化」 (茂利晃)	○浄化槽講習会(10/13-11/7) 県、浄化槽協会、環境保全センター共催に協力して3会場3回開催 (横芝光町、南房総市、東金市) (上口清彦、久保田隆、佐藤ミヤ子、久本泰秀、國井茂樹、松村利治)	○丸山川の生物多様性観察(8/5) 丸山川の生きものしらべ(第8回) (南房総エコネットに協力) (見並勝佳、國廣隆紀、吉田昌弘、服部達雄、佐藤ミヤ子)	○うちエコ診断を18件実施 主催:千葉市、白井市、木更津市 (佐藤ミヤ子、秋葉信夫、荒川勉) ○診断士登録時研修及びフォローアップ研修(2/9、7/2、10/30)	○環境カウンセラー関東ブロック研修会(開催協力) (1/15) 「地球温暖化の専門研修」 (橋本正、國廣隆紀、服部達雄、國井茂樹、志澤達司) ○EA21審査員力量向上研修会
2019年度 平成31年度 令和元年度	○第17回通常総会(5/19) 理事長:見並勝佳から吉田昌弘に	○第28回環境セミナー(5/19) 「地球温暖化と異常気象、我々はどう向き合うか」 (国立環境研 江守正多副センター長) ○第22回ふなばし環境フェアに出展(6/22) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体験」 (見並勝佳ほか) ○第3回大多喜町環境教育プログラム(7/21) 「わくわく探検隊～自然となかよし～」 (國廣隆紀、森川礼子、志澤達司、松村利治、國井茂樹) ○エコメッセ2019inちばに出展(10/20) 「呼気の二酸化炭素測定体験」 (橋本正ほか)	○広報「環境カウンセラーちば」第55号発行(6/25) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーちば」第56号発行(12/15) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座品質(5/21-22)、(10/5-6) 環境(6/14-15)、(9/18-19) (志澤達司、熊田成人、青木誠、長田彰、橋本正) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(7/4) 「環境」 (長田彰) ○EA21普及セミナー(7/17) 基調講演:(環境エネルギー政策研究所 松原弘直氏) 事例紹介:(トヨタ部品千葉共販㈱、八千代市) システム説明:(服部達雄) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(9/18-9/19) 「品質」 (志澤達司)  ○第22回企業環境セミナー(11/13) 「企業成長のための環境取組、SDGs」 講演:(ちばぎん総合研究所 下出直樹副部長) 事例紹介:(日刊工業新聞社第二産業部、TOTO㈱) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(1/22-1/23) 「品質」 (志澤達司)			○市原市辰巳公民館講座への講師派遣(4/6) 「日常生活から考える食品ロス」 (佐藤ミヤ子ほか) ○千葉県立柏井小学校講座への講師派遣(7/2) 「みんなで考えよう地球温暖化」 (佐藤ミヤ子ほか) ○茂原市役所リサイクル委員研修会への講師派遣(9/18) 「食品ロスとその影響」 (佐藤ミヤ子ほか) ○県内自然観察会(9/28) 「鶴原理想郷」 「海岸性植物と歴史～リアス式海岸と生きもの」 (佐藤ミヤ子) ○茂原市役所五郷地区リサイクル委員研修会への講師派遣(11/24) 「食品ロスとその影響」 (佐藤ミヤ子)  ○市原市生涯学習センター牛久ひまわりの会への講師派遣(12/5) 「地球温暖化ってなあに?今地球では何が起きている」 (佐藤ミヤ子) ○野田市関宿中央公民館講座への講師派遣(12/5) 「食品ロスとその影響」 (吉田昌弘ほか) ○成田ユネスコ協会への講師派遣(2/13) 「一緒に考えよう気候変動」 (佐藤ミヤ子)	○野田市水環境体験講座(8/31) (子どもから大人までに浄化槽などを知ってもらおう) (上口清彦、井町臣男) ○東金市 美しい作田川を守る会への出前講座(2/7) 「浄化槽の正しい理解」 (上口清彦、久保田隆、井町臣男)	○丸山川の生物多様性観察(8/4) 丸山川の生きものしらべ(第9回) (南房総エコネットに協力) (吉田昌弘、國廣隆紀、服部達雄、佐藤ミヤ子)	○うちエコ診断を17件実施 主催:千葉市、君津市 (佐藤ミヤ子、秋葉信夫、荒川勉、吉田篤志) ○診断士登録時研修及びフォローアップ研修(7/21、12/8)	

年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動
2020年度 令和2年度	○第18回通常総会(6/14) (新型コロナの感染防止のため書面評決としZoom会議で実施)	○千葉市生涯学習ボランティアフェアに出展(11/21-11/29) (佐藤ミヤ子)	○広報「環境カウンセラー」第57号発行(8/15) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座 環境(9/16-17)、(3/10-11) 品質(10/14-15)、(3/17-18) (志澤達司、熊田成人、青木誠、長田彰、橋本正) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(11/19) 「環境」 (長田彰) ○㈱日立製作所ヘルスケアビジネスユニットに講師派遣(7/8) 「ISO14001監査員養成講座」 (青木誠) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(9/15-16) 「品質」 (志澤達司)			○市原市姉崎公民館講座への講師派遣(8/20) 「地球温暖化対策～我々ができること」 (吉田昌弘) ○千葉市生涯学習センターミニ講座への講師派遣(11/5) 「コロナ禍に考える食品ロス」 (佐藤ミヤ子) ○成田市生涯大学院講座への講師派遣(11/14) 「進む気候変動、今や、気候危機」 (吉田昌弘ほか) ○市原市姉崎公民館講座への講師派遣(12/10) 「コロナ禍に考える食品ロス」 (佐藤ミヤ子)	○水環境体験教室(9/25) 市川市立宮田小学校 (上口清彦、久保田隆、井町臣男) ○水環境体験教室(11/16) 野田市立みずき小学校 (上口清彦、井町臣男) ○水環境体験教室(3/16) 市川市国府台小学校及び第一中学校 (上口清彦、井町臣男)		○うちエコ診断を13件実施 主催:浦安市 (吉田昌弘、中村仁、佐藤ミヤ子) ○診断士登録時研修及びフォローアップ研修(6/27、11/1)	
2021年度 令和3年度	○第19回通常総会(5/30) (新型コロナの感染防止のため書面評決としハイブリッド会議で実施) ○千葉県SDGsパートナーに登録(3/23)	○第24回ふなばし環境フェアに出展(6/26) 「呼吸の二酸化炭素濃度測定体験」 (見並勝佳、井町臣男ほか) ○第13回ふなばし市民活動フェアに出展(10/15-3/18) 「団体活動紹介」 (井町臣男) ○エコメッセ2021inちばに出展(10/) 動画制作「EC千葉の活動とうちエコ診断」 オンライン座談会「うちエコ診断で光熱費とCO2排出の両方をめざそう」 (吉田昌弘、中村仁、佐藤ミヤ子) ○木更津市オーガニックフェスティバルに出展(11/3) 「団体活動紹介」 (吉田昌弘、山畑裕哉、佐藤ミヤ子)	○広報「環境カウンセラー」第58号発行(6/15) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座 環境(6/16-17)、(10/13-14) 品質(7/14-15)、(11/24-25) (青木誠、小林亨、橋本正、志澤達司、熊田成人) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(7/8) 「環境」 (青木誠) ○EA21普及セミナー(9/15) 基調講演:(気候ネットワーク 平田仁子理事) 事例紹介:(㈱常磐植物化学研究所、㈱千葉マツダ) システム説明:(青木誠) ○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(9/16-17) 「品質」 (志澤達司)	○「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略勉強会」スタート		○長生村保健衛生協議会講座への講師派遣(7/10) 「台風15号・19号・東日本豪雨～これって地球温暖化の影響」 (佐藤ミヤ子) ○市原市辰巳公民館講座への講師派遣(9/26) 「台風15号・19号・東日本豪雨～これって地球温暖化の影響」 (佐藤ミヤ子ほか) ○成田市生涯大学院教養講座への講師派遣(11/1-2) 「プラスチックごみの行方～SDGs12,13,14,15～」 (佐藤ミヤ子) ○茂原市役所リサイクル委員研修会への講師派遣(11/19) 「レジ袋とエコバックから考える地球温暖化」 (佐藤ミヤ子)	○水環境体験教室(11/19) 白井市立桜台小学校 (上口清彦、久保田隆) ○水環境体験教室(11/26) 野田市立川間小学校 (上口清彦、松村利治) ○水環境体験教室(2/22) 市川市立宮田小学校 (久保田隆、上口清彦、井町臣男) ○水環境体験教室(3/11) 野田市立南部小学校 (上口清彦、松村利治、井町臣男)	○うちエコ診断を13件実施 主催:千葉市 (吉田昌弘、中村仁、佐藤ミヤ子) ○診断士登録時研修及びフォローアップ研修(5/5、6/5、6/12、7/11、7/18)		
				○千葉県職能開発協会ISO監査員養成講座に講師派遣(1/19-20) 「品質」 (志澤達司) ○第24回企業環境セミナー(12/8) 「ISOの運用でSDGs活動を推進しよう」 講演:(サステナビリティ・コンサルティング 猪狩正利代表取締役) 事例紹介:(千葉オイレッシュ㈱、㈱セイコインターナショナル㈱)			○木更津市役所地球温暖化対策庁内研修会への講師派遣(11/25) 「地球温暖化～気候変動から気候危機へ」 (吉田昌弘) ○木更津市西清川公民館講座への講師派遣(12/18) 「みんなで学ぶSDGs～環境問題を考える」 (吉田昌弘) ○かずさFMにて木更津市内小学校5年生に出前授業(1/) 「子どもサミットinきさらづ」 (佐藤ミヤ子) ○木更津市西清川公民館講座への講師派遣(1/22) 「身近な食品ロスの問題」 (佐藤ミヤ子ほか) ○かずさFMにて木更津市民に出前講座(1/) 「有機肥料・有機認証ほか」 (吉田昌弘)				

年度	事務局・総務部・対外関係	事業部	広報部、情報部	環境マネジメント支援センター	地球温暖化対策センター	廃棄物対策センター	環境学習センター	水環境対策センター	生物多様性研究会	うちエコ診断実施機関 EC千葉ネット	ECU(全国連合会)の活動
2022年度 令和4年度	○第20回通常総会(5/22) (新型コロナの感染防止のため 書面評決としハイブリッド会 議で実施)	○第25回ふなばし環境フェアに 出展(6/18) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体 験」 (井町臣男、吉田昌弘) ○第4回大多喜町環境教育プロ グラム(7/31) 「わくわく探検隊～自然となかよし ～」 (國廣隆紀、森川礼子、志澤達 司、國井茂樹、吉田昌弘、中嶋 滋) ○エコメッセ2022inちばに出展 (10/23) SDGsについてアンケートを行い 対話 うちエコ診断のデモ診断 (吉田昌弘、佐藤ミヤ子、綿貫沢 中村仁、井町臣男、河井恵子)	○広報「環境カウンセラーち ば」第59号発行(8/1) (服部達雄) ○広報「環境カウンセラーち ば」第60号発行(2/20) (國廣隆紀)	○ISO内部監査員養成講座 環境(6/22-23)、(11/8-9) 品質(6/30-7/1)、(11/29-30) (青木誠、小林亨、橋本正、志澤 達司、熊田成人) ○千葉県職能開発協会ISO監査 員養成講座に講師派遣(7/7) 「環境」 (青木誠) ○千葉県職能開発協会ISO監査 員養成講座に講師派遣(9/15- 9/16) 「品質」 (志澤達司) ○千葉県職能開発協会ISO監査 員養成講座に講師派遣(1/19- 1/20) 「品質」 (志澤達司)  ○EA21普及セミナー(8/30) 基調講演:(日本電気㈱ 小林憲 生氏) 事例紹介:(㈱エコエナジー・ ジャパン、㈱千葉スバル) システム説明:(青木誠) ○第25回企業環境セミナー (10/26) 「ISOの運用でSDGs活動を推進し よう」 講演:(㈱オフィスグラビティ 中川 優代表) 事例紹介:(進和建設㈱、ガラスリ ソーシング㈱)	○千葉県地球温暖化対策実 行計画(素案)に対して、EC 千葉としてパブリックコメントを 提出(2/28)		○成田市中央公民館「こどもセミ ナー」への講師派遣(3/26) 「成田の未来を考える 今地球が熱 い!」 (佐藤ミヤ子ほか) ○千葉県総合教育センター 新任 主任者研修(6/3) 「持続可能な社会の実現と環境教育 の現状」 (吉田昌弘) ○木更津市西清川公民館講座へ の講師派遣(9/10) 「食品ロス SDGs12と私たちの役 割」 (佐藤ミヤ子ほか) ○成田市生涯大学院教養講座へ の講師派遣(10/5-6) 「プラスチックゴミの行方」 (佐藤ミヤ子)  ○市原市役所職員研修会への講 師派遣(10/14) 「地球温暖化と対策～気候変動か ら気候危機へ～」 (吉田昌弘) ○千葉県総合教育センター高等学 校初任者研修への講師派遣 (11/8) 「SDGsを見据えた 教科横断的な 環境教育の推進」 (吉田昌弘) ○千葉市葛城公民館講座への講 師派遣(11/18) 「地球環境から考えるレジ袋の削 減」 (佐藤ミヤ子) ○県内自然観察会(11/26) 「松戸市 戸定が丘歴史公園、千葉 大園芸学部様式庭園」 (権一夫、中村仁、佐藤ミヤ子) ○木更津市子どもセミナーへの講 師派遣(1/15) 「海のみらい 木更津のみらいから環 境マークと3R」 (吉田昌弘ほか)  ○木更津市富来田公民館講座へ の講師派遣(2/4) 「クイズで考える地球温暖化」 (吉田昌弘) ○成田市中央公民館事業 子ども 環境セミナーに出前講座(2/26) 「地球温暖化対策」 (佐藤ミヤ子) ○八街ユネスコ協会で講演(3/14) 「食品ロスを取り巻くさまざまな周辺 状況」 (佐藤ミヤ子) ○木更津市富来田公民館講座へ の講師派遣(3/18) 「みんなで学ぶSDGs～食品ロスと 私たちの課題」 (佐藤ミヤ子ほか)	○水環境体験教室(1/30) 野田市立南部小学校 (井町臣男、上口清彦、久保 田隆) ○美しい作田川を守る会講 習会に講師派遣(2/2) 山武市役所会議室 「水環境を守る 身近なSDGs」 (井町臣男、久保田隆)		○うちエコ診断を19件実施 主催:千葉市、船橋市 (吉田昌弘、中村仁、佐藤ミ ヤ子) ○診断士フォローアップ研修 (6/11、7/2) ○第25回ふなばし環境フェア に出展(6/18) 船橋市支援事業「うちエコ診 断」紹介及び募集 (佐藤ミヤ子、中村仁)	
2023年度 令和5年度 (9月末まで)	○第21回通常総会(5/21) (新型コロナの感染防止のため 書面評決としハイブリッド会 議で実施)	○第29回環境セミナー(5/21) 「熱帯の海と異常気象」 (国立研究開発法人海洋研究開 発機構 山形俊男特任上席研究 員・東大名誉教授) ○第26回ふなばし環境フェアに 出展(6/24) 「呼気の二酸化炭素濃度測定体 験」 (井町臣男、吉田昌弘、権一夫、 佐藤ミヤ子) ○第5回大多喜町環境教育プロ グラム(8/6) わくわく探検隊～自然となかよし ～ (國廣隆紀、志澤達司、中嶋滋、 石松成子)	○広報「環境カウンセラーち ば」第61号発行(7/20) (服部達雄)	○ISO内部監査員養成講座 環境(6/14-15) (橋本正、小林亨) 品質(6/27-28) (志澤達司、熊田成人) ○千葉県職能開発協会ISO監査 員養成講座に講師派遣(7/5) 「環境」 (青木誠) ○EA21普及セミナー(8/30) 基調講演:(千葉大学大学院 社 会科学研究院 倉阪秀史教授) 事例紹介:(㈱永光自動車工業、 アシザワ・ファインテック) システム説明:(青木誠)			○市原市市津公民館講座への講 師派遣(4/12) 「化石資源と地球環境問題」 (吉田昌弘) ○千葉県総合教育センター 高等 学校初任者研修への講師派遣 (7/4) 「持続可能な社会の実現と環境教 育の現状」 (吉田昌弘)	○施設見学会(9/26) 「北千葉導水ビジターセン ター」 (治水、利水、浄水の役割を もった北千葉導水路) (井町臣男)		○うちエコ診断を2件実施 主催:千葉市 (佐藤ミヤ子、吉田昌弘) ○診断士フォローアップ研修 (7/1、7/23) ○第26回ふなばし環境フェア に出展(6/24) 「うちエコ診断」紹介及び募 集 (吉田昌弘、佐藤ミヤ子)	

## 【吉報】

2024年2月19日環境省通達により、EC千葉は「第6回環境カウンセラー環境保全活動表彰」において、総合環境政策統括官賞【自然共生社会貢献賞】（事業者部門）を受賞しました。

### ■受賞者紹介（環境省通達）

大多喜町と連携して「わくわく探検隊」を開催し、水辺の学習や水力発電所見学を行うほか、浄化槽講習会や「水環境体験教室」で南房総の豊かな自然と水環境の保全活動推進に取り組んでいる。

また、学校や自治体主催研修会等に講師を派遣するとともに、千葉県内の企業を対象とした環境セミナーを開催してSDGsの取組みを進めている。



☆ ☆ ☆

## 編集後記

1998年2月に環境カウンセラー千葉県協議会が設立され、5年後の2003年7月にNPO法人化されました。設立から25年を経て、ここに記念誌「環境保全活動 25年のあゆみ」を発行することができ、寄稿・投稿していただいた皆様と編集委員の協力に感謝します。

2008年に発行された「環境保全活動 10年のあゆみ」と同じ趣旨で編集することになり、名称も引き継ぎました。その後の15年間(2023年9月末まで)の各部・各センターの活動実績を中心に、会員の地域における自主的な環境保全活動についても投稿いただいて掲載しました。

各部・各センターの活動実績の記事のまとめ役を現在の各部長・センター長にお願いしましたが、15年間の振り返りは、執筆者の皆さんにとって就任以前の期間が長いがために、過去の広報誌や理事会議事録などの精査が必須で大変な苦労がありました。名称を「25年のあゆみ」としたために、さらにスタート当初の経緯を知るために遡る苦労もありました。

その結果、経緯・活動の全容が浮かび上がり、会員の皆さんは懐かしく振り返りのきっかけになることでしょう。

また、本誌が外部に対するイメージアップの役割も果たして、今後の環境保全活動のさらなる発展につながることを期待します。

編集委員 山畑 祐哉

## EC 千葉設立 25 周年記念誌 「25 年のあゆみ」

(発行日 2024 年 4 月吉日)

発行 : 特定非営利活動法人 環境カウンセラー千葉県協議会  
発行責任者 : 吉田 昌弘

URL : <https://ecchiba.sakura.ne.jp>

事務所 : 〒273-0047 千葉県船橋市藤原 6 丁目 1 番 7 号 井町臣男方  
Tel&Fax 047-429-6781

Email [ecchiba\\_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp](mailto:ecchiba_jimukyoku@ecchiba.sakura.ne.jp)

編集 : 青木誠、阿部勲夫、有馬富穂、井町臣男、瀧端尊史、河井恵子、  
國廣隆紀、倉田智子、荒野喆也、小林亨、佐藤ミヤ子、志澤達司、  
戸村泰、中嶋滋、橋本正、服部達雄、山畑祐哉、吉田昌弘  
(以上、編集委員 18 名および多数の会員)

[印刷 : (株)総合印刷新報社 船橋市高瀬町 32 番地]

(禁複写・転載)

NPO 法人  
環境のために千葉県協議会

**EC千葉**